

令和3年度第1回

新宿区

区政モニターアンケート報告書

- テーマ1 震災に備えて
- テーマ2 新型コロナウイルス感染症流行下の食生活について
- テーマ3 建築物上の緑化について
- テーマ4 男女共同参画に関する意識について



新宿区総合政策部区政情報課広聴係

目 次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 集計・分析結果を読む際の注意点.....	1
4 回答者の属性.....	2
II 調査の結果.....	5
テーマ1 震災に備えて.....	5
(1) 家屋の建築年・建築構造.....	5
(2) 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況.....	6
(3) 耐震診断の意向.....	8
(4) 耐震診断を受けない理由.....	10
(5) 耐震補強工事の意向.....	12
(6) 耐震補強工事を行っていない理由.....	14
(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向.....	17
(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由.....	19
(9) 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況.....	20
テーマ2 新型コロナウイルス感染症流行下の食生活について.....	22
(1) 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化.....	22
(2) 食事を用意（入手）する際、重視していること.....	33
(3) 野菜が多く食べられるレシピの紹介について.....	36
テーマ3 建築物上の緑化について.....	37
(1) 新宿で街かどの緑を増やすために有効な手法.....	37
(2) 建築物上（屋上や壁面、ベランダ等）の緑化.....	38
(3) 行いたい緑化.....	39
(4) 建築物上の緑化をするにあたり、難しいこと.....	40
(5) 屋上等緑化助成制度の認知状況.....	42
テーマ4 男女共同参画に関する意識について.....	43
(1) さまざまな分野での男女平等意識について.....	43
(2) 男女共同参画に関する言葉について.....	57
(3) 仕事と生活のバランスの満足度.....	58
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて.....	59
(5) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について.....	60
(6) DVだと思う行為について.....	63
(7) DVについての相談機関の窓口について.....	66

(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて.....	69
Ⅲ 資料（調査票）	71

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、今日的な区政課題への迅速な対応の検討や的確な事業執行を進める上での基礎資料とするため、区政モニターの方を対象にアンケート調査を実施し、今後の区政運営の参考とするものである。

2 調査の概要

《第1回》	調査対象	区政モニター 1,000名
	調査内容	テーマ1 震災に備えて
		テーマ2 新型コロナウイルス感染症流行下の食生活について
		テーマ3 建築物上の緑化について
		テーマ4 男女共同参画に関する意識について
	調査期間	令和3年7月26日～令和3年8月9日
	調査方法	郵送配布・郵送回収
回答数	901票（回収率 90.1%）	

3 集計・分析結果を読む際の注意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表している。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示している。
- 「MT」は、「Multiple Total」の略で、複数回答の合計数を示している。
- 回答はすべて百分率（%）で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、その数値の合計は100%を前後する場合がある。
- 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがある。
- 複数の選択肢をあわせた項目の構成比（%）は、その選択肢の選択者数を基数で除して算出している。そのため、各選択肢の構成比を足し上げた数値と差が生じることがある。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることを表す。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、本報告書では次の表現を用いる。

（例）	⇒	（表現）
80.1～80.9%	⇒	約8割
81.0～82.9%	⇒	8割強
83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	⇒	9割近く
89.0～89.9%	⇒	9割弱

I 調査の概要

○ライフステージの名称及び内容は、以下のとおりである。

独身期：40歳未満の独身者

家族形成期：子どものいない40歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人

家族成長前期：一番上の子どもが小・中学生の人

家族成長後期：一番上の子どもが高校・大学生の人

家族成熟期：64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人

(生計を別にした子どもがいる人を含む)

高齢期：65歳以上の人(生計を別にした子どもがいる人を含む)

その他：40歳から64歳の独身者、子どものいない40歳から64歳の夫婦など

4 回答者の属性

(1) 居住地域

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 四谷	128	14.2	6 戸塚	96	10.7
2 簗笥町	130	14.4	7 落合第一	94	10.4
3 榎町	86	9.5	8 落合第二	96	10.7
4 若松町	90	10.0	9 柏木	53	5.9
5 大久保	86	9.5	10 角筈・区役所	42	4.7
			計	901	100.0%

(2) 性別

選択肢	回答数	割合(%)
1 男性	371	41.2
2 女性	530	58.8
計	901	100.0%

(3) 年齢

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 18~19歳	8	0.9	8 50~54歳	87	9.7
2 20~24歳	26	2.9	9 55~59歳	78	8.7
3 25~29歳	28	3.1	10 60~64歳	65	7.2
4 30~34歳	71	7.9	11 65~69歳	60	6.7
5 35~39歳	78	8.7	12 70~74歳	79	8.8
6 40~44歳	99	11.0	13 75~79歳	45	5.0
7 45~49歳	116	12.9	14 80歳以上	61	6.8
			計	901	100.0%

(4) 職業

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 会社員・団体職員	353	39.2	5 学生	28	3.1
2 会社役員・団体役員	58	6.4	6 専業主婦・主夫	105	11.7
3 パート・アルバイト、 非常勤、嘱託、派遣など	118	13.1	7 無職	116	12.9
			8 その他	18	2.0
4 自営業、自由業	96	10.7	無回答	9	1.0
			計	901	100.0%

(5) 職場や学校の所在地

選択肢	回答数	割合(%)
1 新宿区内	230	35.2
2 新宿区外	423	64.8
無回答	0	0.0
計	653	100.0%

(6) 同居している家族等

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 子	364	40.4	6 兄弟姉妹	39	4.3
2 妻または夫	550	61.0	7 その他	27	3.0
3 親	106	11.8	8 ひとり暮らし	188	20.9
4 祖父母	10	1.1	無回答	9	1.0
5 孫	18	2.0	回答総計	1,311	145.5%
			計	901	100.0%

(7) 同居者数

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 1人	296	42.0	4 4人	31	4.4
2 2人	212	30.1	5 5人以上	22	3.1
3 3人	138	19.6	無回答	5	0.7
			計	704	100.0%

(8) 同居している子

選択肢	回答数	割合(%)	選択肢	回答数	割合(%)
1 一番上の子が小学校入学前	80	22.0	4 一番上の子が学校を卒業	91	25.0
2 一番上の子が小・中学生	102	28.0	無回答	21	5.8
3 一番上の子が高・大学生	70	19.2	計	364	100.0%

I 調査の概要

(9) 新宿区での居住年数

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 1年未満	1	0.1	5 10年以上20年未満	198	22.0
2 1年以上3年未満	83	9.2	6 20年以上30年未満	121	13.4
3 3年以上5年未満	88	9.8	7 30年以上	277	30.7
4 5年以上10年未満	127	14.1	無回答	6	0.7
			計	901	100.0%

(10) 住居形態

	選択肢	回答数	割合 (%)
一戸建て	1 持ち家の一戸建て	208	23.1
	2 賃貸の一戸建て	19	2.1
	3 社宅・公務員官舎の一戸建て	2	0.2
	4 その他	6	0.7
集合住宅	5 分譲マンション・アパート	295	32.7
	6 賃貸マンション・アパート	270	30.0
	7 賃貸のUR都市機構（旧公団）・公社のマンション・アパート	3	0.3
	8 賃貸の都営・区営住宅	30	3.3
	9 社宅・公務員官舎	30	3.3
	10 その他	7	0.8
	無回答	31	3.4
	計	901	100.0%

(11) ライフステージ

選択肢	回答数	割合 (%)	選択肢	回答数	割合 (%)
1 独身期	99	11.0	5 家族成熟期	38	4.2
2 家族形成期	118	13.1	6 高齢期	245	27.2
3 家族成長前期	101	11.2	7 その他	234	26.0
4 家族成長後期	66	7.3	計	901	100.0%

Ⅱ 調査の結果

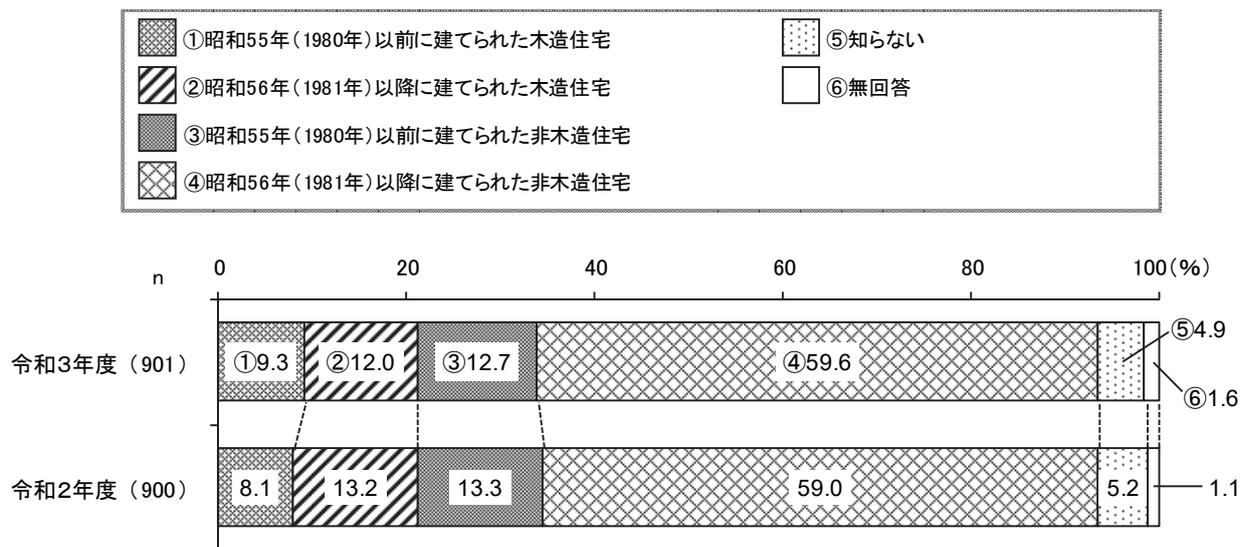
テーマ1 震災に備えて

(1) 家屋の建築年・建築構造

◎《昭和56年(1981年)以降に建てられた住宅》が7割強

問1 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)		(n=901)
1	昭和55年(1980年)以前に建てられた木造住宅	9.3%
2	昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅	12.0
3	昭和55年(1980年)以前に建てられた非木造住宅	12.7
4	昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅	59.6
5	知らない	4.9
	無回答	1.6

図1-1 家屋の建築年・建築構造
(経年推移)



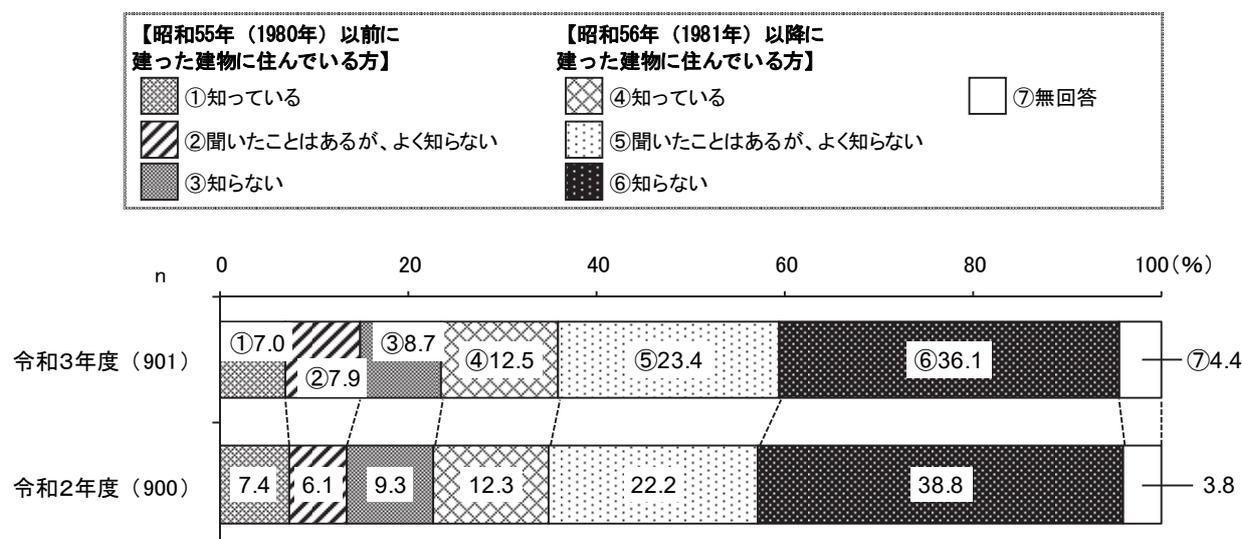
家屋の建築年・建築構造について、「昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅」(59.6%)が6割弱となっている。一方、「昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅」(12.0%)が1割強となっている。また、「昭和56年(1981年)以降に建てられた住宅」(【昭和56年(1981年)以降に建てられた木造住宅】+【昭和56年(1981年)以降に建てられた非木造住宅】)(71.6%)が7割強となっている。(図1-1)

（2）「建築物等耐震化支援事業」の認知状況

◎支援事業の認知状況は《知っている》が2割弱

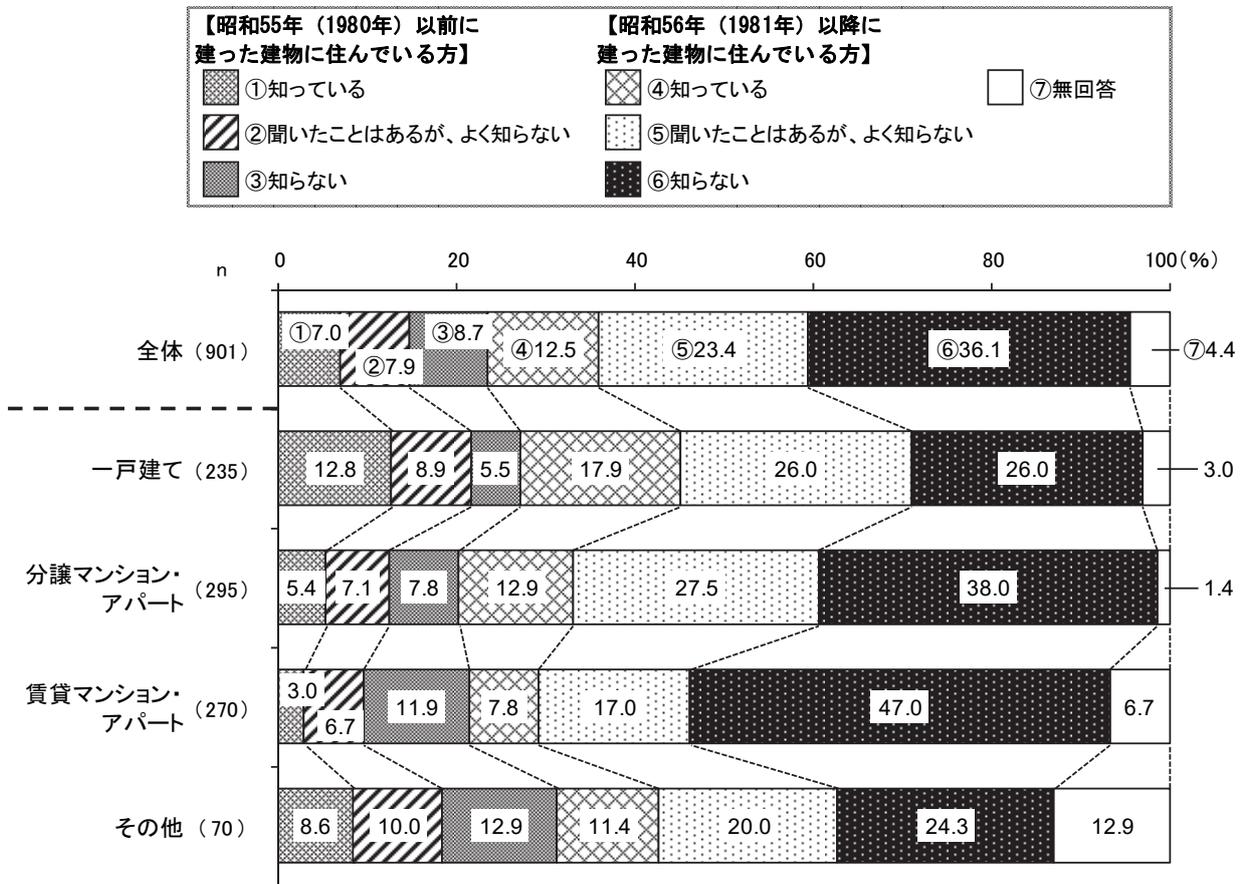
問2 区では、「建築物等耐震化支援事業」を行っています。		
あなたはこの事業を知っていますか。（○は1つ）		(n=901)
【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】		
1 知っている		7.0%
2 聞いたことはあるが、よく知らない		7.9
3 知らない		8.7
【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】		
4 知っている		12.5
5 聞いたことはあるが、よく知らない		23.4
6 知らない		36.1
無回答		4.4

図1-2-1 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
（経年推移）



「建築物等耐震化支援事業」の認知状況について、建物の建築年で比べると、支援事業を「知っている」は【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】（12.5%）が1割強、【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】（7.0%）が1割未満となっている。また、《知っている》（【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】＋【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】）（19.5%）が2割弱となっている。（図1-2-1）

図1-2-2 「建築物等耐震化支援事業」の認知状況
(住居形態別4区分)



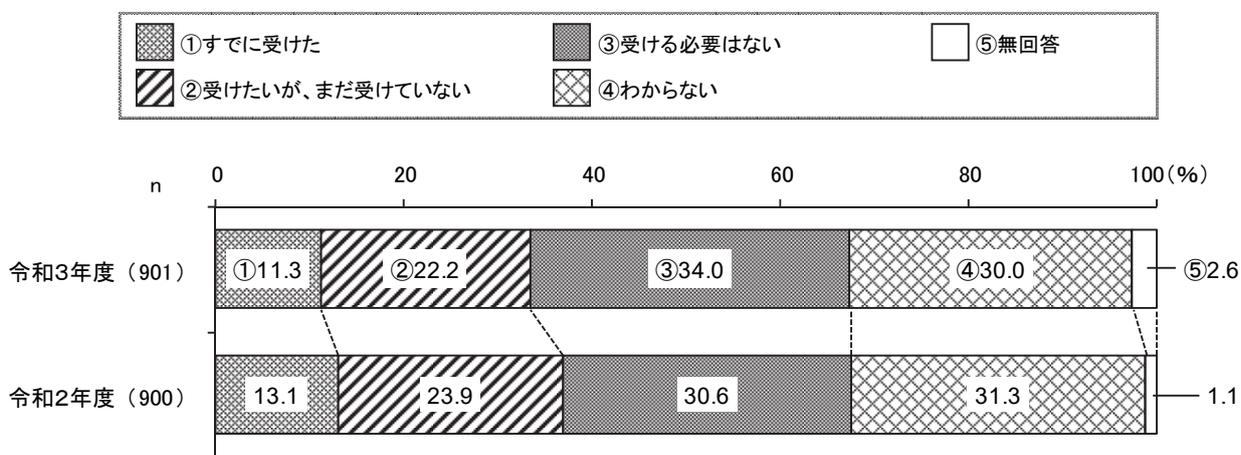
住居形態別4区分で見ると、「知っている」では、一戸建て(30.7%)が約3割で最も高く、全体(19.5%)を11.2ポイント上回っている。(図1-2-2)

（3）耐震診断の意向

◎耐震診断を「受ける必要はない」が3割台半ば近く

問3 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。（○は1つ）		(n=901)
1	すでに受けた	11.3%
2	受けたいが、まだ受けていない	22.2
3	受ける必要はない	34.0
4	わからない	30.0
	無回答	2.6

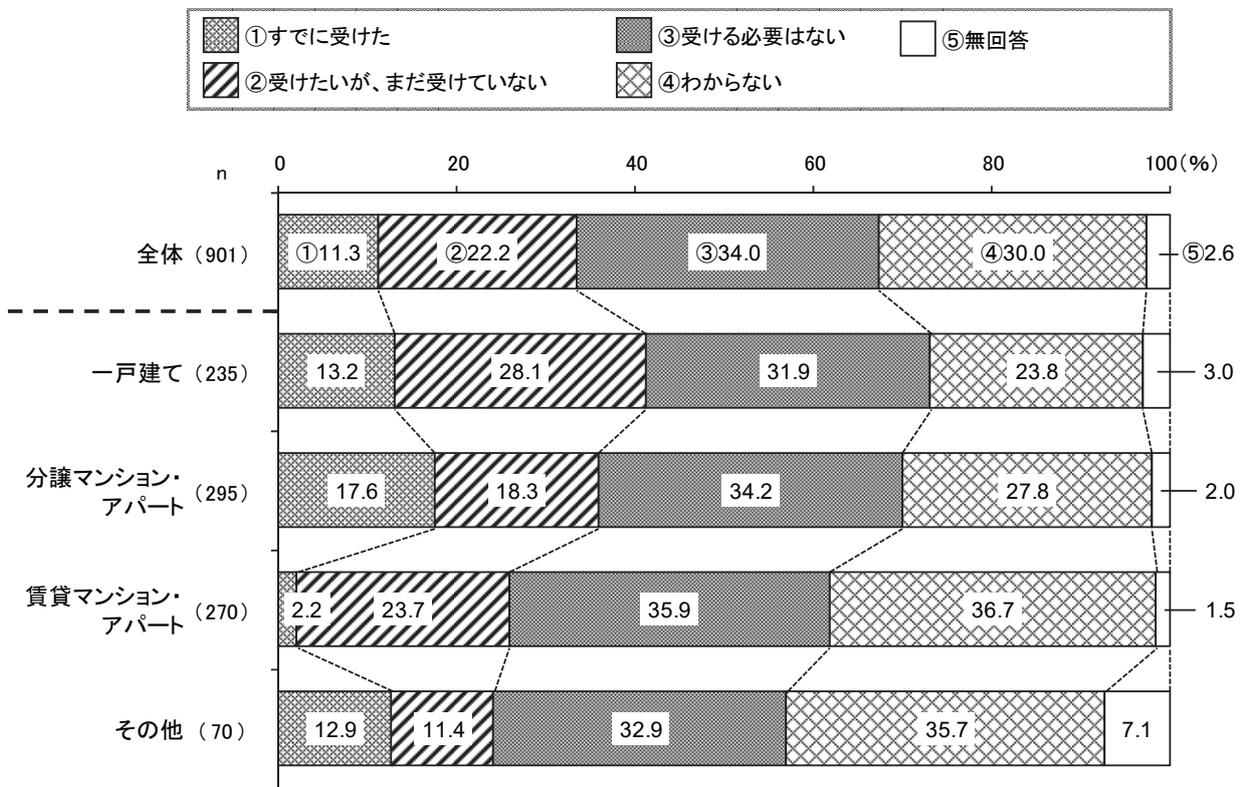
図1-3-1 耐震診断の意向
(経年推移)



耐震診断の意向について、「すでに受けた」(11.3%)が1割強、「受けたいが、まだ受けていない」(22.2%)が2割強となっている。一方、「受ける必要はない」(34.0%)が3割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和2年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「受ける必要はない」(34.0%)が前回(30.6%)より3.4ポイント高くなっている。(図1-3-1)

図1-3-2 耐震診断の意向
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「すでに受けた」では、分譲マンション・アパート（17.6%）が1割台半ばを超えて最も高く、全体（11.3%）を6.3ポイント上回っている。

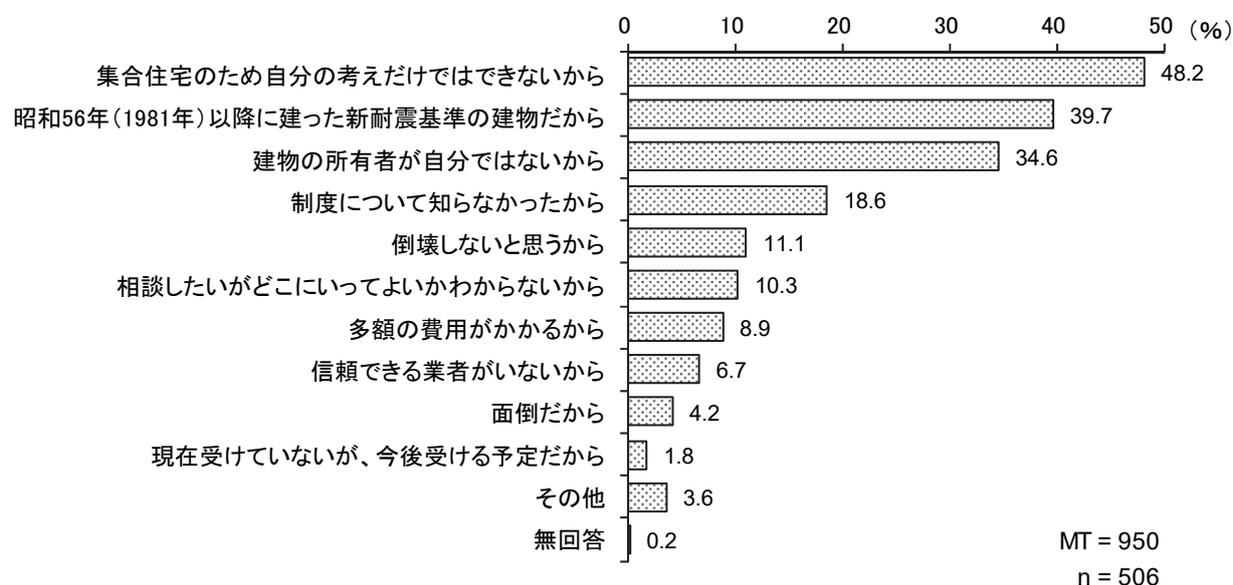
「受けたいが、まだ受けていない」では、一戸建て（28.1%）が3割近くで最も高く、全体（22.2%）を5.9ポイント上回っている。（図1-3-2）

（４）耐震診断を受けない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が5割近く

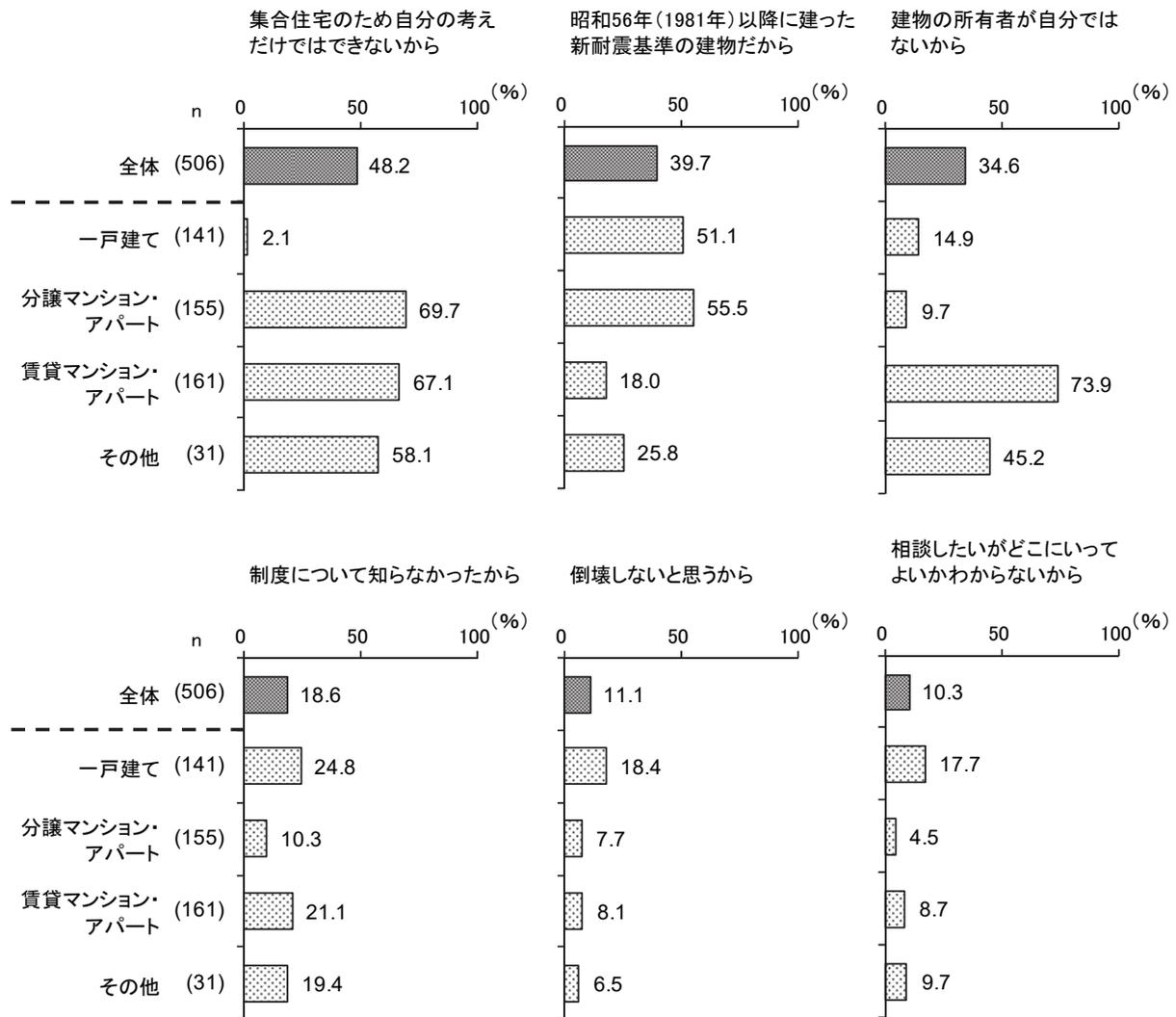
問3-1 問3で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。		(n= 506)
耐震診断を受けていない理由は何ですか。		
(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)		
1	現在受けていないが、今後受ける予定だから	1.8%
2	制度について知らなかったから	18.6
3	集合住宅のため自分の考えだけではできないから	48.2
4	建物の所有者が自分ではないから	34.6
5	昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから	39.7
6	多額の費用がかかるから	8.9
7	倒壊しないと思うから	11.1
8	信頼できる業者がないから	6.7
9	相談したいがどこにいったよいかわからないから	10.3
10	面倒だから	4.2
11	その他	3.6
	無回答	0.2

図1-4-1 耐震診断を受けない理由



耐震診断を受けない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」(48.2%)が5割近くで最も高く、次いで「昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから」(39.7%)が4割弱、「建物の所有者が自分ではないから」(34.6%)が3割台半ば近くと続いている。(図1-4-1)

図1-4-2 耐震診断を受けない理由
(住居形態別4区分) 上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分で見ると、「建物の所有者が自分ではないから」では、賃貸マンション・アパート(73.9%)が7割台半ば近くで最も高く、全体(34.6%)を39.3ポイント上回っている。

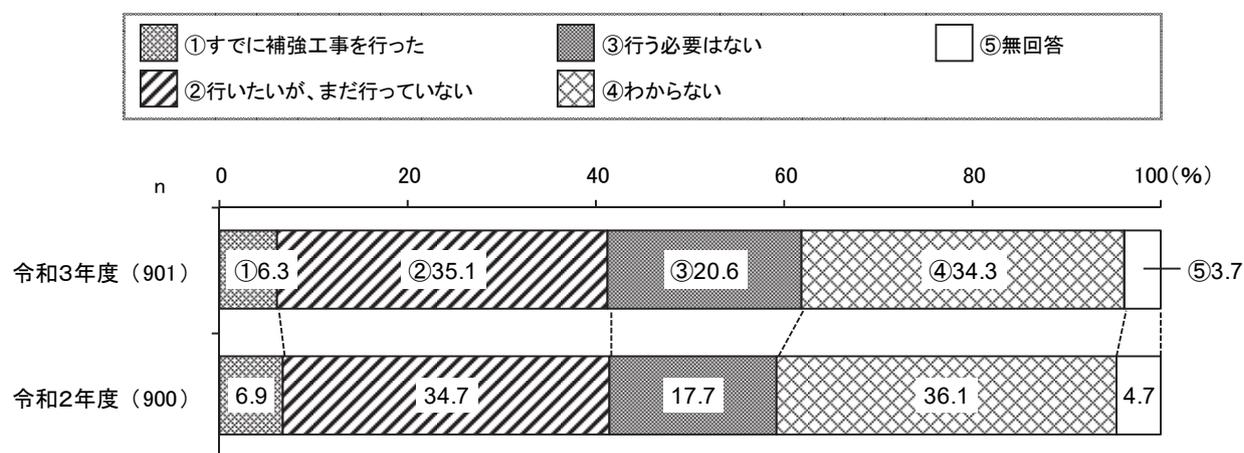
また、「倒壊しないと思うから」では、一戸建て(18.4%)が2割近くで最も高く、全体(11.1%)を7.3ポイント上回っている。(図1-4-2)

（5）耐震補強工事の意向

◎耐震補強工事を「行いたい、まだ行っていない」が3割台半ば

問4 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。（〇は1つ）		(n=901)
1	すでに補強工事を行った	6.3%
2	行いたい、まだ行っていない	35.1
3	行う必要はない	20.6
4	わからない	34.3
	無回答	3.7

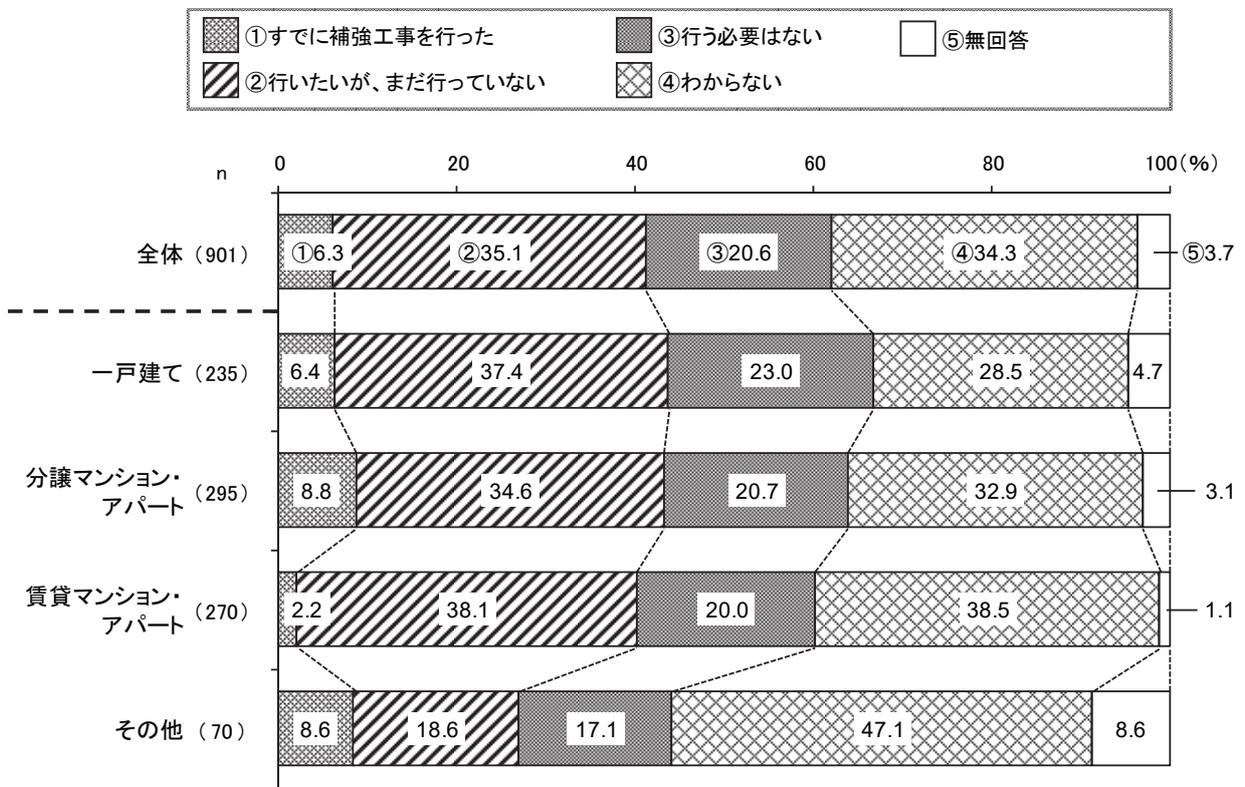
図1-5-1 耐震補強工事の意向
(経年推移)



耐震補強工事の意向について、「行いたい、まだ行っていない」(35.1%)が3割台半ばで最も高く、次いで「わからない」(34.3%)が3割台半ば近く、「行う必要はない」(20.6%)が約2割となっている。

前回の調査結果(令和2年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、割合に大きな変化はみられない。(図1-5-1)

図1-5-2 耐震補強工事の意向
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「行いたい、まだ行っていない」では、賃貸マンション・アパート (38.1%) が4割近くで最も高くなっており、全体 (35.1%) を3.0ポイント上回っている。
(図1-5-2)

Ⅱ 調査の結果（テーマ1 震災に備えて）

（6）耐震補強工事を行っていない理由

◎「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」が5割近く

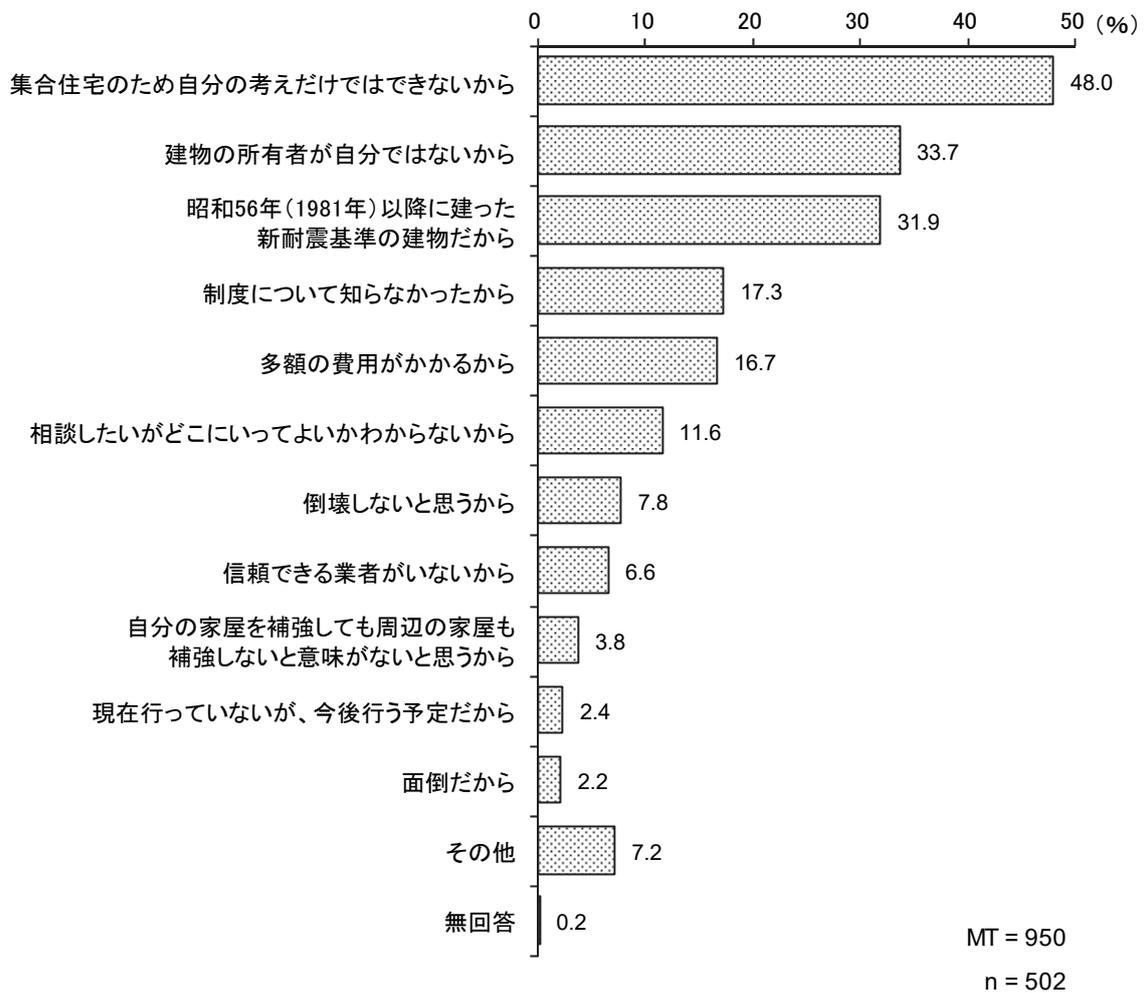
問4-1 問4で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）

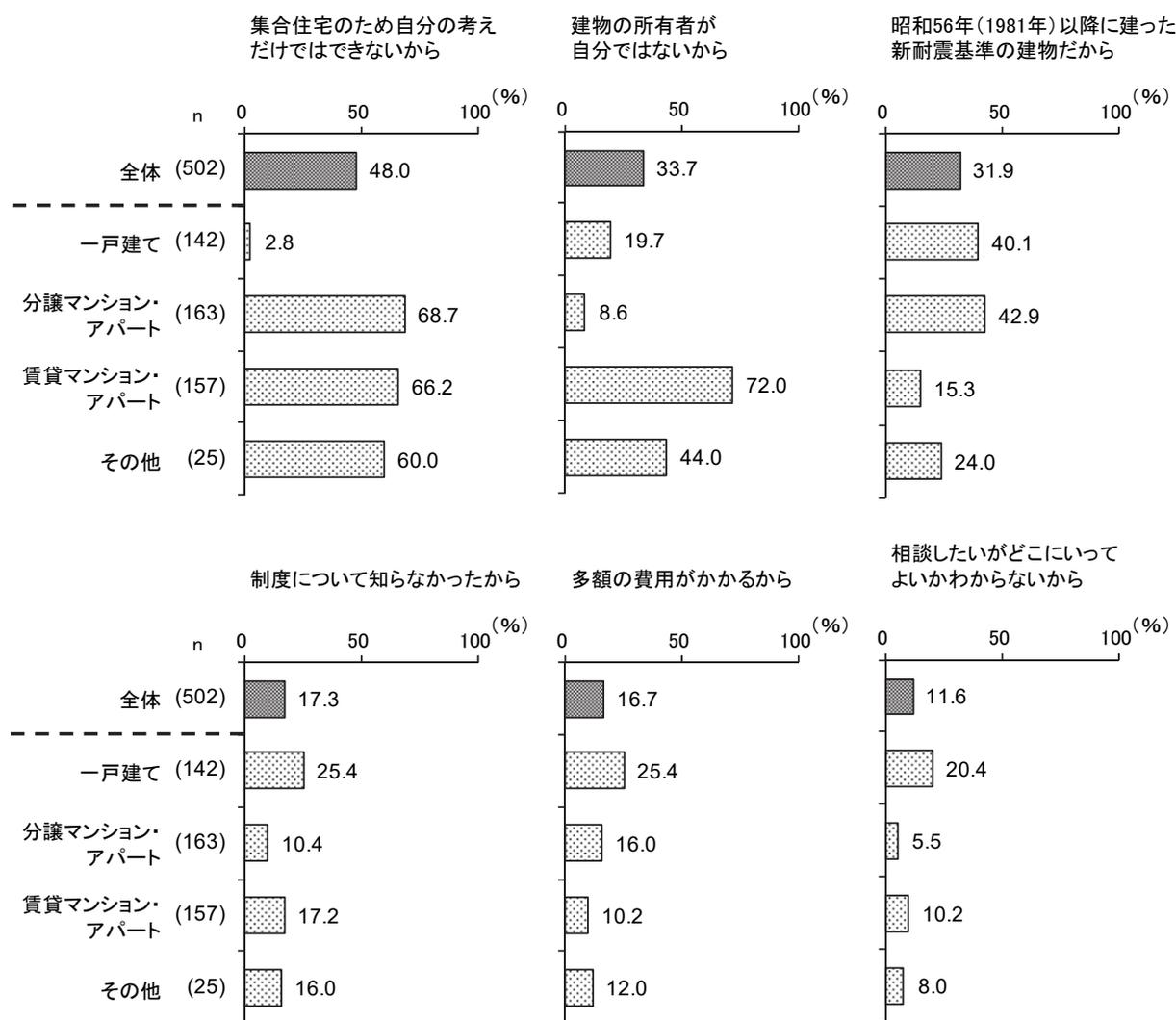
	(n=502)
1 現在行っていないが、今後行う予定だから	2.4%
2 制度について知らなかったから	17.3
3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから	48.0
4 建物の所有者が自分ではないから	33.7
5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから	31.9
6 多額の費用がかかるから	16.7
7 倒壊しないと思うから	7.8
8 信頼できる業者がないから	6.6
9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから	11.6
10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから	3.8
11 面倒だから	2.2
12 その他	7.2
無回答	0.2

図1-6-1 耐震補強工事を行っていない理由



耐震補強工事を行っていない理由としては、「集合住宅のため自分の考えだけではできないから」(48.0%)が5割近くで最も高く、次いで「建物の所有者が自分ではないから」(33.7%)が3割台半ば近く、「昭和56年(1981年)以降に建った新耐震基準の建物だから」(31.9%)が3割強と続いている。(図1-6-1)

図1-6-2 耐震補強工事を行っていない理由
（住居形態別4区分）上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分で見ると、「建物の所有者が自分ではないから」では、賃貸マンション・アパート（72.0%）が7割強で高くなっており、全体（33.7%）を38.3ポイント上回っている。

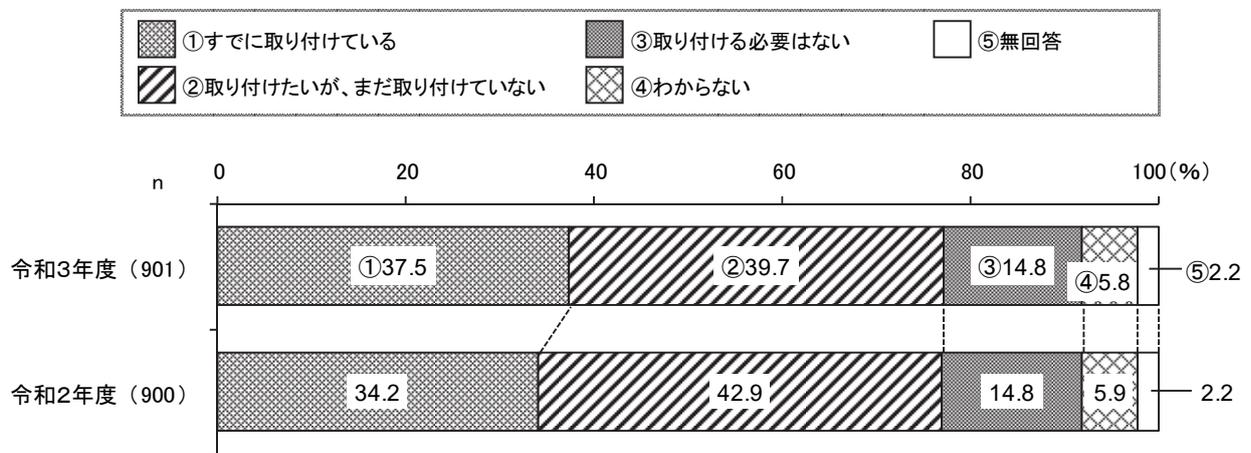
「多額の費用がかかるから」では、一戸建て（25.4%）が2割台半ばで高くなっており、全体（16.7%）を8.7ポイント上回っている。（図1-6-2）

(7) 家具転倒防止器具の取り付けの意向

◎家具転倒防止器具を「すでに取り付けている」が3割台半ばを超え

問5 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(○は1つ)		(n=901)
1	すでに取り付けている	37.5%
2	取り付けたいが、まだ取り付けしていない	39.7
3	取り付ける必要はない	14.8
4	わからない	5.8
	無回答	2.2

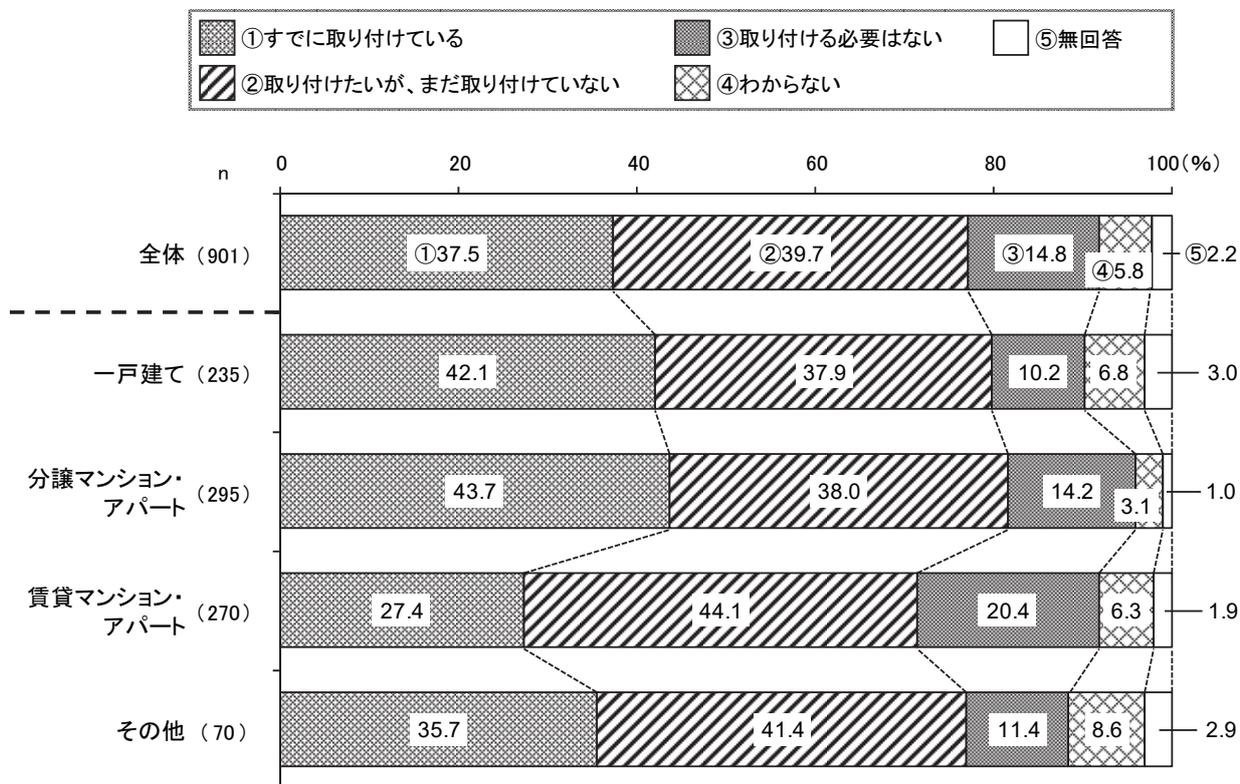
図1-7-1 家具転倒防止器具の取り付けの意向
(経年推移)



家具転倒防止器具の取り付けの意向について、「すでに取り付けている」(37.5%)が3割台半ばを超え、「取り付けたいが、まだ取り付けしていない」(39.7%)が4割弱となっている。一方、「取り付ける必要はない」(14.8%)が1割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果(令和2年度区政モニターアンケート調査)と比較すると、「すでに取り付けている」(37.5%)が前回(34.2%)より3.3ポイント高くなっている。(図1-7-1)

図1-7-2 家具転倒防止器具の取り付けの意向
（住居形態別4区分）



住居形態別4区分で見ると、「取り付ける必要はない」では、賃貸マンション・アパート(20.4%)が約2割で最も高くなっており、全体(14.8%)を5.6ポイント上回っている。(図1-7-2)

(8) 家具転倒防止器具を取り付けていない理由

◎「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」が約3割

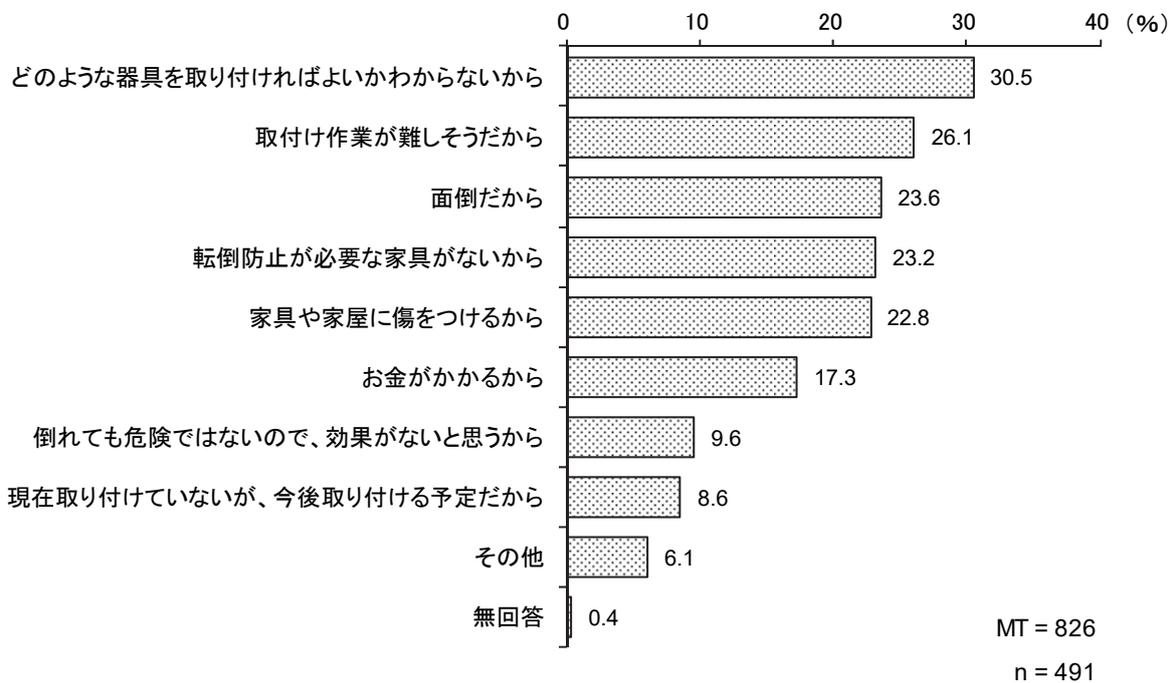
問5-1 問5で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

	(n=491)
1 現在取り付けていないが、今後取り付ける予定だから	8.6%
2 どのような器具を取り付ければよいかわからないから	30.5
3 家具や家屋に傷をつけるから	22.8
4 取付け作業が難しそうだから	26.1
5 お金がかかるから	17.3
6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから	9.6
7 面倒だから	23.6
8 転倒防止が必要な家具がないから	23.2
9 その他	6.1
無回答	0.4

図1-8 家具転倒防止器具を取り付けていない理由



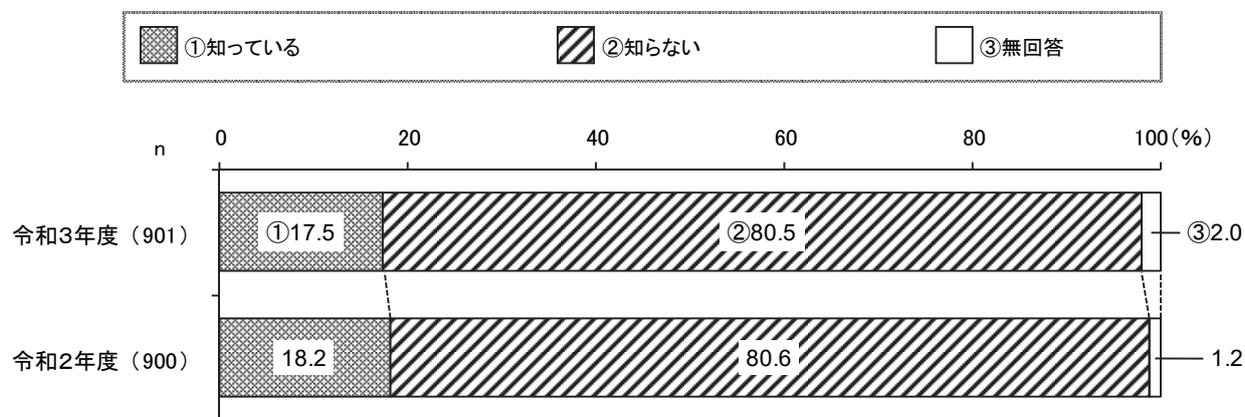
家具転倒防止器具を取り付けていない理由としては、「どのような器具を取り付ければよいかわからないから」(30.5%)が約3割で最も高く、次いで「取付け作業が難しそうだから」(26.1%)が2割台半ばを超え、「面倒だから」(23.6%)が2割台半ば近く、「転倒防止が必要な家具がないから」(23.2%)が2割台半ば近く、「家具や家屋に傷をつけるから」(22.8%)が2割強と続いている。(図1-8)

（9）「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況

◎事業を「知らない」が約8割

問6 あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業（調査費・取付け費無料）を知っていますか。（○は1つ）		(n=901)
1	知っている	17.5%
2	知らない	80.5
	無回答	2.0

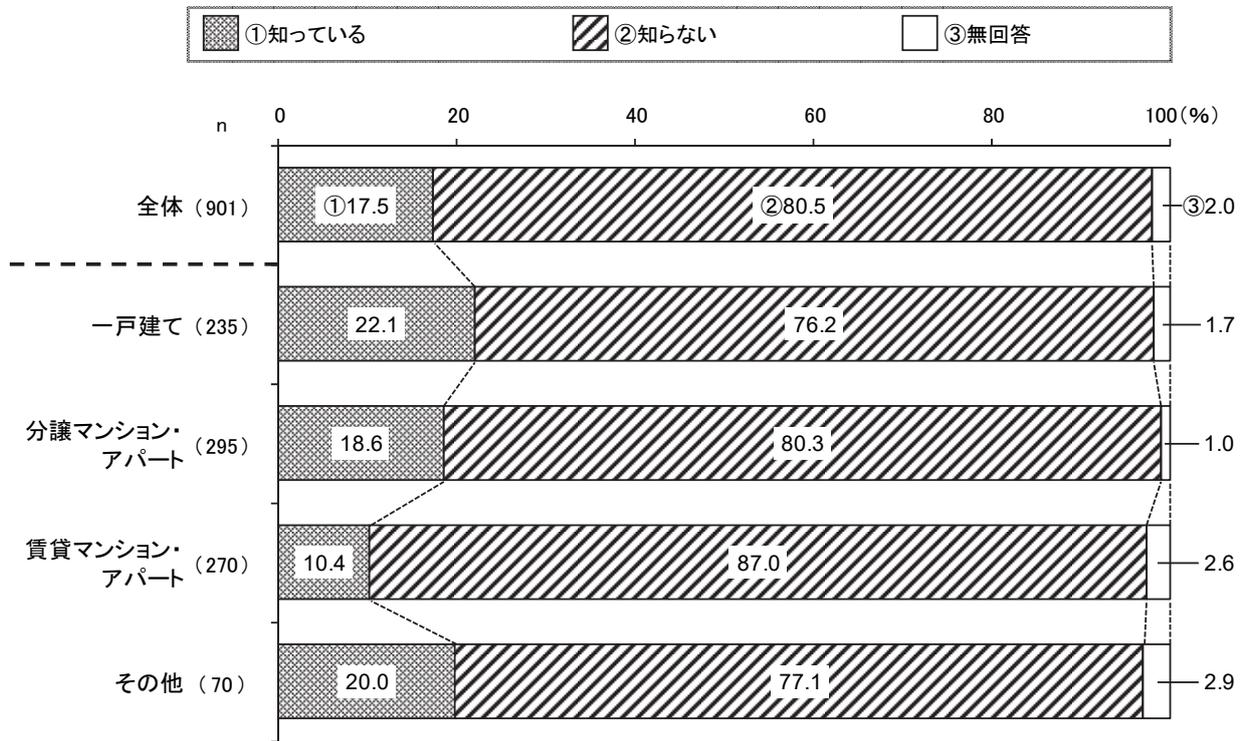
図1-9-1 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
（経年推移）



「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況について、事業を「知らない」（80.5%）が約8割となっている。

前回の調査結果（令和2年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、割合に大きな変化はみられない。（図1-9-1）

図1-9-2 「家具転倒防止器具取付け事業」の認知状況
(住居形態別4区分)



住居形態別4区分で見ると、「知らない」では、賃貸マンション・アパート (87.0%) が8割台半ばを超えて最も高くなっており、全体 (80.5%) を6.5ポイント上回っている。(図1-9-2)

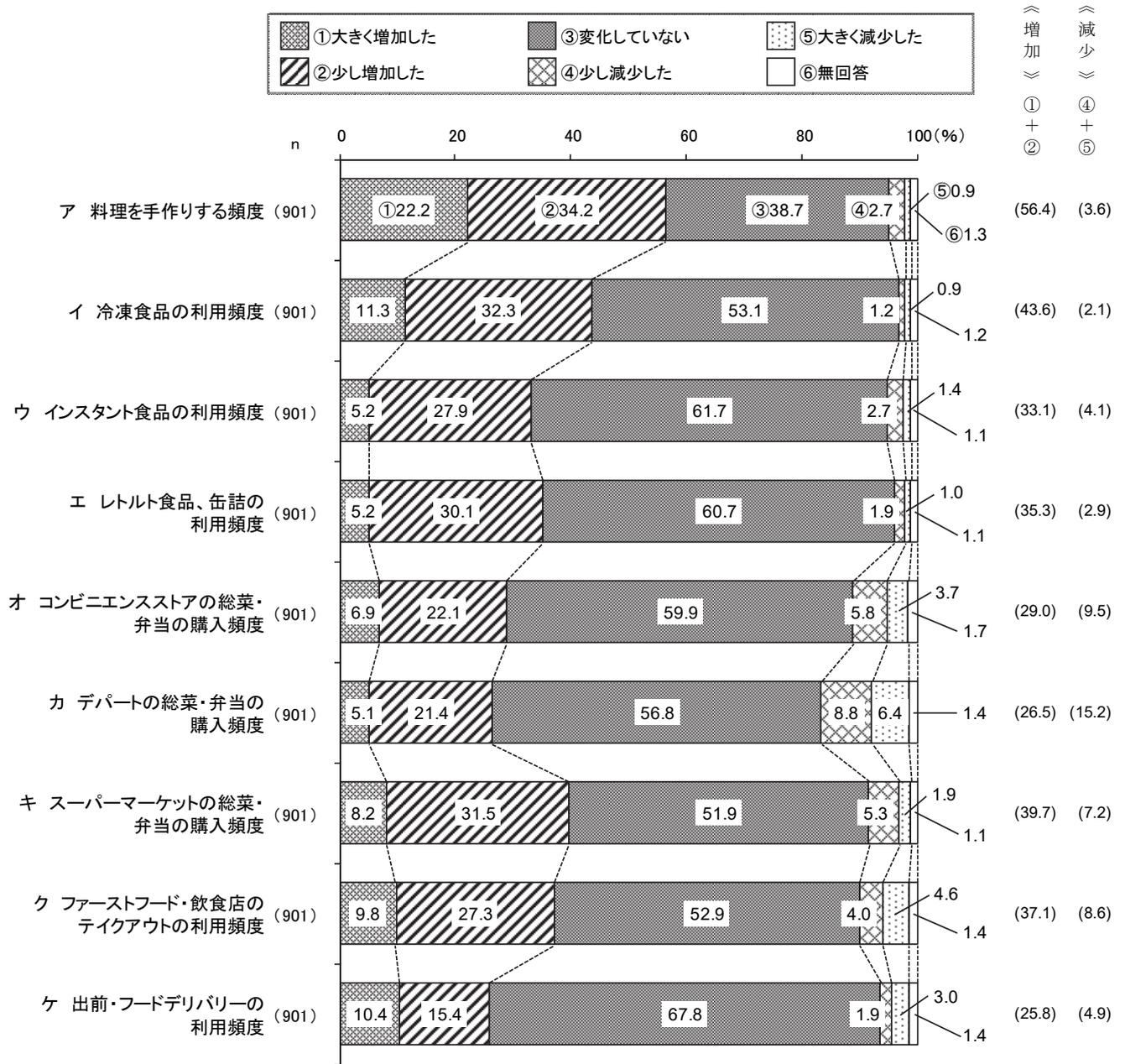
テーマ2 新型コロナウイルス感染症流行下の食生活について

（1）自宅で食事を用意（入手）する方法の変化

◎《増加》は『料理を手作りする頻度』で5割台半ばを超え

問7 新型コロナウイルス感染症の流行前と比べて、自宅で食事を用意（入手）する方法に変化がありましたか。ア～ケのそれぞれについて、1～5のうちあてはまるものを選んでください。（ア～ケそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください）						
(n=901)						
	大きく増加した	少し増加した	変化していない	少し減少した	大きく減少した	無回答
ア 料理を手作りする頻度	22.2%	34.2%	38.7%	2.7%	0.9%	1.3%
イ 冷凍食品の利用頻度	11.3	32.3	53.1	1.2	0.9	1.2
ウ インスタント食品の利用頻度	5.2	27.9	61.7	2.7	1.4	1.1
エ レトルト食品、缶詰の利用頻度	5.2	30.1	60.7	1.9	1.0	1.1
オ コンビニエンスストアの総菜・弁当の購入頻度	6.9	22.1	59.9	5.8	3.7	1.7
カ デパートの総菜・弁当の購入頻度	5.1	21.4	56.8	8.8	6.4	1.4
キ スーパーマーケットの総菜・弁当の購入頻度	8.2	31.5	51.9	5.3	1.9	1.1
ク ファーストフード・飲食店のテイクアウトの利用頻度	9.8	27.3	52.9	4.0	4.6	1.4
ケ 出前・フードデリバリーの利用頻度	10.4	15.4	67.8	1.9	3.0	1.4

図2-1-1 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化



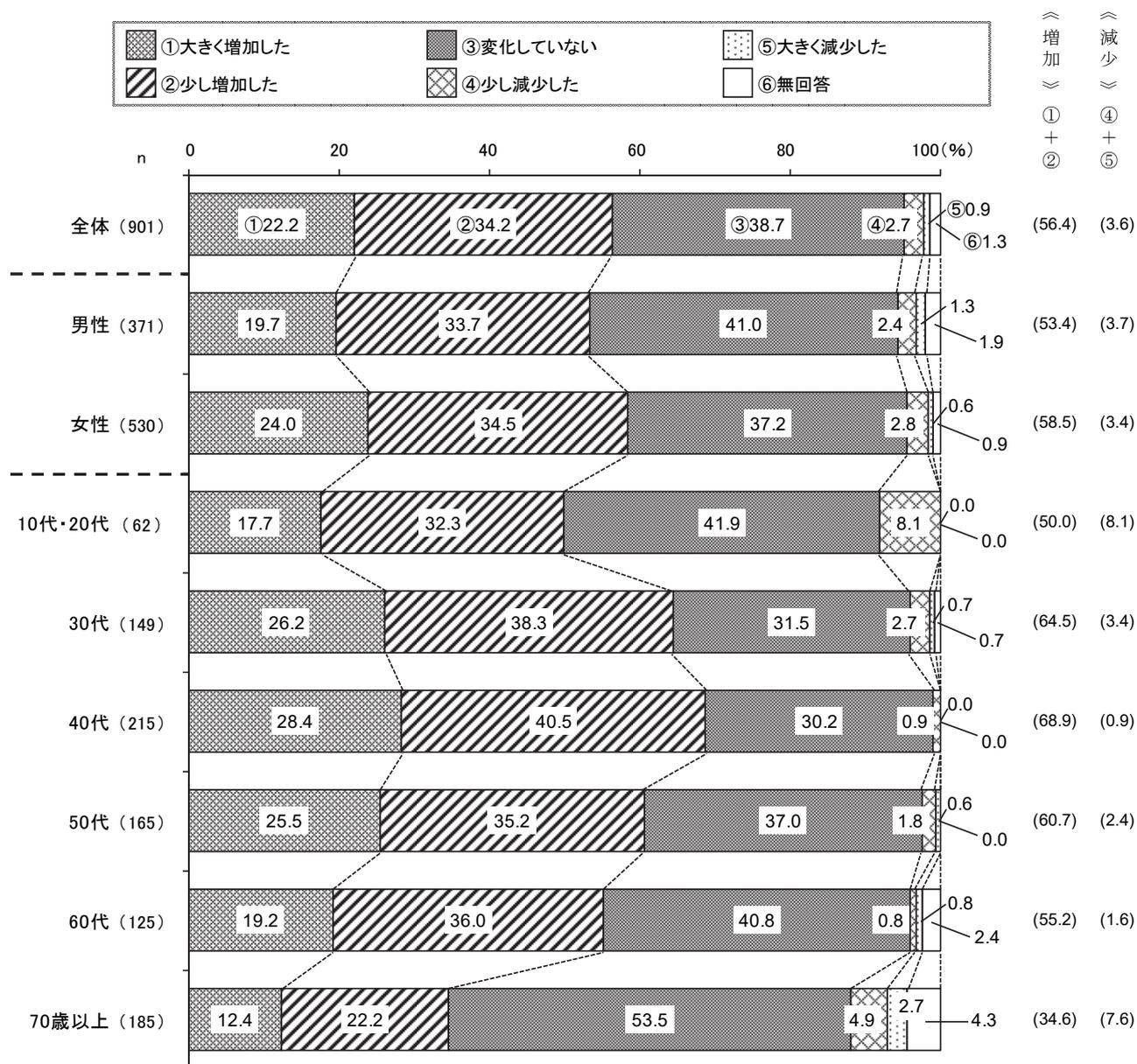
自宅で食事を用意（入手）する方法の変化について、「変化していない」は『出前・フードデリバリーの利用頻度』（67.8%）が6割台半ばを超えて最も高く、次いで『インスタント食品の利用頻度』（61.7%）が6割強、『レトルト食品、缶詰の利用頻度』（60.7%）が約6割となっている。

「大きく増加した」と「少し増加した」を合わせた《増加》は、『料理を手作りする頻度』（56.4%）が5割台半ばを超え、『冷凍食品の利用頻度』（43.6%）が4割台半ば近くとなっている。

（図2-1-1）

図2-1-2 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『ア 料理を手作りする頻度』

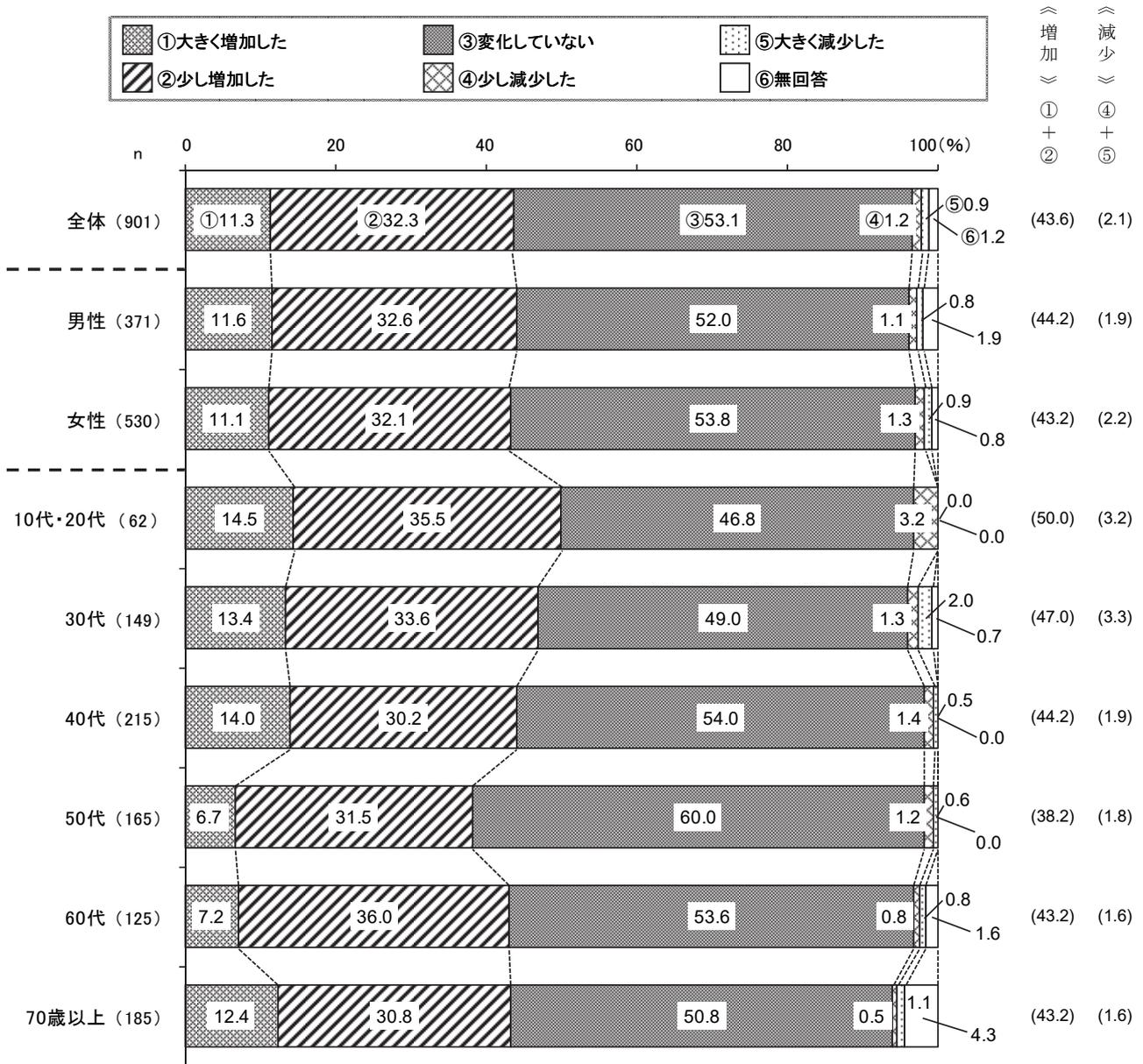


『料理を手作りする頻度』について、性別で見ると、《増加》は女性（58.5%）が6割近くと、男性（53.4%）を5.1ポイント上回っている。

年代別で見ると、《増加》は40代（68.9%）が7割近くと高くなっており、全体（56.4%）を12.5ポイント上回っている。「変化していない」は70歳以上（53.5%）が5割台半ば近くと高くなっており、全体（38.7%）を14.8ポイント上回っている。（図2-1-2）

図2-1-3 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『イ 冷凍食品の利用頻度』

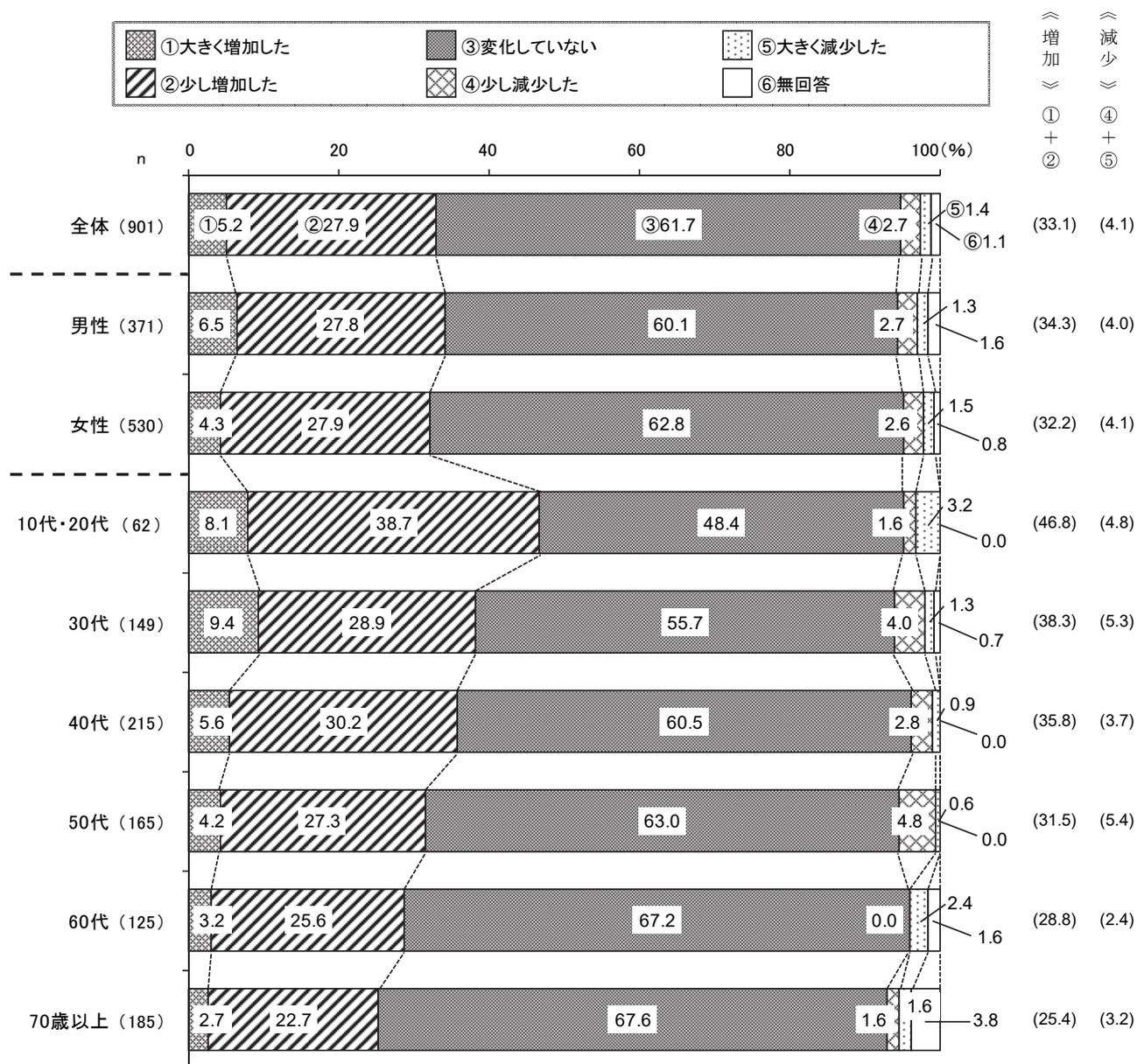


『冷凍食品の利用頻度』について、性別によって大きな差はみられない。

年代別でみると、《増加》は10代・20代（50.0%）が5割と高くなっており、全体（43.6%）を6.4ポイント上回っている。「変化していない」は50代（60.0%）が6割と高くなっており、全体（53.1%）を6.9ポイント上回っている。（図2-1-3）

図2-1-4 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『ウ インスタント食品の利用頻度』

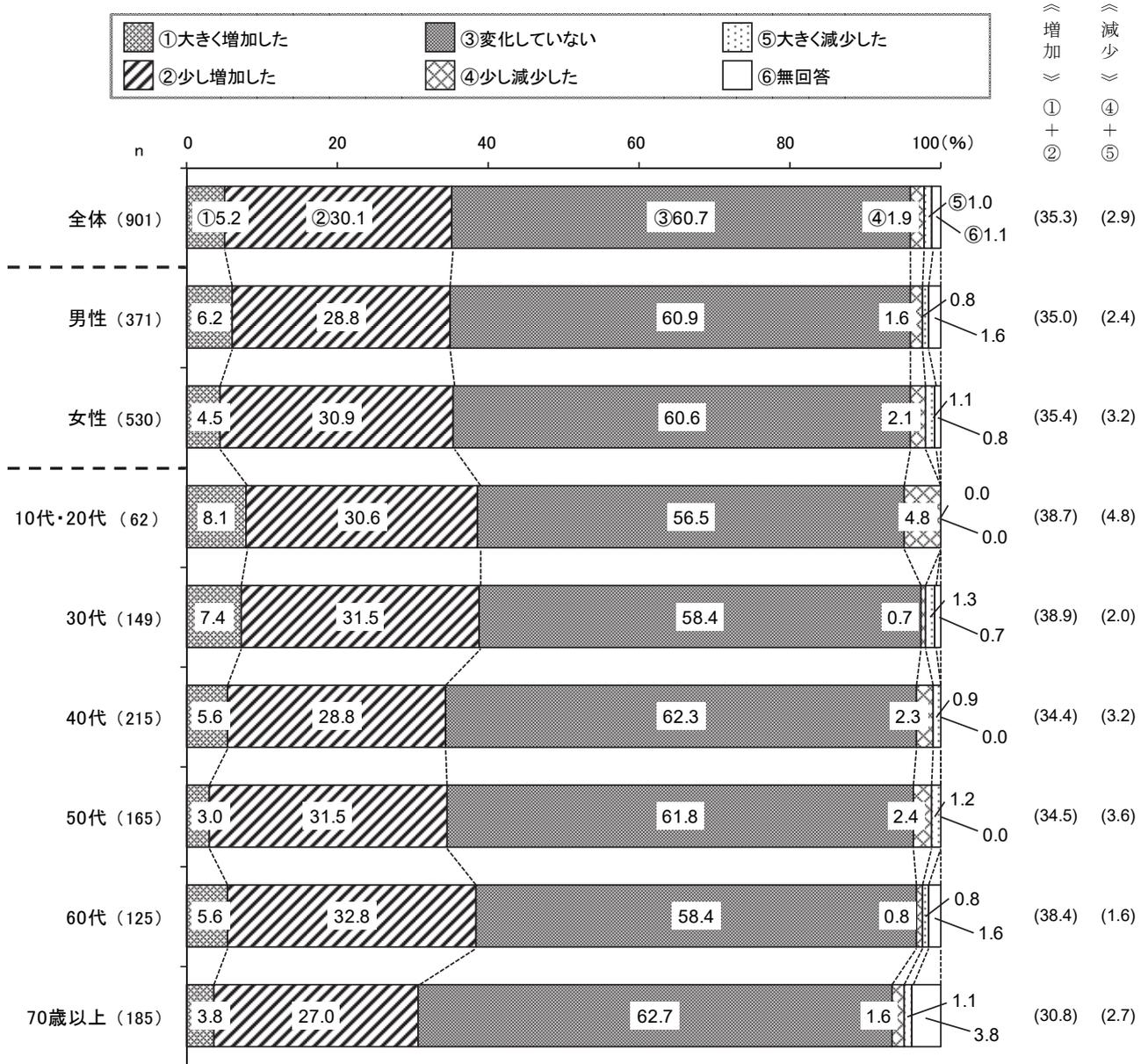


『インスタント食品の利用頻度』について、性別で見ると、「変化していない」は女性（62.8%）が6割強と、男性（60.1%）を2.7ポイント上回っている。

年代別で見ると、《増加》は10代・20代（46.8%）が4割台半ばを超えて高くなっており、全体（33.1%）を13.7ポイント上回っている。（図2-1-4）

図2-1-5 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

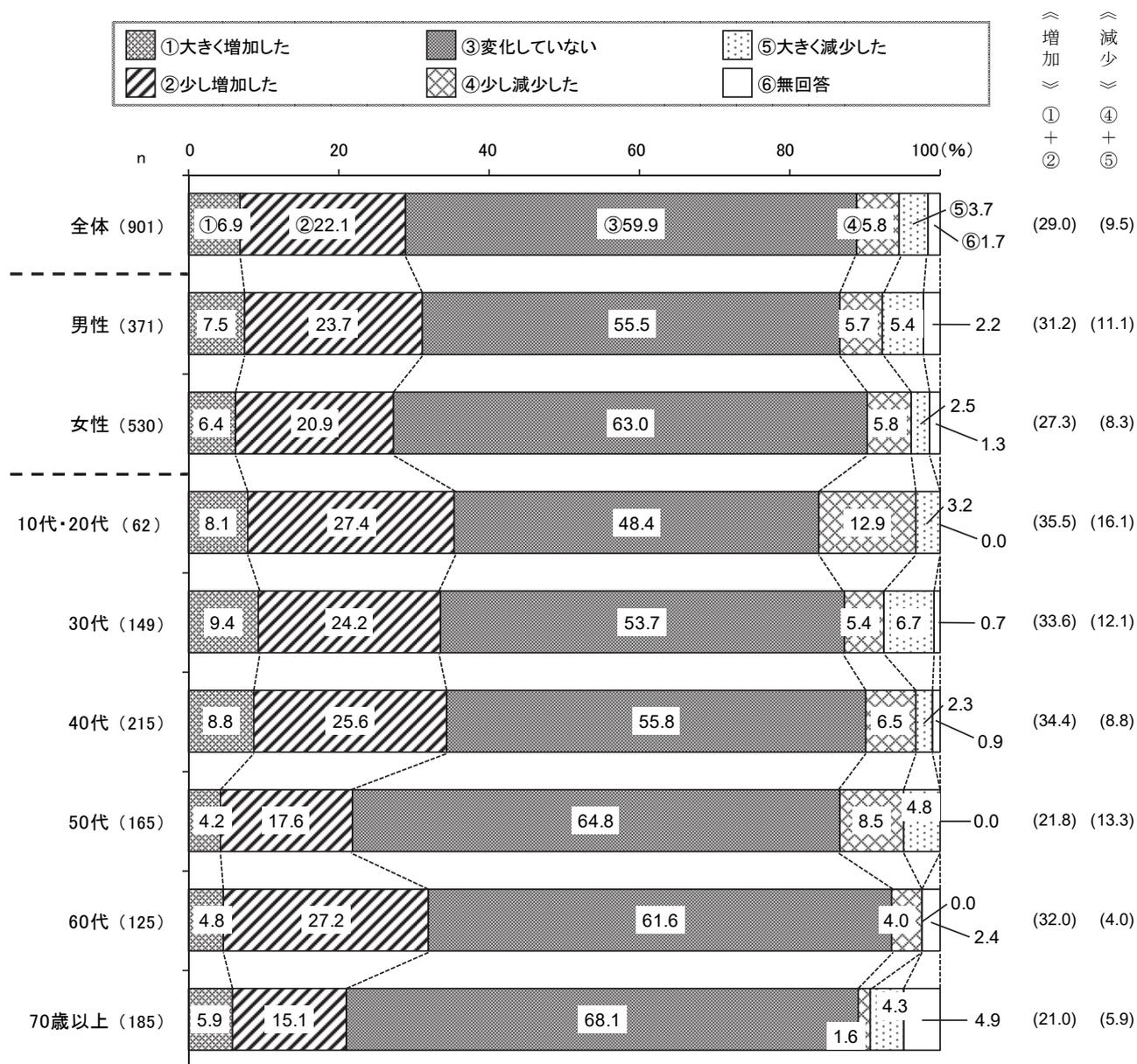
『エ レトルト食品、缶詰の利用頻度』



『レトルト食品、缶詰の利用頻度』について、性別、年代のどちらによっても大きな差はみられない。(図2-1-5)

図2-1-6 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『オ コンビニエンスストアの総菜・弁当の購入頻度』

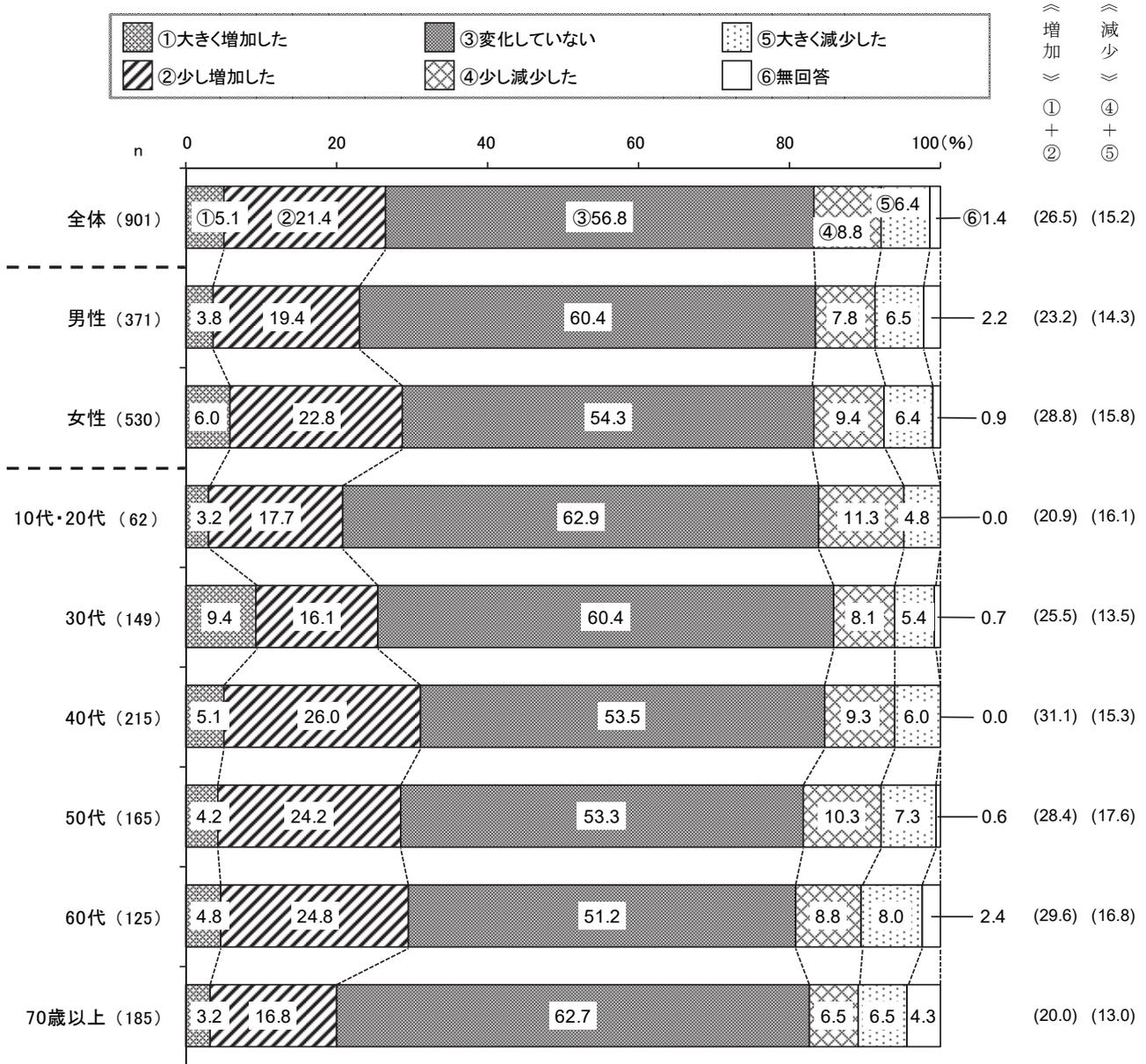


『コンビニエンスストアの総菜・弁当の購入頻度』について、性別でみると、「変化していない」は女性（63.0%）が6割台半ば近くと、男性（55.5%）を7.5ポイント上回っている。

年代別でみると、「変化していない」は70歳以上（68.1%）が7割近くと高くなっており、全体（59.9%）を8.2ポイント上回っている。（図2-1-6）

図2-1-7 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『カ デパートの総菜・弁当の購入頻度』

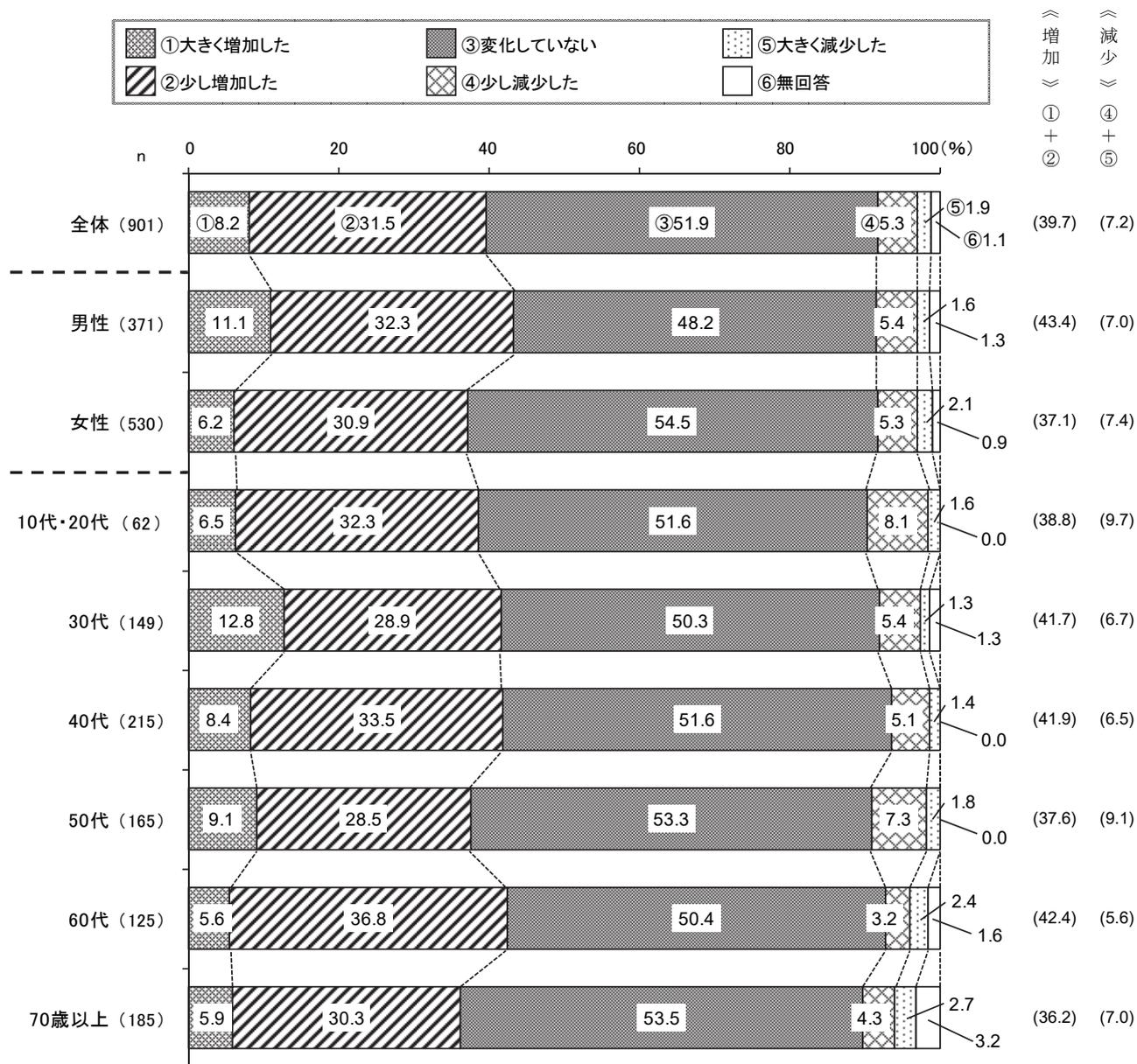


『デパートの総菜・弁当の購入頻度』について、性別で見ると、「変化していない」は男性(60.4%)が約6割と、女性(54.3%)を6.1ポイント上回っている。

年代別で見ると、「変化していない」は10代・20代(62.9%)が6割強と高くなっており、全体(56.8%)を6.1ポイント上回っている。(図2-1-7)

図2-1-8 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『キスーパーマーケットの総菜・弁当の購入頻度』

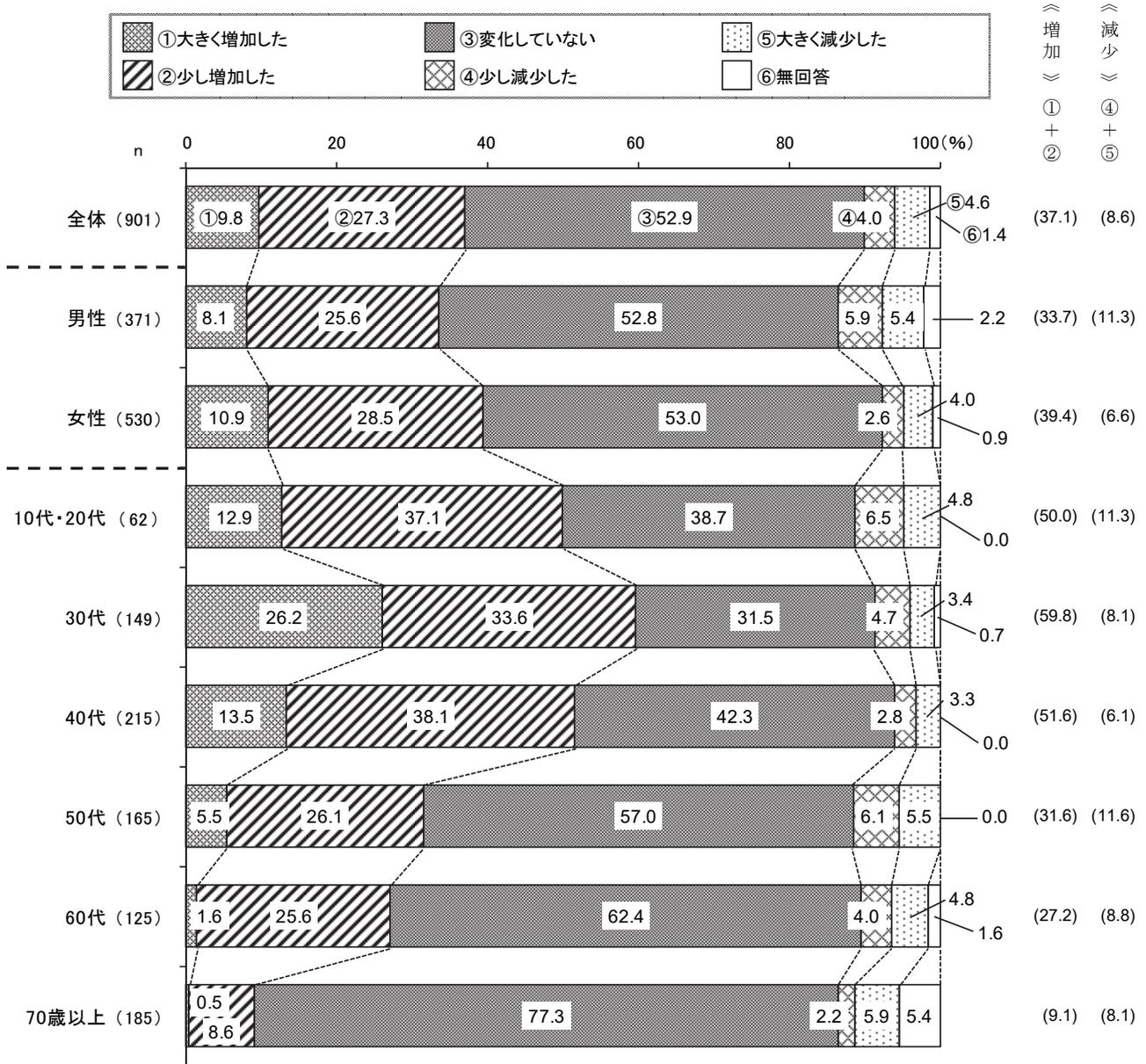


『スーパーマーケットの総菜・弁当の購入頻度』について、性別で見ると、《増加》は男性(43.4%)が4割台半ば近くと、女性(37.1%)を6.3ポイント上回っている。

年代によって大きな差はみられない。(図2-1-8)

図2-1-9 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『ク ファーストフード・飲食店のテイクアウトの利用頻度』

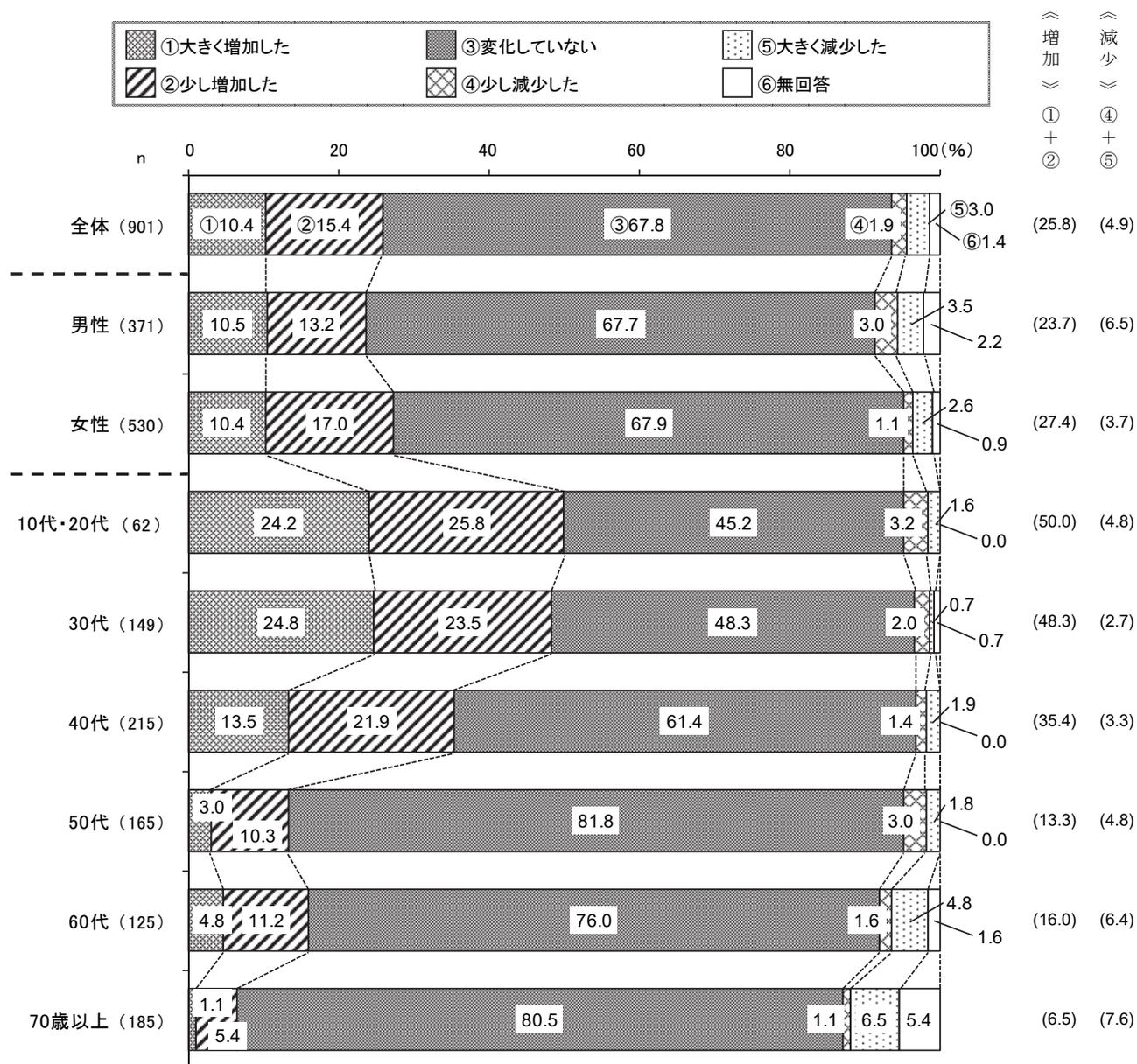


『ファーストフード・飲食店のテイクアウトの利用頻度』について、性別で見ると、《増加》は女性（39.4%）が4割弱と、男性（33.7%）を5.7ポイント上回っている。

年代別で見ると、《増加》は30代（59.8%）が6割弱と高くなっており、全体（37.1%）を22.7ポイント上回っている。「変化していない」は70歳以上（77.3%）が7割台半ばを超えて高くなっており、全体（52.9%）を24.4ポイント上回っている。（図2-1-9）

図2-1-10 自宅で食事を用意（入手）する方法の変化
（性別・年代別）

『ケ 出前・フードデリバリーの利用頻度』



『出前・フードデリバリーの利用頻度』について、性別で見ると、《増加》は女性（27.4%）が2割台半ばを超え、男性（23.7%）を3.7ポイント上回っている。

年代別で見ると、《増加》は10代・20代（50.0%）が5割と高くなっており、全体（25.8%）を24.2ポイント上回っている。「変化していない」は50代（81.8%）が8割強と高くなっており、全体（67.8%）を14.0ポイント上回っている。（図2-1-10）

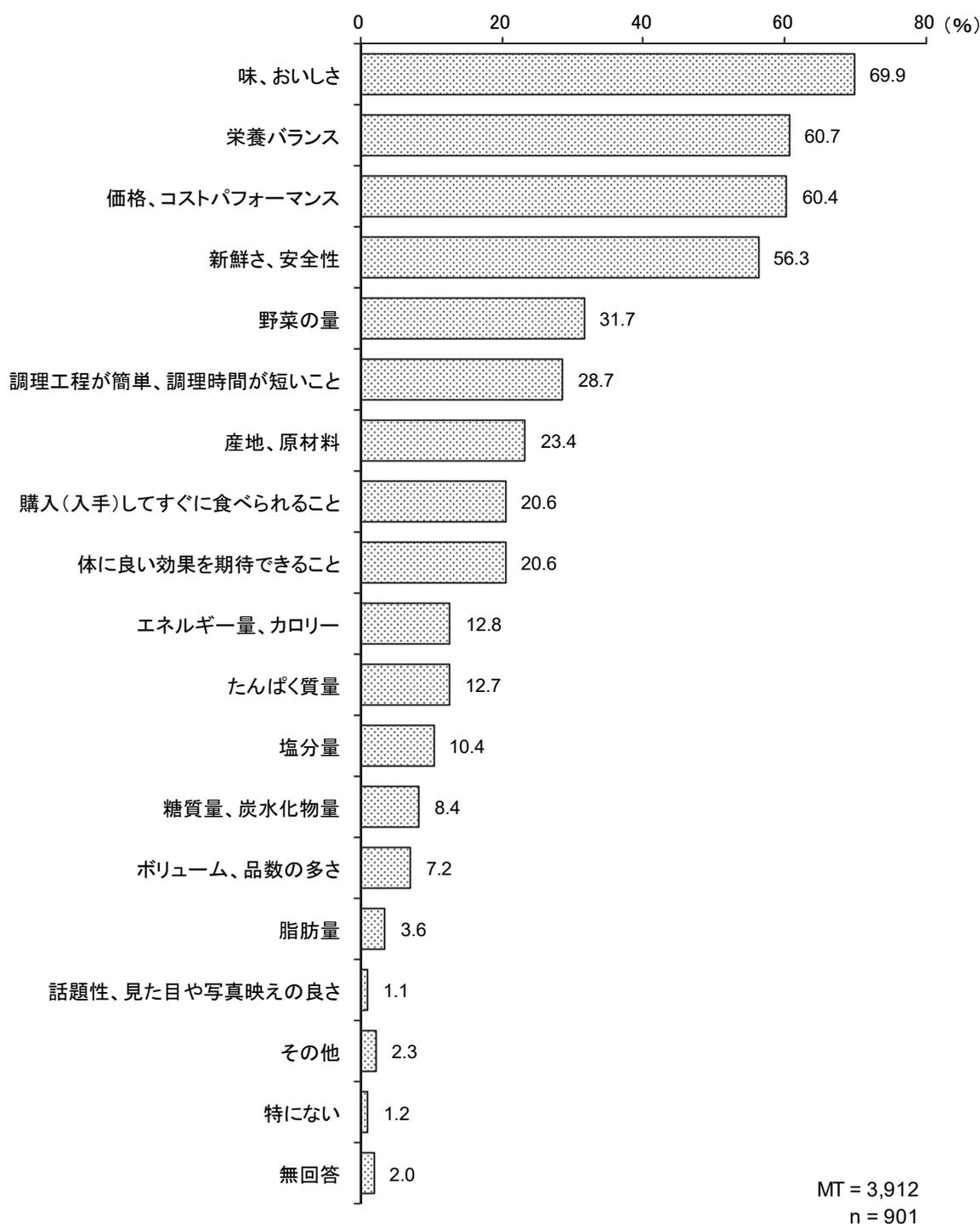
(2) 食事を用意(入手)する際、重視していること

◎「味、おいしさ」が7割弱

問8 新型コロナウイルス感染症流行下の現在、食事を用意(入手)する際、あなたが重視していることは何ですか。(あてはまるものに5つまで○をつけてください)

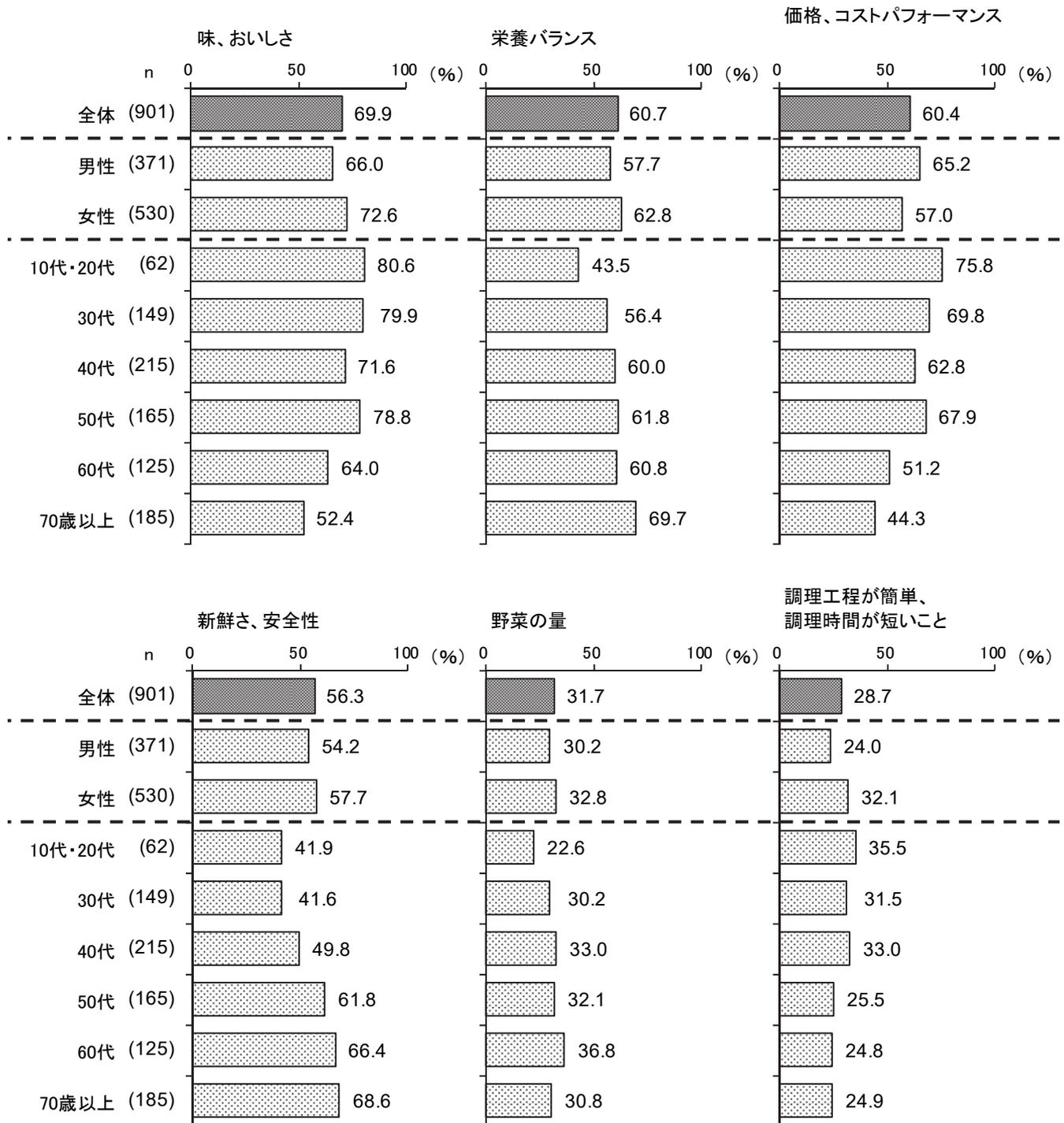
	(n=901)
1 価格、コストパフォーマンス	60.4%
2 味、おいしさ	69.9
3 購入(入手)してすぐに食べられること	20.6
4 調理工程が簡単、調理時間が短いこと	28.7
5 新鮮さ、安全性	56.3
6 産地、原材料	23.4
7 ボリューム、品数の多さ	7.2
8 話題性、見た目や写真映えの良さ	1.1
9 野菜の量	31.7
10 栄養バランス	60.7
11 エネルギー量、カロリー	12.8
12 脂肪量	3.6
13 糖質量、炭水化物量	8.4
14 たんぱく質量	12.7
15 塩分量	10.4
16 体に良い効果を期待できること	20.6
17 その他	2.3
18 特にない	1.2
無回答	2.0

図2-2-1 食事を用意（入手）する際、重視していること



食事を用意（入手）する際、重視していることは、「味、おいしさ」（69.9%）が7割弱で最も高く、次いで「栄養バランス」（60.7%）が約6割、「価格、コストパフォーマンス」（60.4%）が約6割、「新鮮さ、安全性」（56.3%）が5割台半ばを超えと続いている。（図2-2-1）

図2-2-2 食事を用意（入手）する際、重視していること
（性別・年代別）上位6項目



上位6項目について、性別でみると、「価格、コストパフォーマンス」は男性（65.2%）が6割台半ばと、女性（57.0%）を8.2ポイント上回っている。一方、「調理工程が簡単、調理時間が短いこと」は女性（32.1%）が3割強と、男性（24.0%）を8.1ポイント上回っている。

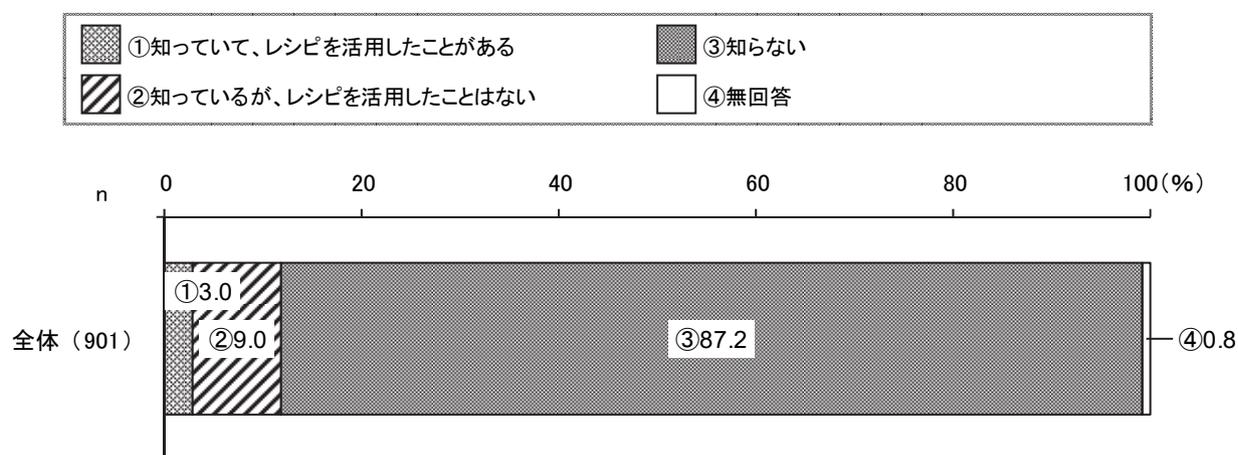
年代別でみると、「価格、コストパフォーマンス」は10代・20代（75.8%）が7割台半ばと高くなっており、全体（60.4%）を15.4ポイント上回っている。「新鮮さ、安全性」は70歳以上（68.6%）が7割近くと高くなっており、全体（56.3%）を12.3ポイント上回っている。（図2-2-2）

（3）野菜が多く食べられるレシピの紹介について

◎「知らない」が8割台半ばを超え

問9 区では、皆様の野菜摂取量を増やす取組の1つとして、必要な野菜摂取量の周知を行うとともに、野菜が多く食べられるレシピの紹介をしています。	
あなたは、この取組を知っていますか。（○は1つ）	
	(n= 901)
1 知っていて、レシピを活用したことがある	3.0%
2 知っているが、レシピを活用したことはない	9.0
3 知らない	87.2
無回答	0.8

図2-3 野菜が多く食べられるレシピの紹介について



野菜が多く食べられるレシピの紹介について、「知らない」（87.2%）が8割台半ばを超えている。（図2-3）

テーマ3 建築物上の緑化について

(1) 新宿で街かどの緑を増やすために有効な手法

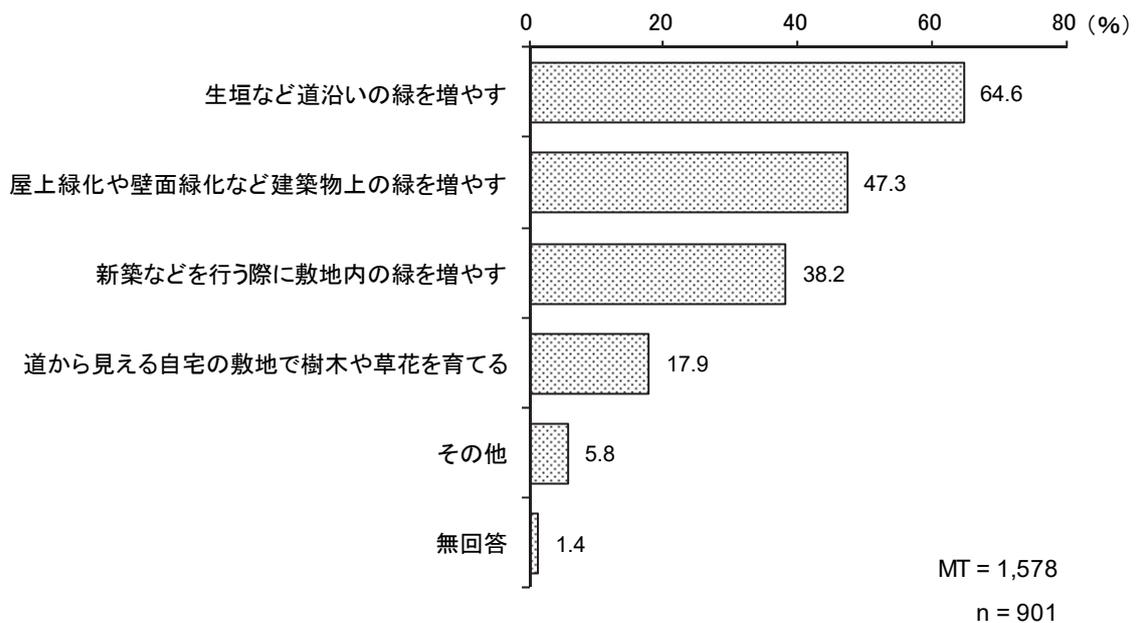
◎「生垣など道沿いの緑を増やす」が6割台半ば近く

問10 あなたは新宿で街かどの緑を増やすためには、どのような手法が有効だと思いますか。

(あてはまるものに2つまで○をつけてください)

	(n=901)
1 生垣など道沿いの緑を増やす	64.6%
2 屋上緑化や壁面緑化など建築物上の緑を増やす	47.3
3 新築などを行う際に敷地内の緑を増やす	38.2
4 道から見える自宅の敷地で樹木や草花を育てる	17.9
5 その他	5.8
無回答	1.4

図3-1 新宿で街かどの緑を増やすために有効な手法



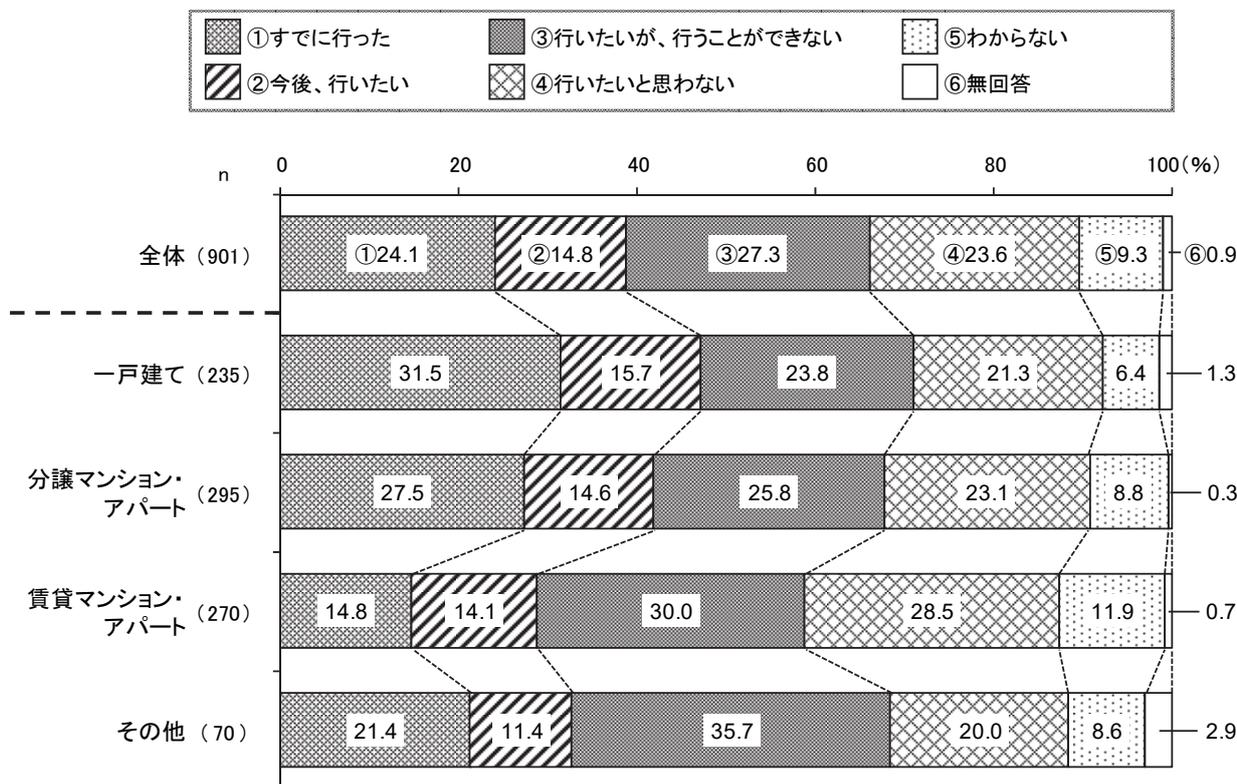
新宿で街かどの緑を増やすために有効な手法は、「生垣など道沿いの緑を増やす」(64.6%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「屋上緑化や壁面緑化など建築物上の緑を増やす」(47.3%)が4割台半ばを超え、「新築などを行う際に敷地内の緑を増やす」(38.2%)が4割近くと続いている。(図3-1)

（2）建築物上（屋上や壁面、ベランダ等）の緑化

◎「行いたい、行うことができない」が2割台半ばを超え

問11 あなたは建築物上（屋上や壁面、ベランダ等）の緑化を行いたいと思いますか。		(n=901)
(○は1つ)		
1	すでに行った	24.1%
2	今後、行いたい	14.8
3	行いたい、行うことができない	27.3
4	行いたいと思わない	23.6
5	わからない	9.3
	無回答	0.9

図3-2 建築物上（屋上や壁面、ベランダ等）の緑化
（住居形態別4区分）



建築物上(屋上や壁面、ベランダ等)の緑化について、「行いたい、行うことができない」(27.3%)が2割台半ばを超え、「すでに行った」(24.1%)が2割台半ば近く、「行いたいと思わない」(23.6%)が2割台半ば近くとなっている。(図3-2)

(3) 行いたい緑化

◎「ベランダにプランターを設置して、樹木や草花、野菜等を植栽する」が6割台半ば近く

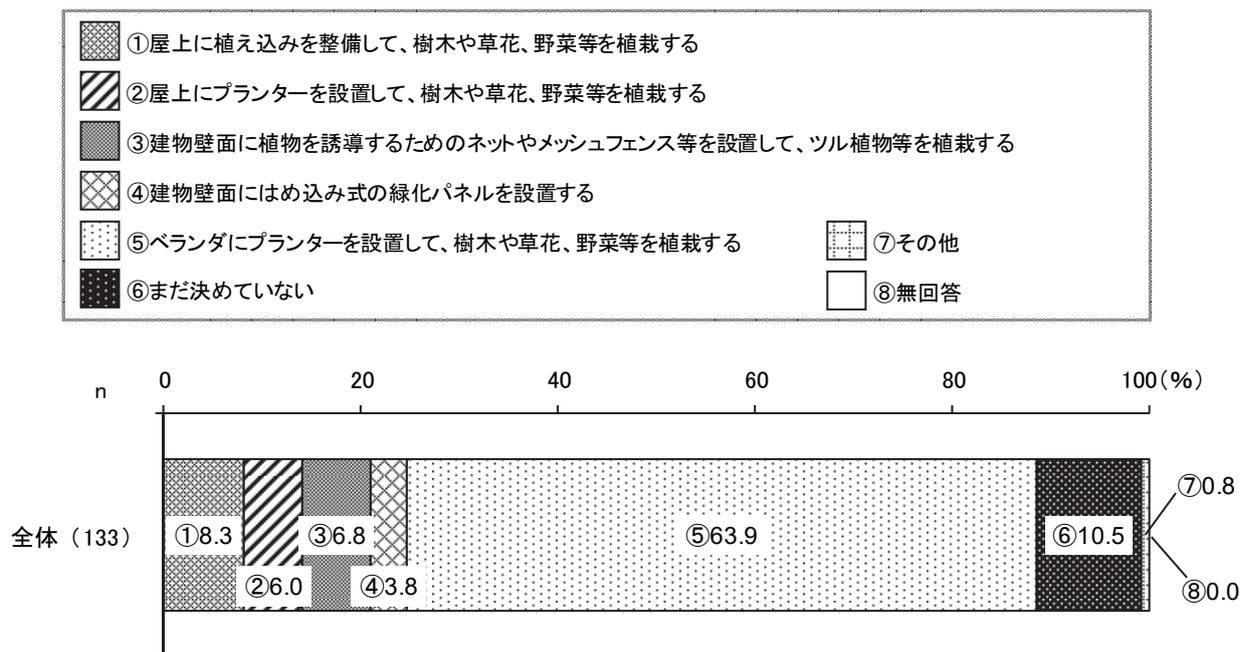
問11-1 問11で、「2 今後、行いたい」に○をした方にお伺いします。

あなたはどのような緑化を行いたいですか。(○は1つ)

(n=133)

1	屋上に植え込みを整備して、樹木や草花、野菜等を植栽する	8.3%
2	屋上にプランターを設置して、樹木や草花、野菜等を植栽する	6.0
3	建物壁面に植物を誘導するためのネットやメッシュフェンス等を設置して、ツル植物等を植栽する	6.8
4	建物壁面にはめ込み式の緑化パネルを設置する	3.8
5	ベランダにプランターを設置して、樹木や草花、野菜等を植栽する	63.9
6	まだ決めていない	10.5
7	その他	0.8
	無回答	0.0

図3-3 行いたい緑化



行いたい緑化は、「ベランダにプランターを設置して、樹木や草花、野菜等を植栽する」(63.9%)が6割台半ば近くで最も高くなっている。(図3-3)

（4）建築物上の緑化をするにあたり、難しいこと

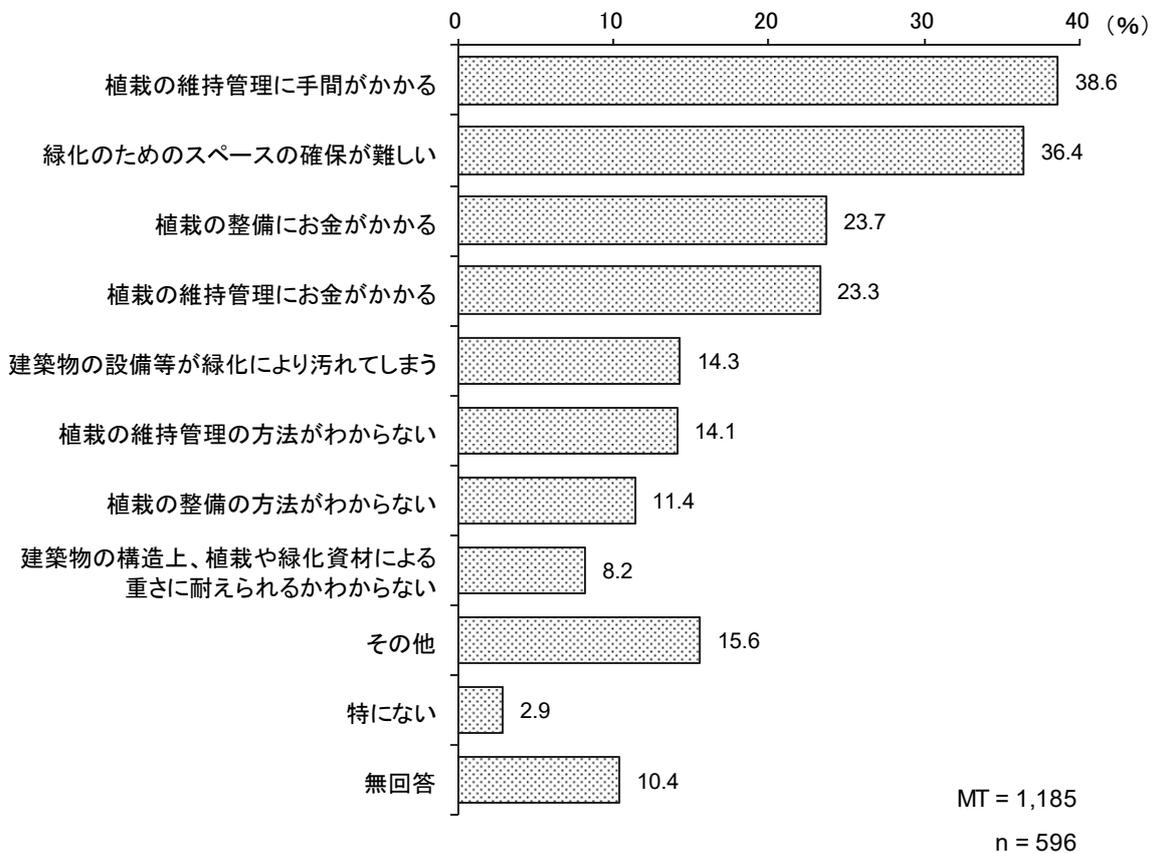
◎「植栽の維持管理に手間がかかる」が4割近く

問11-2 問11で、「1」～「3」に○をした方にお伺いします。

あなたが建築物上の緑化をするにあたり、難しいと感じていることは何ですか。
（あてはまるものに3つまで○をつけてください）

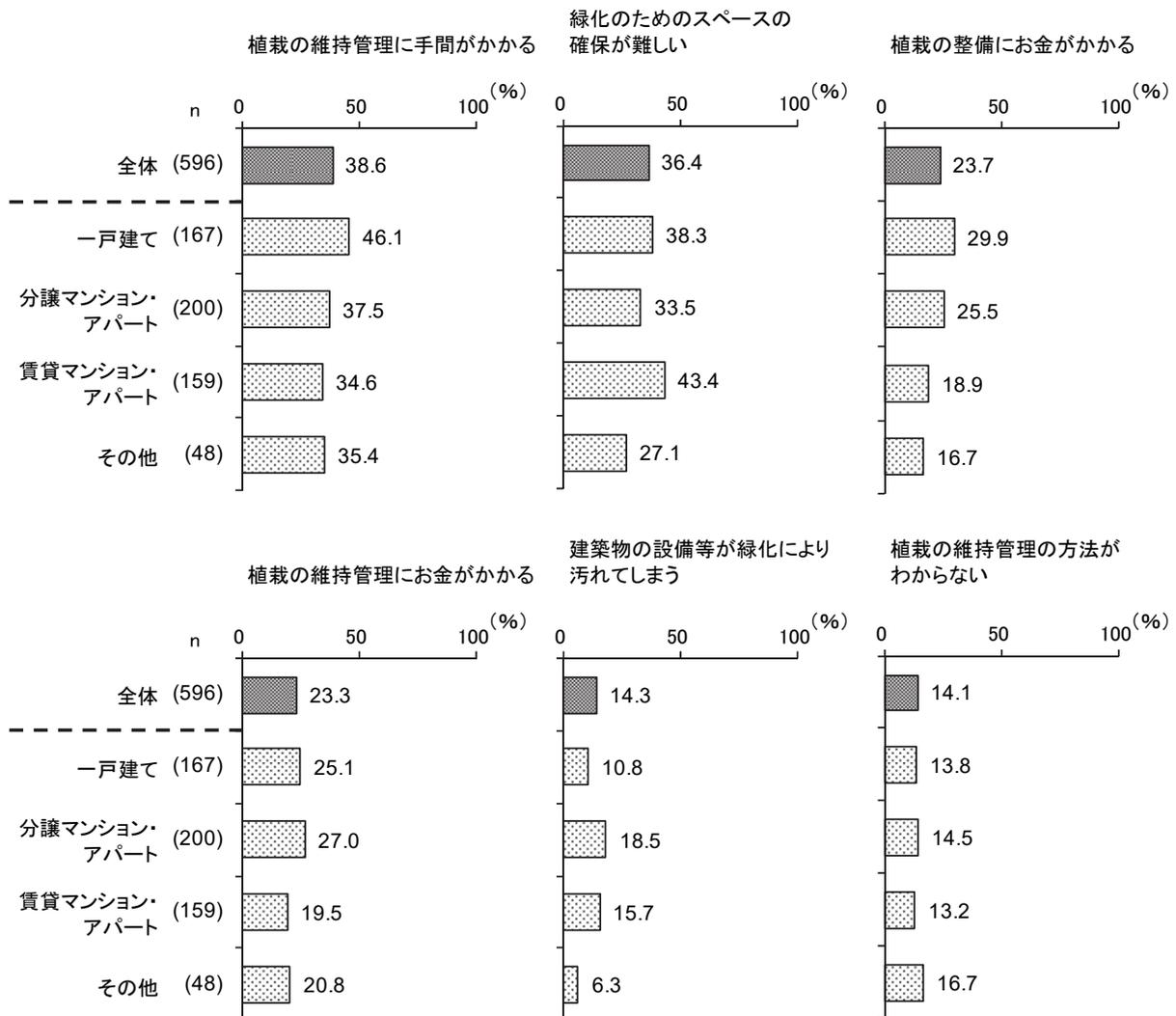
	(n= 596)
1 植栽の整備にお金がかかる	23.7%
2 植栽の整備の方法がわからない	11.4
3 植栽の維持管理にお金がかかる	23.3
4 植栽の維持管理の方法がわからない	14.1
5 植栽の維持管理に手間がかかる	38.6
6 緑化のためのスペースの確保が難しい	36.4
7 建築物の構造上、植栽や緑化資材による重さに耐えられるかわからない	8.2
8 建築物の設備等が緑化により汚れてしまう	14.3
9 その他	15.6
10 特にない	2.9
無回答	10.4

図3-4-1 建築物上の緑化をするにあたり、難しいこと



建築物上の緑化をするにあたり、難しいことは、「植栽の維持管理に手間がかかる」(38.6%)が4割近くで最も高く、次いで「緑化のためのスペースの確保が難しい」(36.4%)が3割台半ばを超え、「植栽の整備にお金がかかる」(23.7%)が2割台半ば近く、「植栽の維持管理にお金がかかる」(23.3%)が2割台半ば近くと続いている。(図3-4-1)

図3-4-2 建築物上の緑化をするにあたり、難しいこと
(住居形態別4区分) 上位6項目



上位6項目について、住居形態別4区分で見ると、「植栽の維持管理に手間がかかる」では、一戸建て(46.1%)が4割台半ばを超えて最も高く、全体(38.6%)を7.5ポイント上回っている。

「緑化のためのスペースの確保が難しい」では、賃貸マンション・アパート(43.4%)が4割台半ば近くで最も高く、全体(36.4%)を7.0ポイント上回っている。(図3-4-2)

（5）屋上等緑化助成制度の認知状況

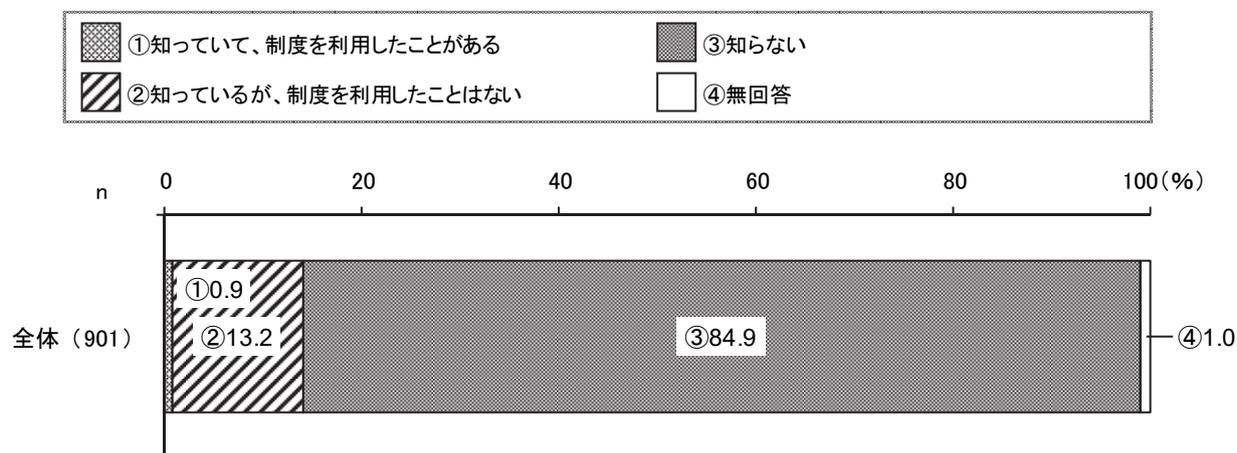
◎「知らない」が8割台半ば近く

問12 区では、みどり豊かな都市をつくるため、みどりを増やす有効な手段である建物の屋上、壁面等の緑化を推進しており、区内で行う屋上・壁面緑化等をつくる工事費の一部を助成しています。

あなたは屋上等緑化助成制度を知っていますか。（○は1つ）

	(n=901)
1 知っていて、制度を利用したことがある	0.9%
2 知っているが、制度を利用したことはない	13.2
3 知らない	84.9
無回答	1.0

図3-5 屋上等緑化助成制度の認知状況



屋上等緑化助成制度の認知状況は、「知らない」（84.9%）が8割台半ば近くとなっている。（図3-5）

テーマ4 男女共同参画に関する意識について

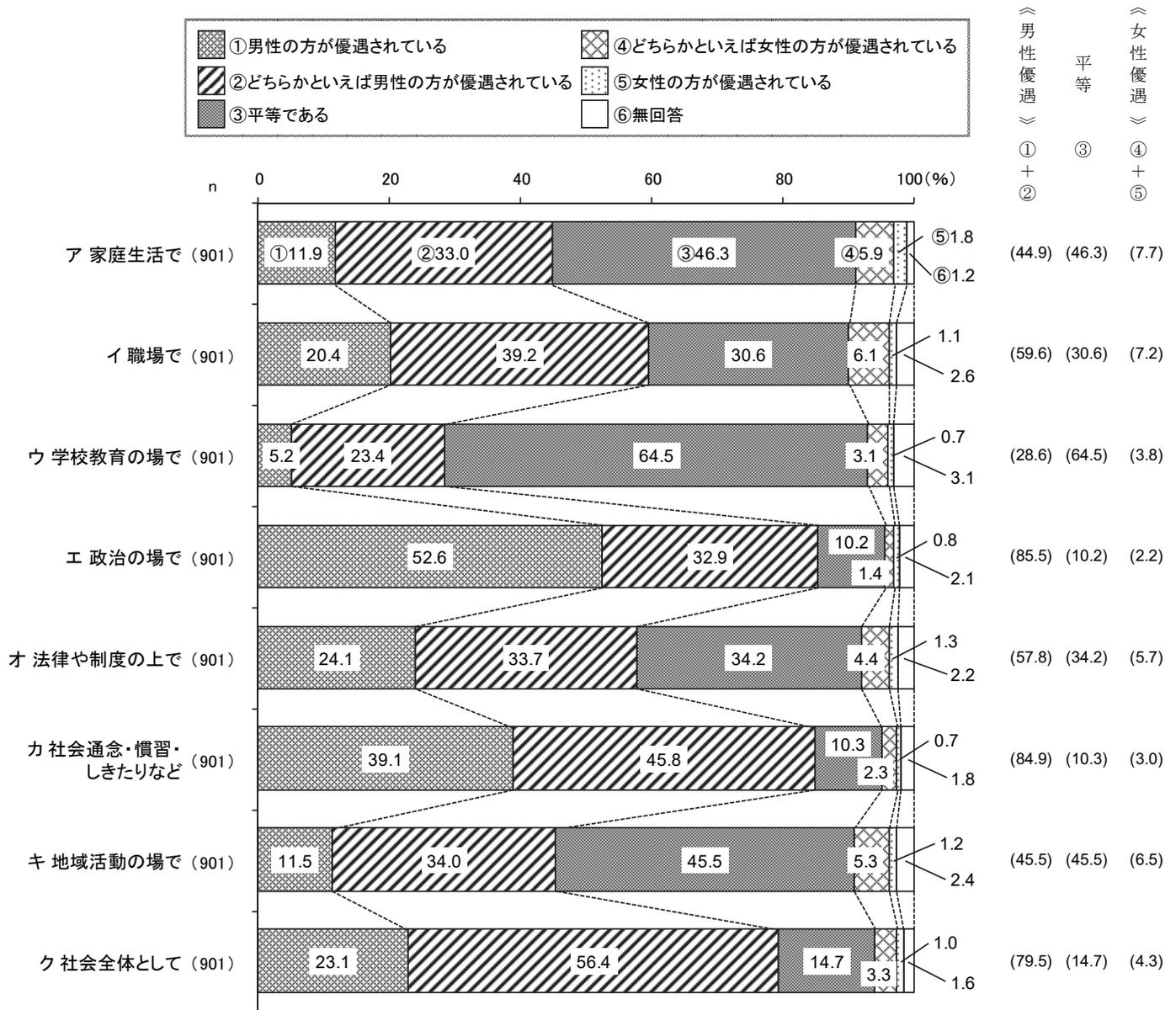
(1) さまざまな分野での男女平等意識について

◎「平等である」と思う方が多いのは『学校教育の場で』で6割台半ば近く

問13 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。 (ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)						
(n=901)						
	男性の方が優遇されている	男性の方が優遇されている どちらかといえば	平等である	女性の方が優遇されている どちらかといえば	女性の方が優遇されている	無回答
ア 家庭生活上で	11.9%	33.0%	46.3%	5.9%	1.8%	1.2%
イ 職場で	20.4	39.2	30.6	6.1	1.1	2.6
ウ 学校教育の場で	5.2	23.4	64.5	3.1	0.7	3.1
エ 政治の場で	52.6	32.9	10.2	1.4	0.8	2.1
オ 法律や制度の上で	24.1	33.7	34.2	4.4	1.3	2.2
カ 社会通念・慣習・ しきたりなど	39.1	45.8	10.3	2.3	0.7	1.8
キ 地域活動の場で	11.5	34.0	45.5	5.3	1.2	2.4
ク 社会全体として	23.1	56.4	14.7	3.3	1.0	1.6

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

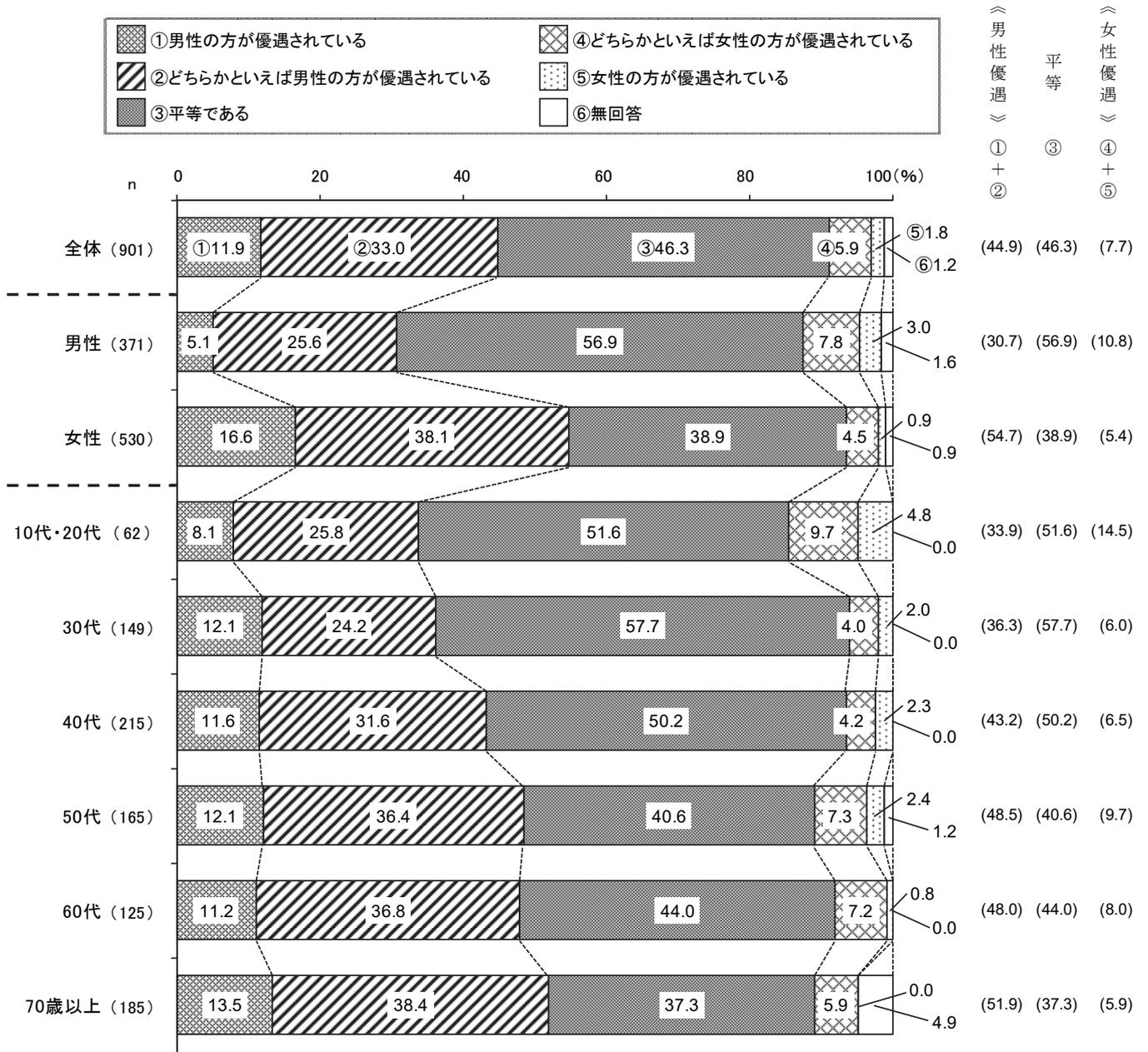
図4-1-1 さまざまな分野での男女平等意識について



さまざまな分野での男女平等意識について、「平等である」は『学校教育の場で』（64.5%）が6割台半ば近くとなっている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた《男性優遇》は、『政治の場で』（85.5%）が8割台半ば、『社会通念・慣習・しきたりなど』（84.9%）が8割台半ば近くとなっている。（図4-1-1）

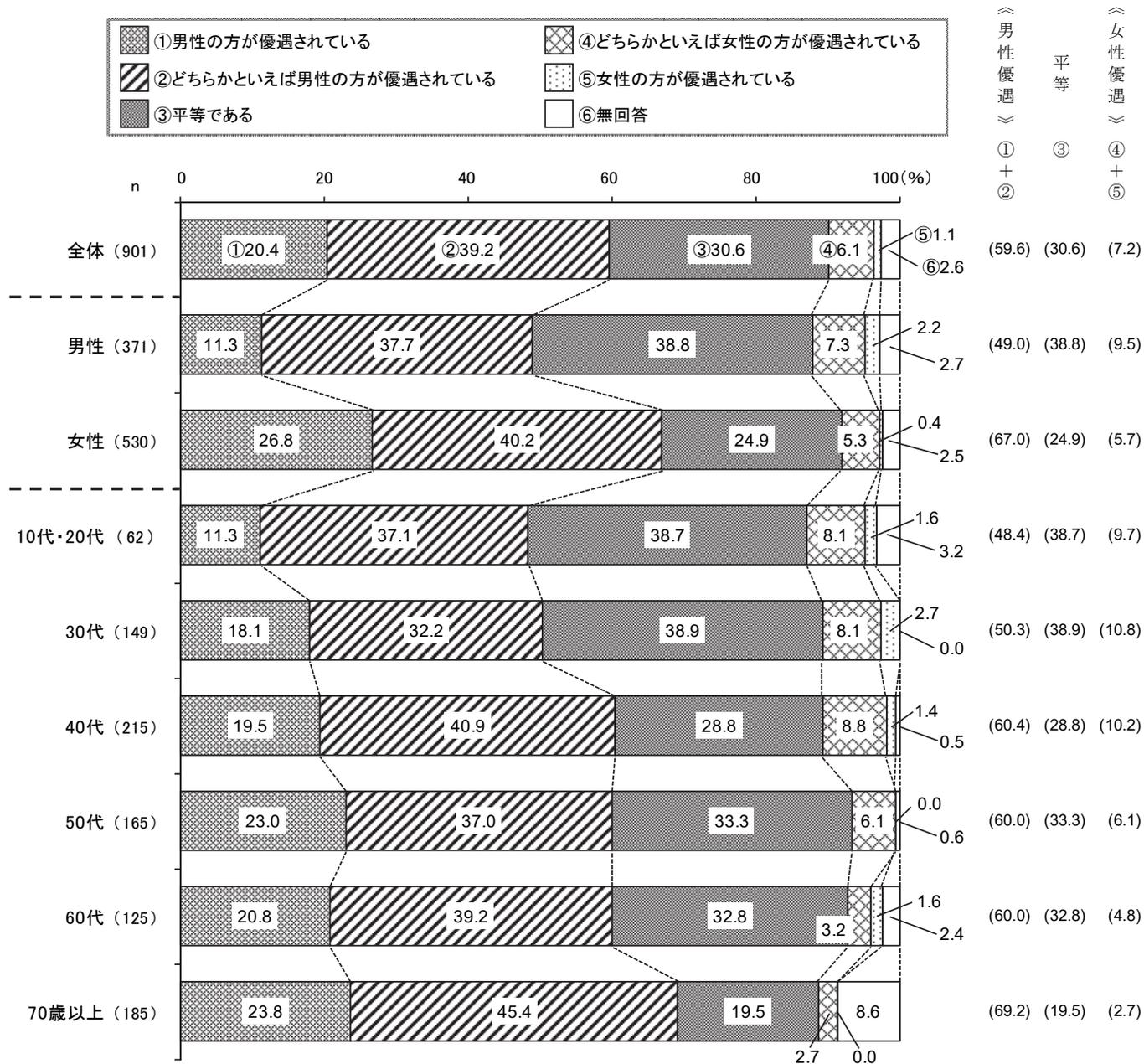
図4-1-2 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ア 家庭生活で』



『家庭生活で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（54.7%）が5割台半ば近くと、男性（30.7%）を24.0ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は30代（57.7%）が5割台半ばを超えて高くなっており、全体（46.3%）を11.4ポイント上回っている。（図4-1-2）

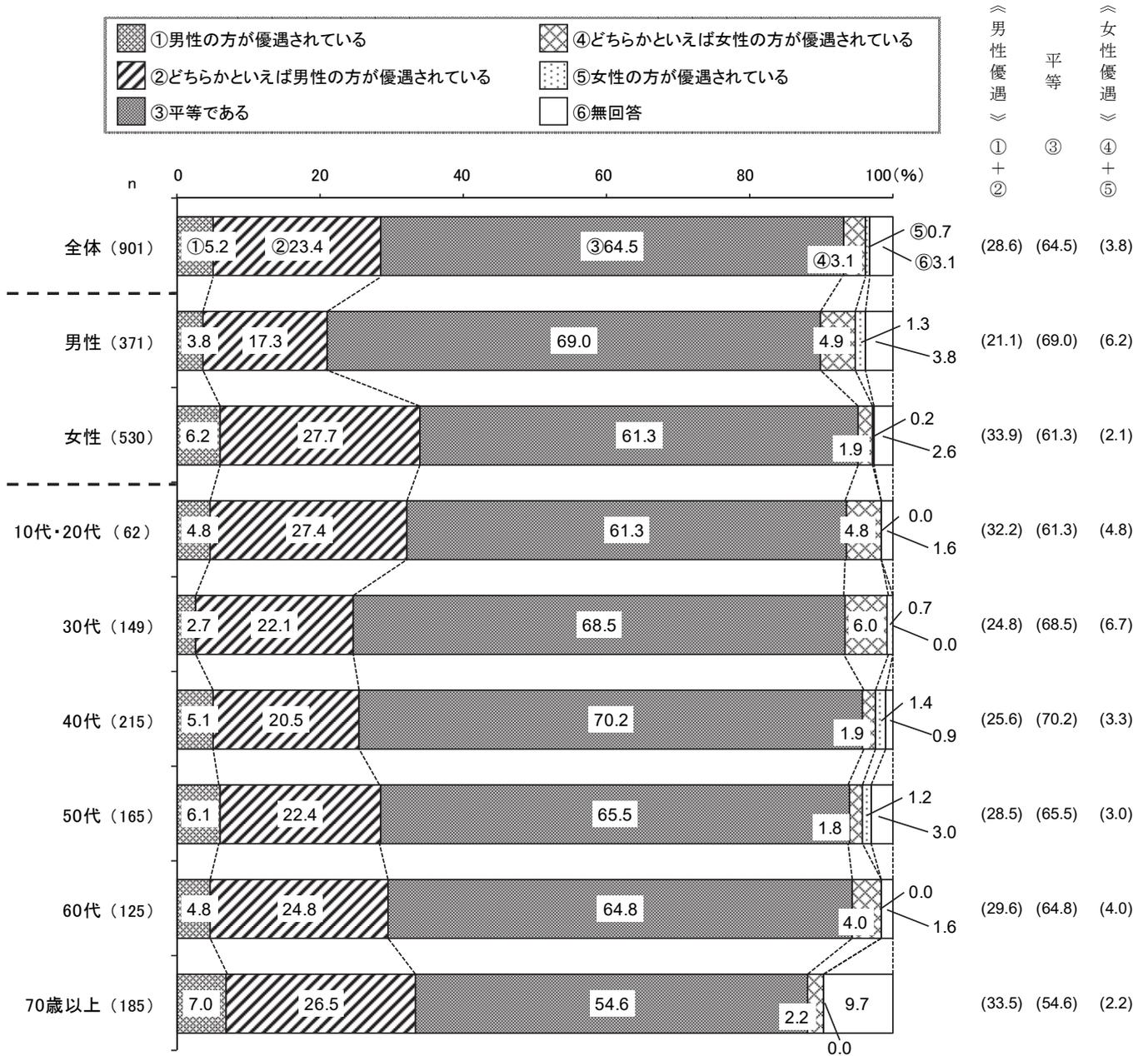
図4-1-3 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『イ 職場で』



『職場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（67.0%）が6割台半ばを超え、男性（49.0%）を18.0ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は70歳以上（69.2%）が7割弱で高くなっており、全体（59.6%）を9.6ポイント上回っている。（図4-1-3）

図4-1-4 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『ウ 学校教育の場で』

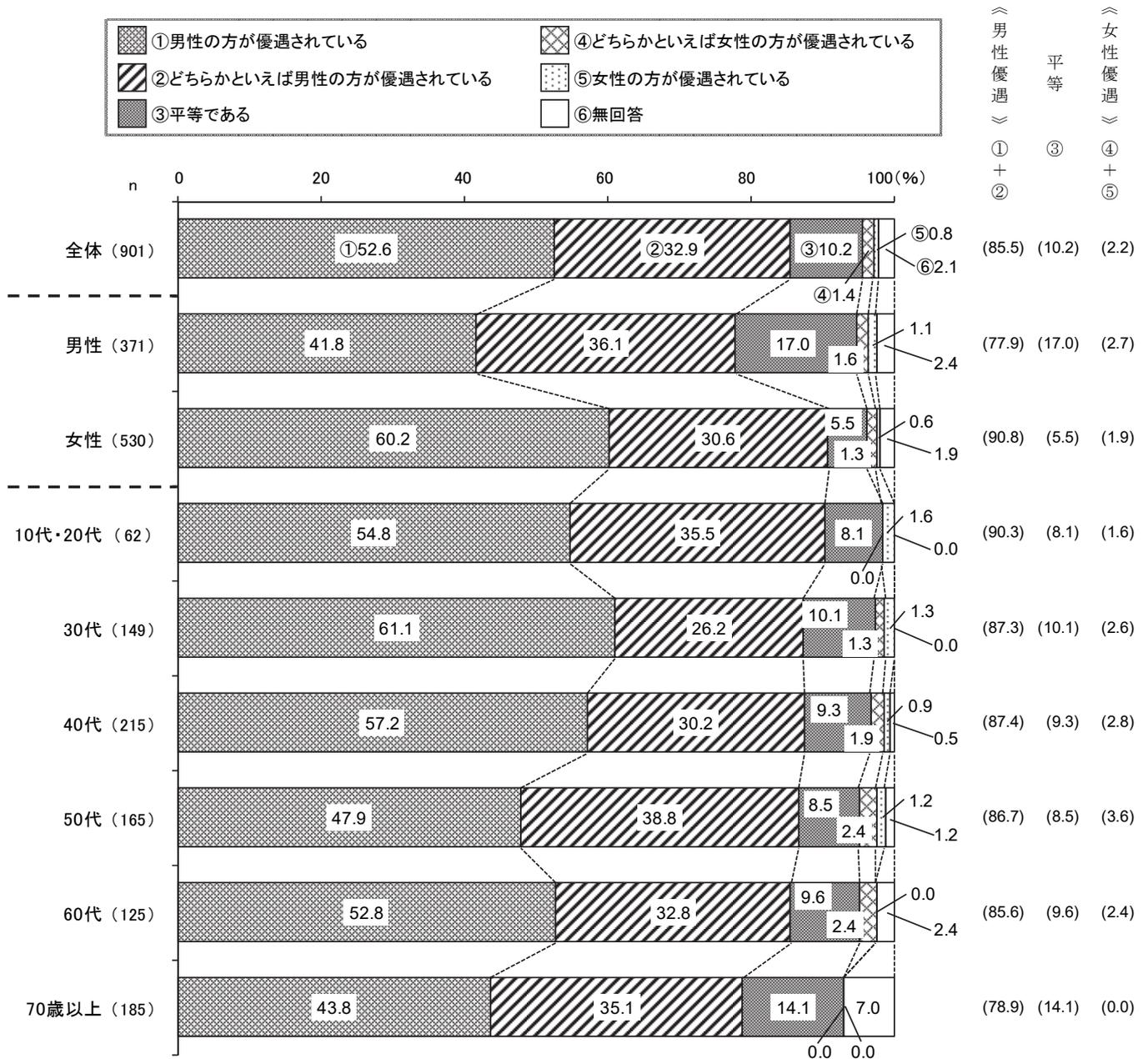


『学校教育の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（33.9%）が3割台半ば近くと、男性（21.1%）を12.8ポイント上回っている。

年代別で見ると、「平等である」は40代（70.2%）が約7割と高くなっており、全体（64.5%）を5.7ポイント上回っている。（図4-1-4）

Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

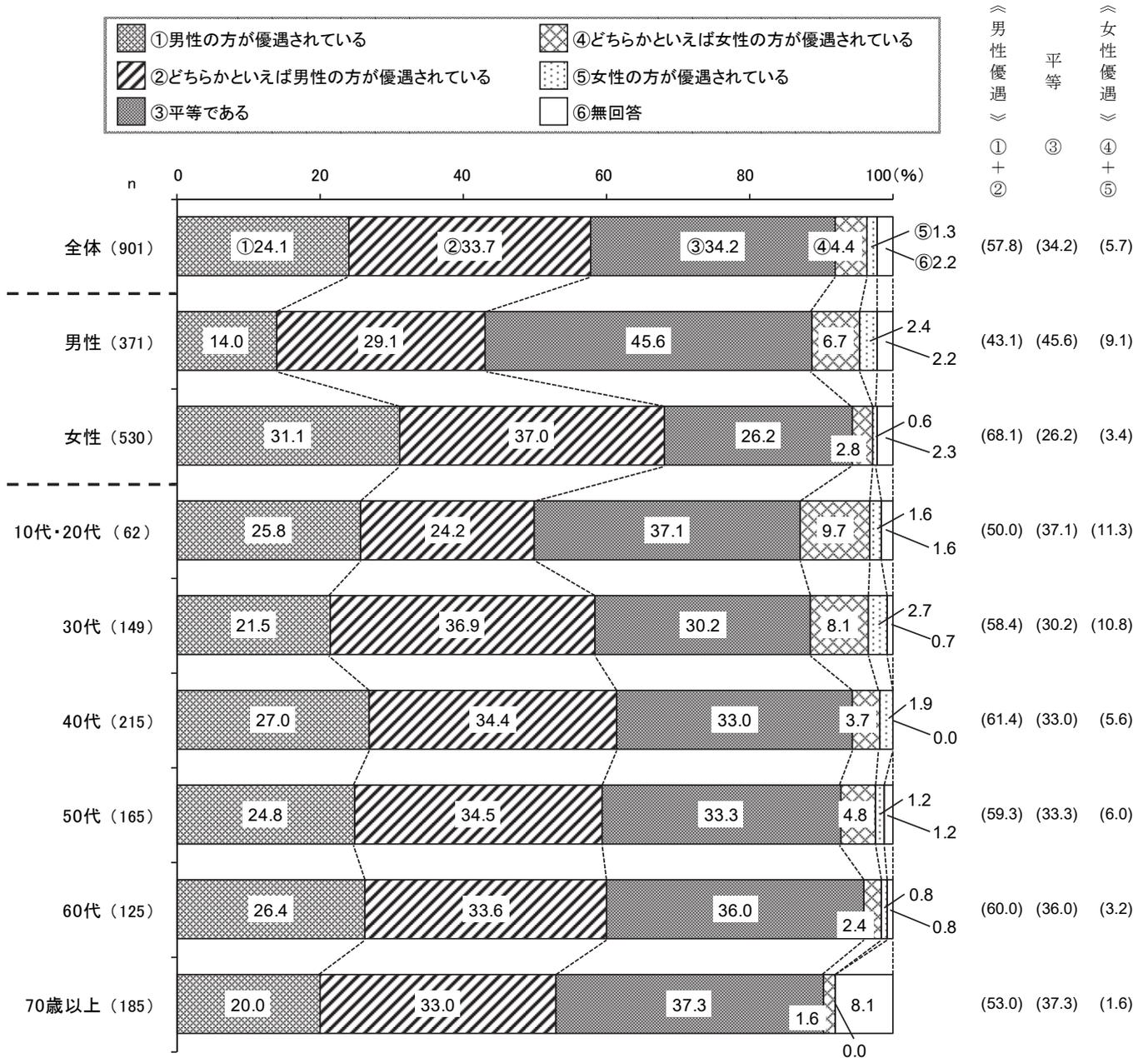
図4-1-5 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『エ 政治の場で』



『政治の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（90.8%）が約9割と、男性（77.9%）を12.9ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は10代・20代（90.3%）が約9割と高くなっており、全体（85.5%）を4.8ポイント上回っている。（図4-1-5）

図4-1-6 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『才 法律や制度の上で』

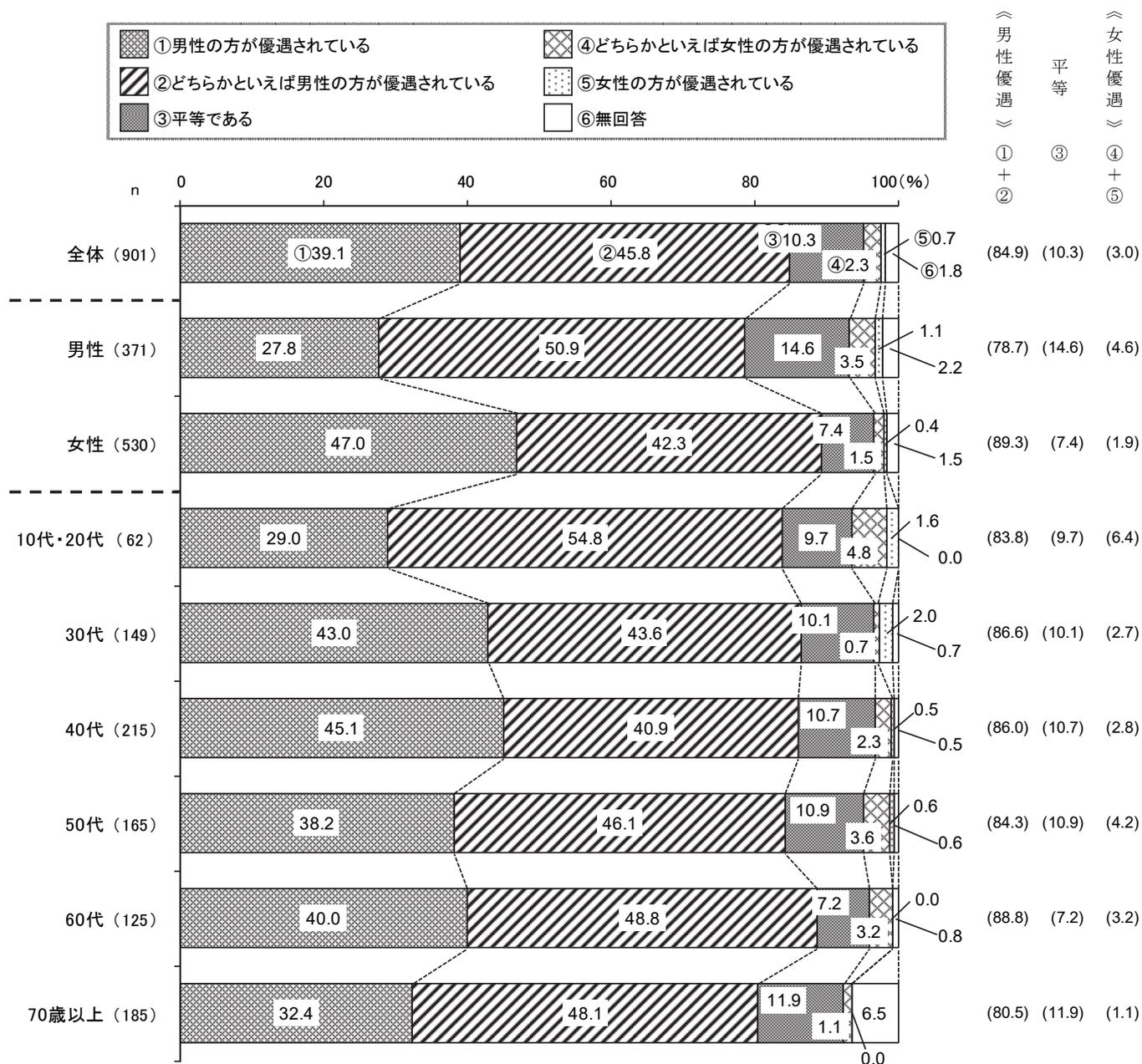


『法律や制度の上で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（68.1%）が7割近くと、男性（43.1%）を25.0ポイント上回っている。一方、「平等である」は女性（26.2%）が2割台半ばを超え、男性（45.6%）を19.4ポイント下回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は10代・20代（50.0%）が5割と低くなっており、全体（57.8%）を7.8ポイント下回っている。（図4-1-6）

図4-1-7 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）

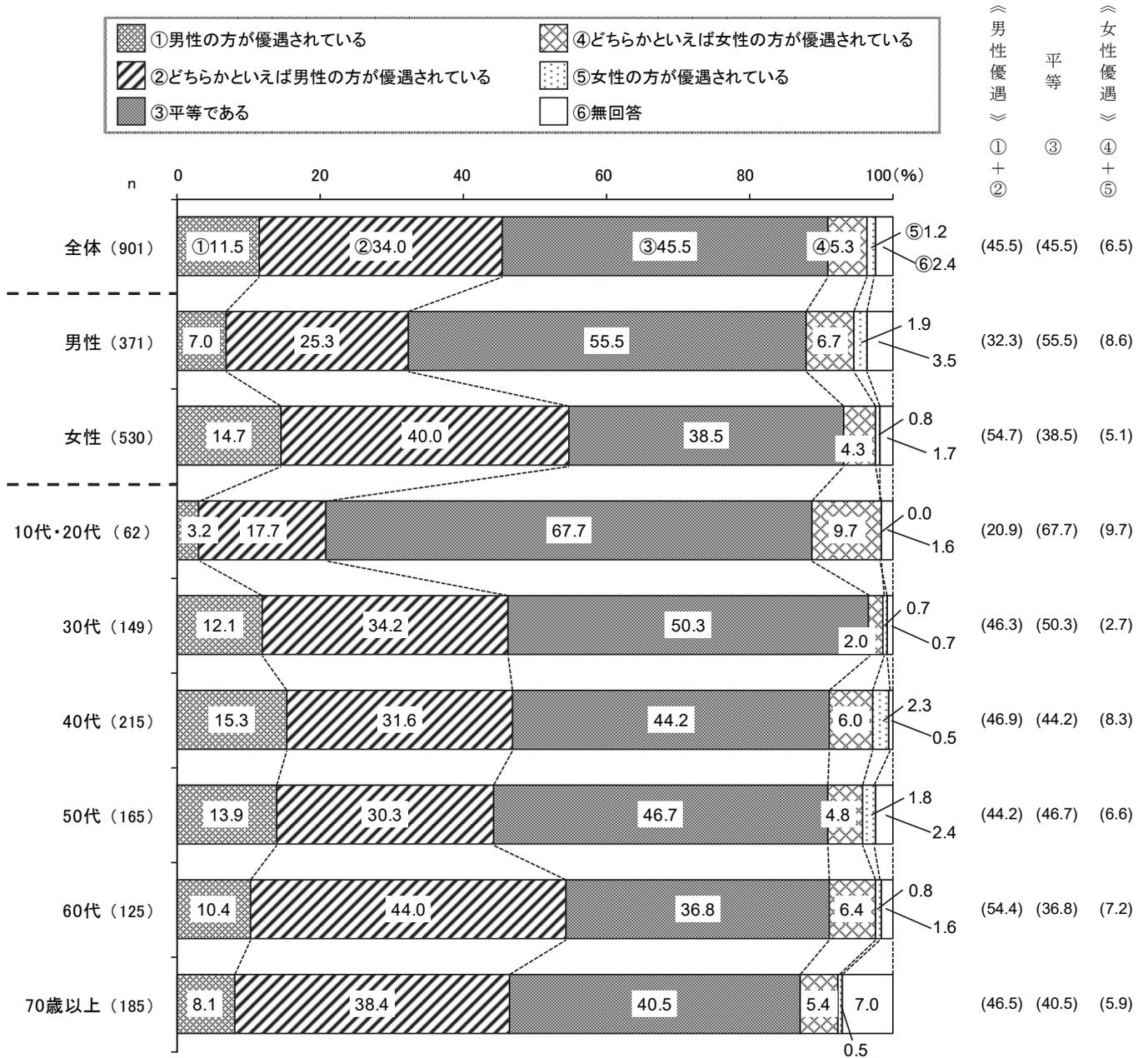
『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



『社会通念・慣習・しきたりなど』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（89.3%）が9割弱と、男性（78.7%）を10.6ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は60代（88.8%）が9割近くと高くなっており、全体（84.9%）を3.9ポイント上回っている。（図4-1-7）

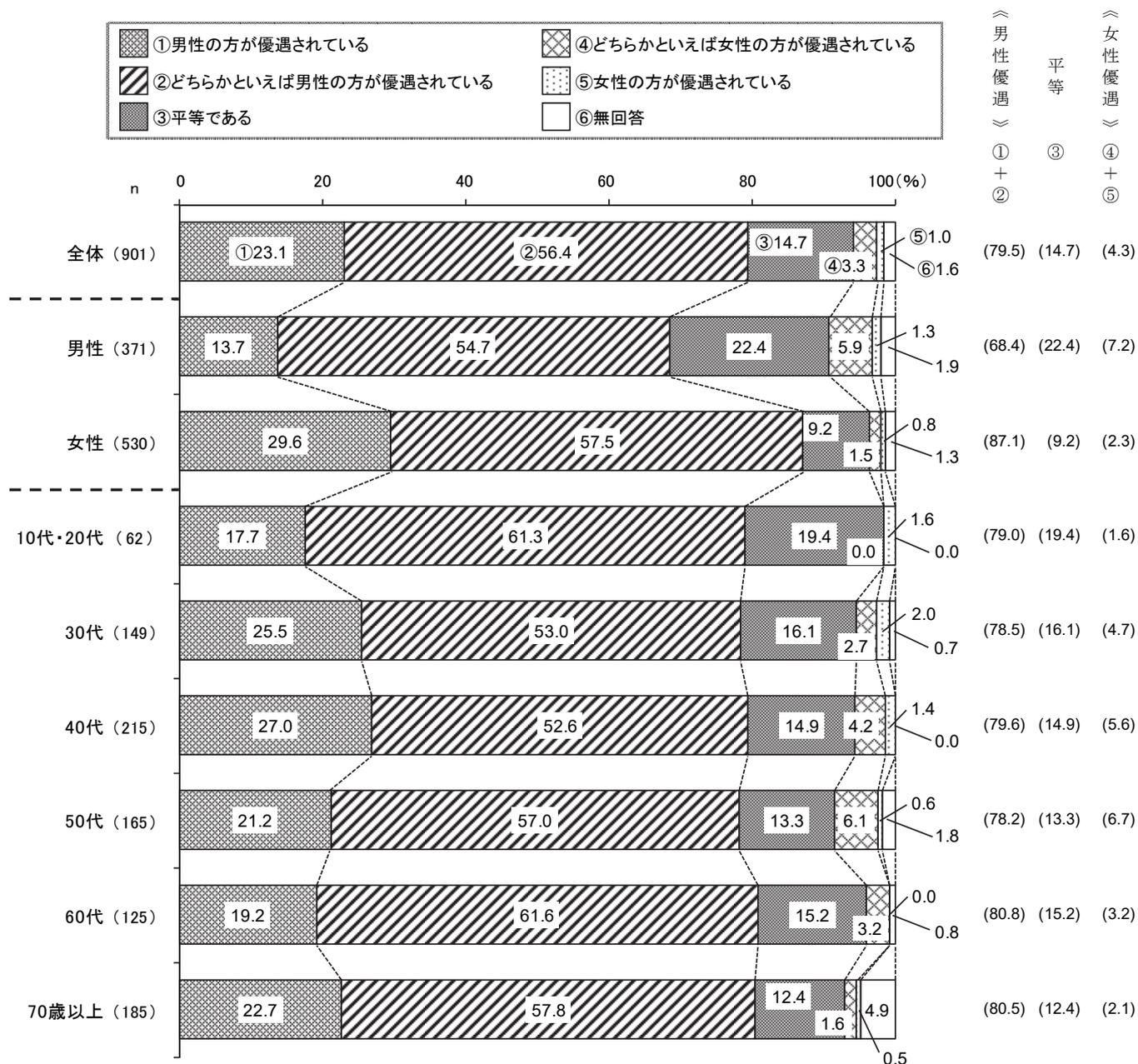
図4-1-8 さまざまな分野での男女平等意識について
(性別・年代別)
『キ 地域活動の場で』



『地域活動の場で』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（54.7%）が5割台半ば近くと、男性（32.3%）を22.4ポイント上回っている。一方、「平等である」は女性（38.5%）が4割近くと、男性（55.5%）を17.0ポイント下回っている。

年代別で見ると、「平等である」は10代・20代（67.7%）が6割台半ばを超えて高くなっており、全体（45.5%）を22.2ポイント上回っている。（図4-1-8）

図4-1-9 さまざまな分野での男女平等意識について
（性別・年代別）
『ク 社会全体として』

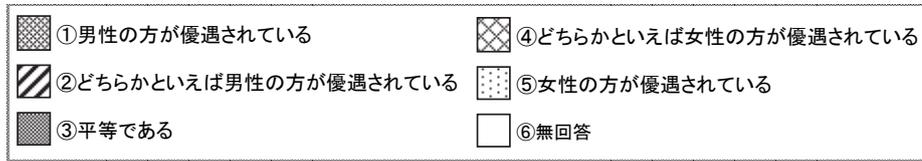


『社会全体として』について、性別で見ると、《男性優遇》は女性（87.1%）が8割台半ばを超え、男性（68.4%）を18.7ポイント上回っている。

年代別で見ると、《男性優遇》は年代によって大きな差はみられない。（図4-1-9）

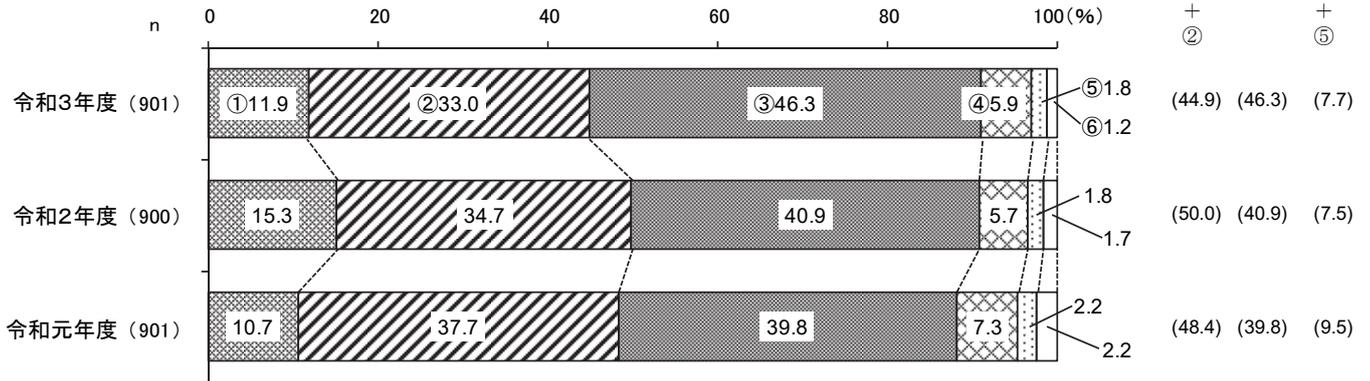
図4-1-10 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『ア 家庭生活上』・『イ 職場で』

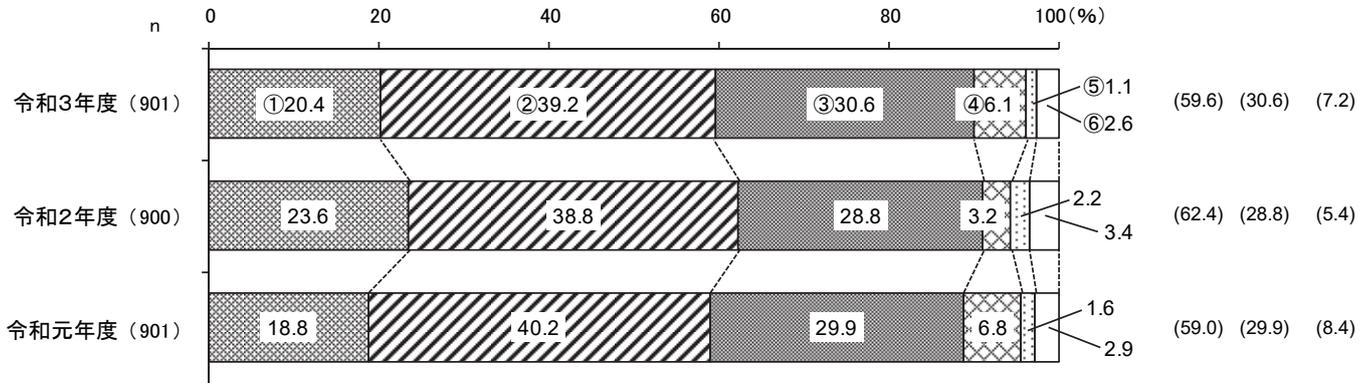


≪ 男性優遇 ≫
① + ②
≪ 平等 ≫
③
≪ 女性優遇 ≫
④ + ⑤

『ア 家庭生活上』



『イ 職場で』



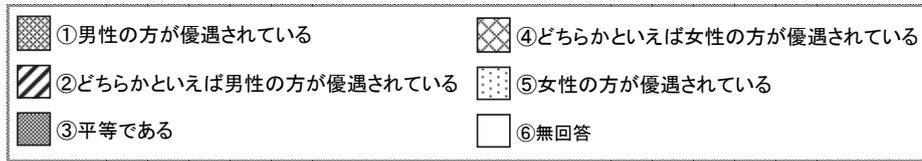
過去3年間の経年推移をみると、『家庭生活上』では「平等である」の割合が年々高くなっている。

『職場で』では《男性優遇》について、令和元年度（59.0%）から令和2年度（62.4%）にかけて3.4ポイント高くなり、令和3年度（59.6%）は令和元年度と同程度になっている。

(図4-1-10)

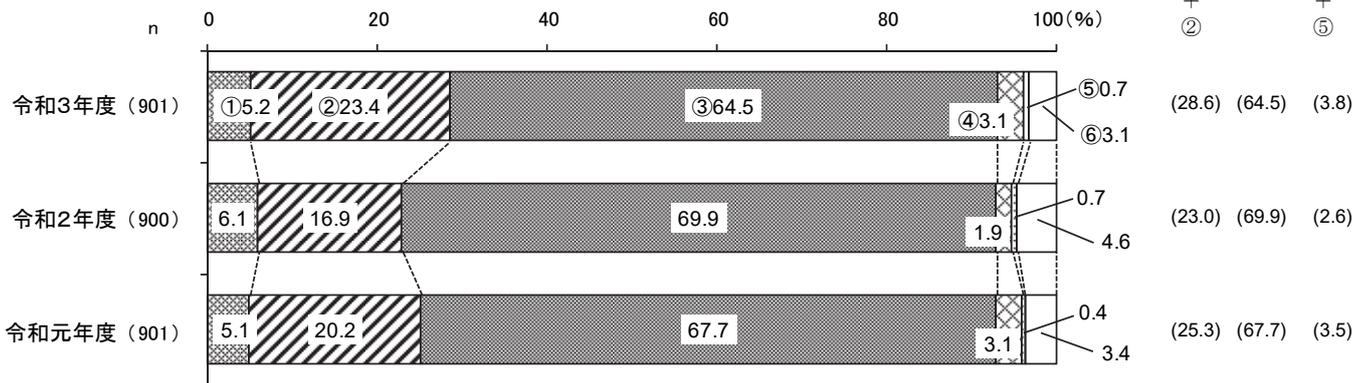
図4-1-11 さまざまな分野での男女平等意識について
（経年推移）

『ウ 学校教育の場で』・『エ 政治の場で』

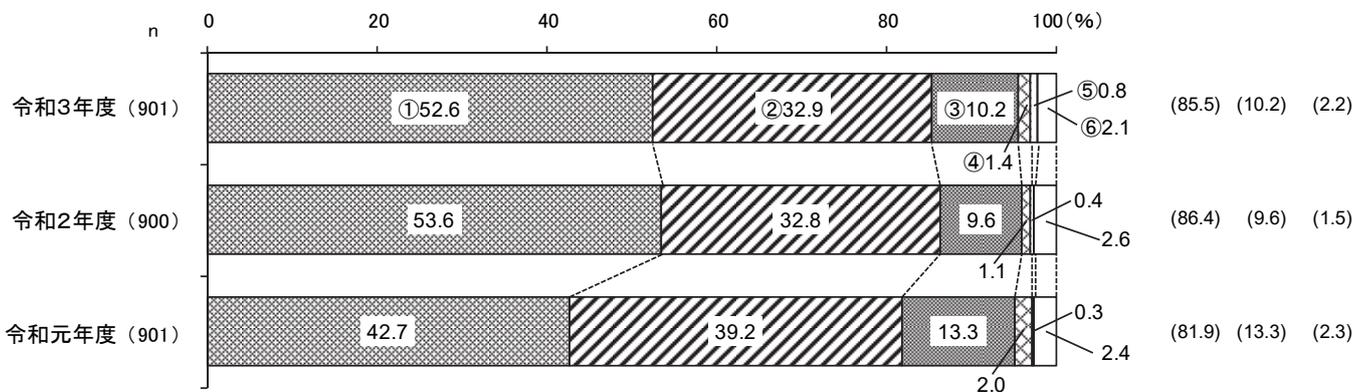


《男性優遇》
① + ②
《平等》
③
《女性優遇》
④ + ⑤

『ウ 学校教育の場で』



『エ 政治の場で』



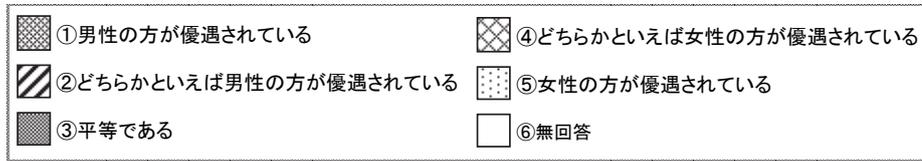
過去3年間の経年推移をみると、『学校教育の場で』では《男性優遇》について、令和2年度（23.0%）から令和3年度（28.6%）にかけて5.6ポイント高くなっている。

『政治の場で』では《男性優遇》について、令和元年度（81.9%）から令和2年度（86.4%）にかけて4.5ポイント高く、令和3年度（85.5%）は令和2年度と同程度になっている。

（図4-1-11）

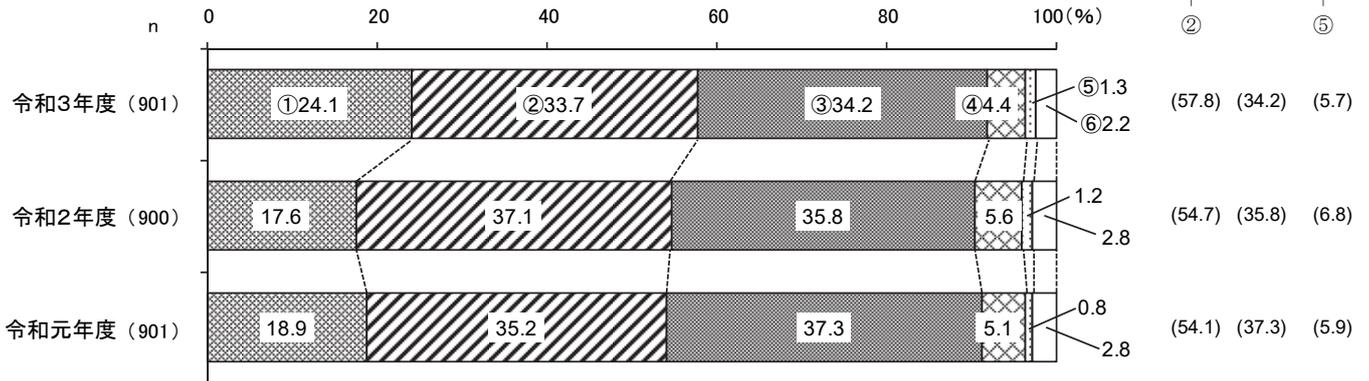
図4-1-12 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『オ 法律や制度の上で』・『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』

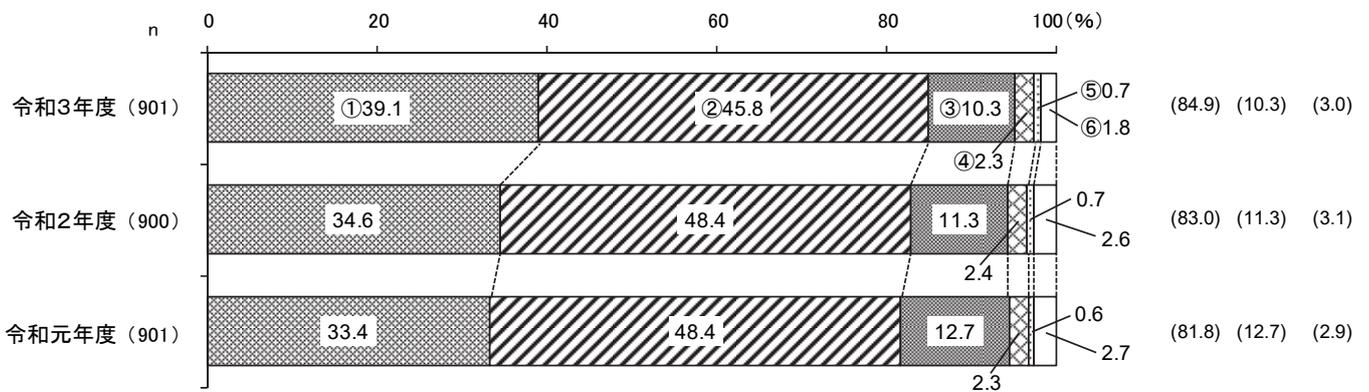


≪ 男性優遇 ≫
① + ②
≪ 平等 ≫
③
≪ 女性優遇 ≫
④ + ⑤

『オ 法律や制度の上で』



『カ 社会通念・慣習・しきたりなど』



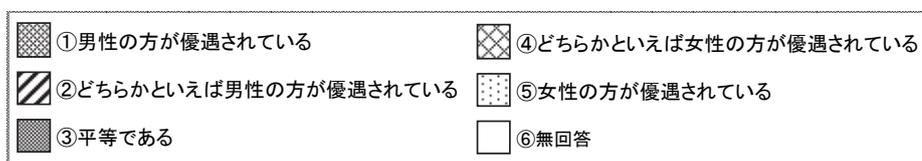
過去3年間の経年推移をみると、『法律や制度の上で』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。

『社会通念・慣習・しきたりなど』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。

(図4-1-12)

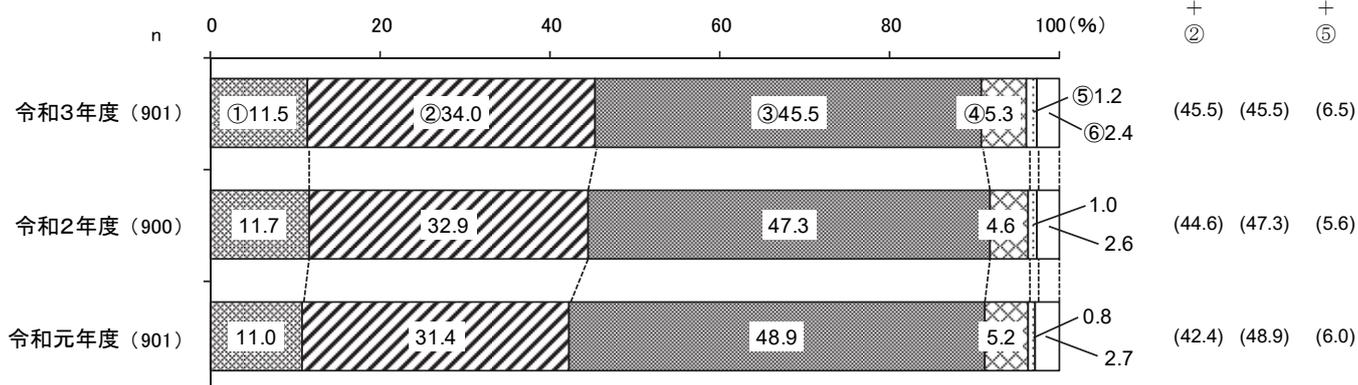
図4-1-13 さまざまな分野での男女平等意識について
(経年推移)

『キ 地域活動の場で』・『ク 社会全体として』

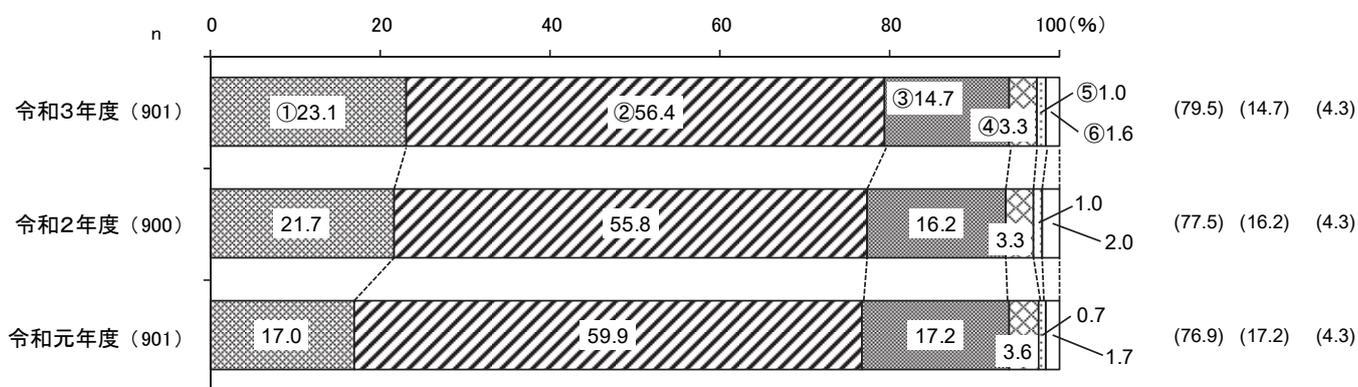


≪ 男性優遇 ≫
① + ②
≪ 平等 ≫
③
≪ 女性優遇 ≫
④ + ⑤

『キ 地域活動の場で』



『ク 社会全体として』



過去3年間の経年推移をみると、『地域活動の場で』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。

『社会全体として』では《男性優遇》の割合が年々高くなっている。(図4-1-13)

(2) 男女共同参画に関する言葉について

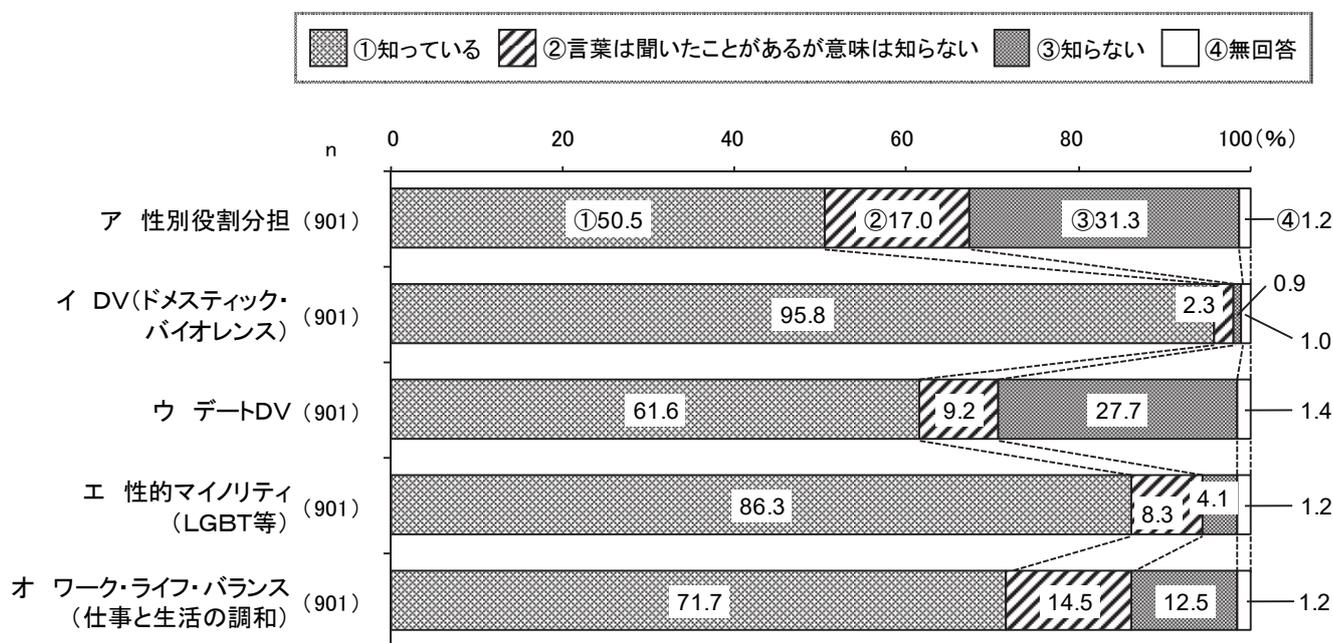
◎「知っている」と思う方が多いのは『DV（ドメスティック・バイオレンス）』で9割台半ば、『性的マイノリティ（LGBT等）』が8割台半ばを超え

問14 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。
(ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

(n=901)

	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない	無回答
ア 性別役割分担	50.5%	17.0%	31.3%	1.2%
イ DV（ドメスティック・バイオレンス）	95.8	2.3	0.9	1.0
ウ デートDV	61.6	9.2	27.7	1.4
エ 性的マイノリティ（LGBT等）	86.3	8.3	4.1	1.2
オ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	71.7	14.5	12.5	1.2

図4-2 男女共同参画に関する言葉について



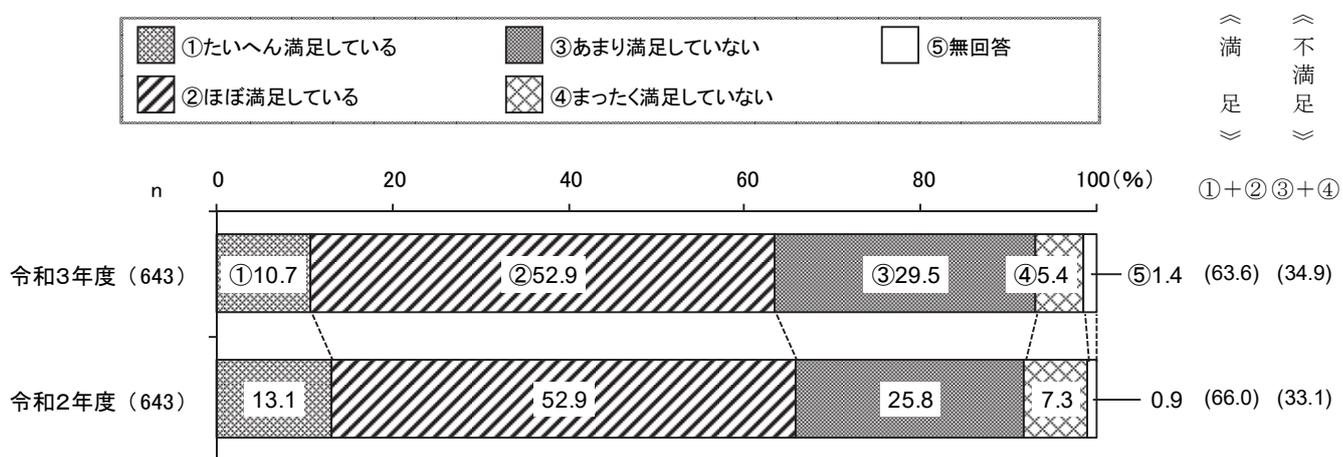
男女共同参画に関する言葉について、「知っている」は『DV（ドメスティック・バイオレンス）』（95.8%）が9割台半ばで最も高く、次いで『性的マイノリティ（LGBT等）』（86.3%）が8割台半ばを超えている。一方、「知らない」は『性別役割分担』（31.3%）が3割強、『デートDV』（27.7%）が2割台半ばを超えている。（図4-2）

（3）仕事と生活のバランスの満足度

◎現在の仕事と生活のバランスに《満足》が6割台半ば近く

問15 働いているすべての方にお伺いします。		
あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。（〇は1つ）		(n=643)
1	たいへん満足している	10.7%
2	ほぼ満足している	52.9
3	あまり満足していない	29.5
4	まったく満足していない	5.4
	無回答	1.4

図4-3 仕事と生活のバランスの満足度
（経年推移）



仕事と生活のバランスの満足度について、《満足》（「たいへん満足している」＋「ほぼ満足している」）（63.6%）が6割台半ば近く、《不満足》（「あまり満足していない」＋「まったく満足していない」）（34.9%）が3割台半ば近くとなっている。

前回の調査結果（令和2年度区政モニターアンケート調査）と比較すると、《満足》（63.6%）が前回（66.0%）より2.4ポイント低くなっている。（図4-3）

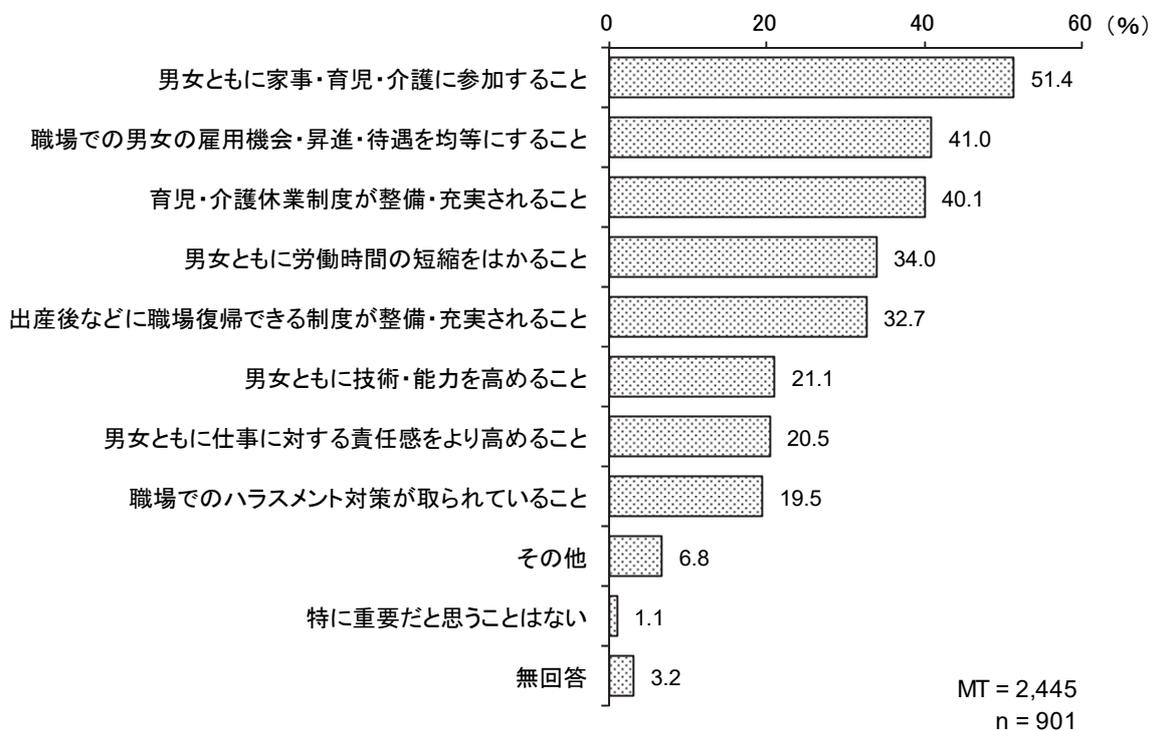
(4) 男女とも働きやすい環境づくりについて

◎「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」が5割強

問16 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。
(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

	(n=901)
1 男女ともに労働時間の短縮をはかること	34.0%
2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること	51.4
3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること	20.5
4 男女ともに技術・能力を高めること	21.1
5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること	41.0
6 職場でのハラスメント対策が取られていること	19.5
7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること	32.7
8 育児・介護休業制度が整備・充実されること	40.1
9 その他	6.8
10 特に重要だと思わないこと	1.1
無回答	3.2

図4-4 男女とも働きやすい環境づくりについて



男女とも働きやすい環境づくりについて、「男女ともに家事・育児・介護に参加すること」(51.4%)が5割強で最も高く、次いで「職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること」(41.0%)が4割強、「育児・介護休業制度が整備・充実されること」(40.1%)が約4割と続いている。

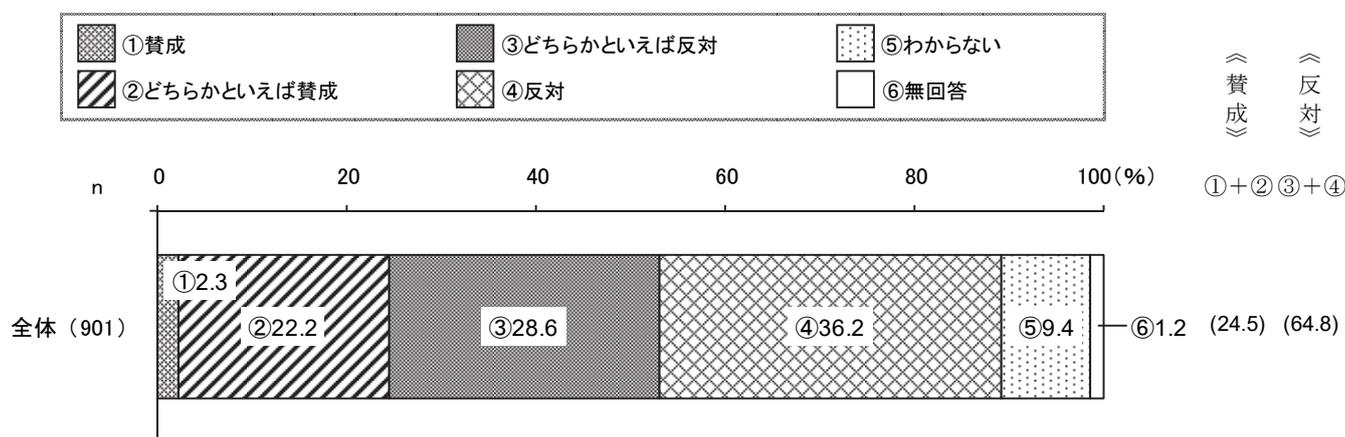
(図4-4)

（5）「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

◎《賛成》が2割台半ば近く、《反対》が6割台半ば近く

問17 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。（○は1つ）		(n=901)
1	賛成	2.3%
2	どちらかといえば賛成	22.2
3	どちらかといえば反対	28.6
4	反対	36.2
5	わからない	9.4
	無回答	1.2

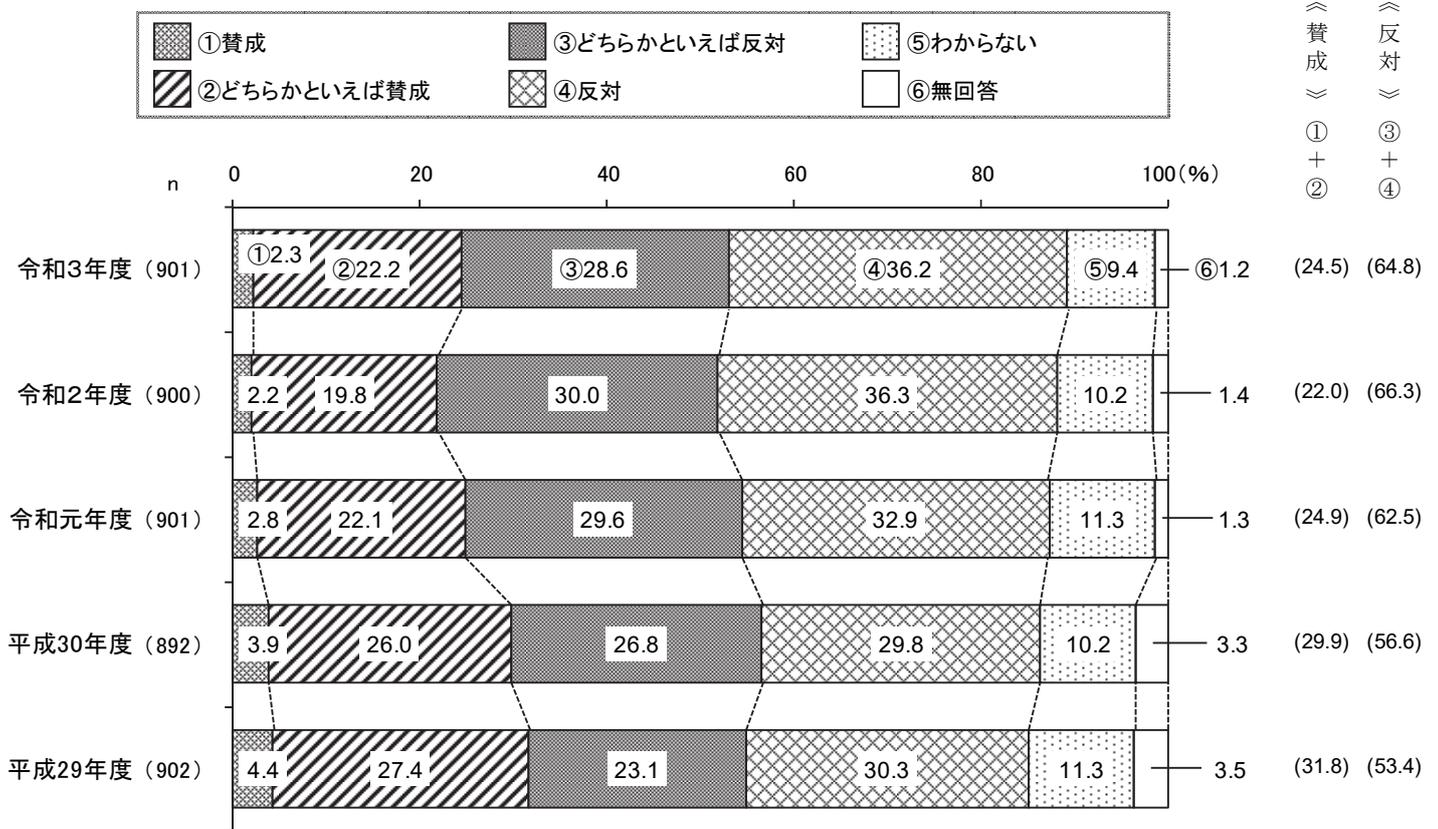
図4-5-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、「反対」（36.2%）が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「どちらかといえば反対」（28.6%）が3割近くとなっている。

《賛成》（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）（24.5%）が2割台半ば近く、《反対》（「反対」＋「どちらかといえば反対」）（64.8%）が6割台半ば近くとなっている。（図4-5-1）

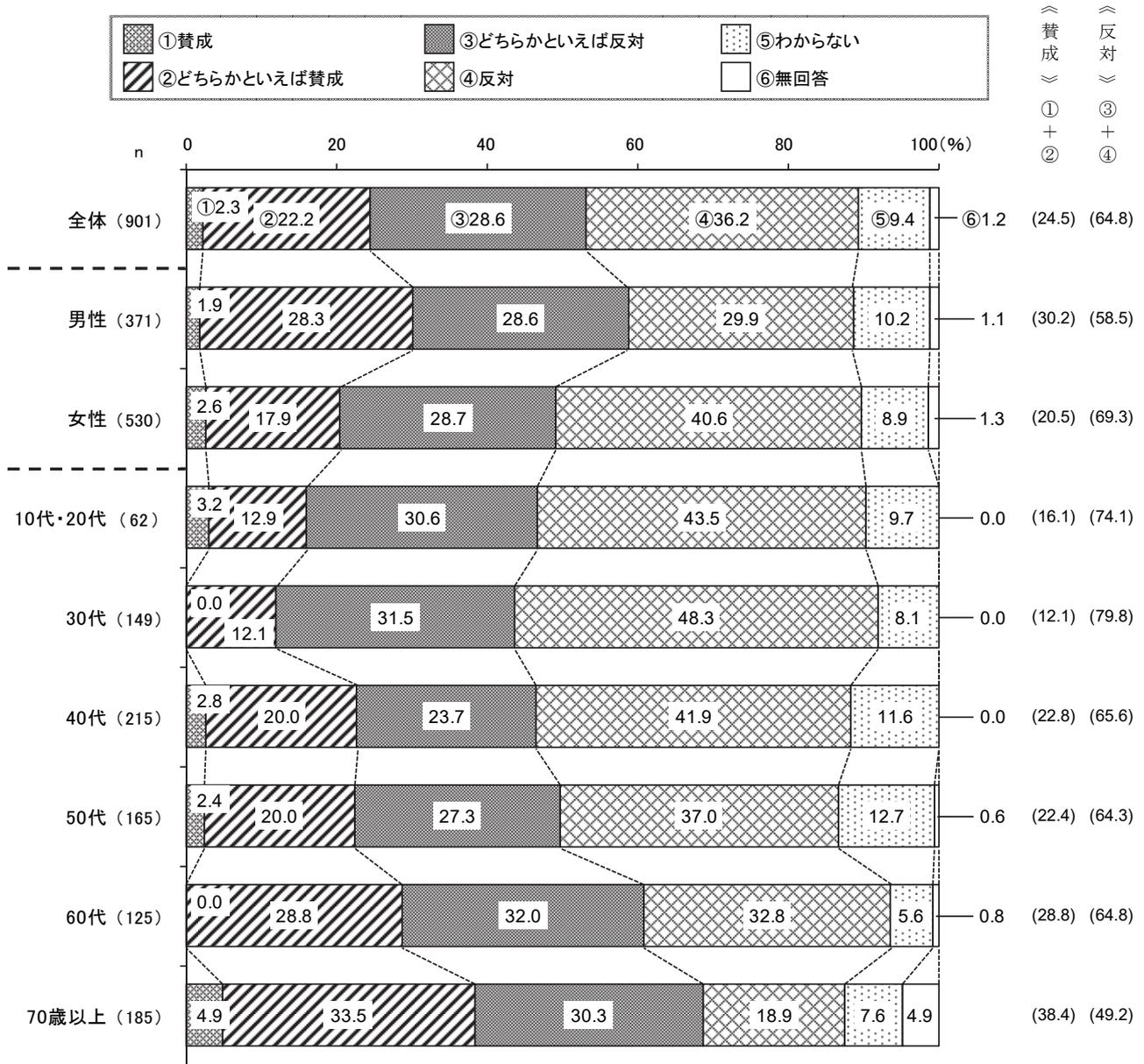
図4-5-2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
(経年推移)



過去5年間の経年推移をみると、《反対》の割合が平成29年度から令和2年度にかけて年々高くなり、令和3年度(64.8%)は令和2年度(66.3%)から1.5ポイント低くなっている。

(図4-5-2)

図4-5-3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
（性別・年代別）



性別で見ると、《反対》は、女性（69.3%）が7割弱と、男性（58.5%）を10.8ポイント上回っている。

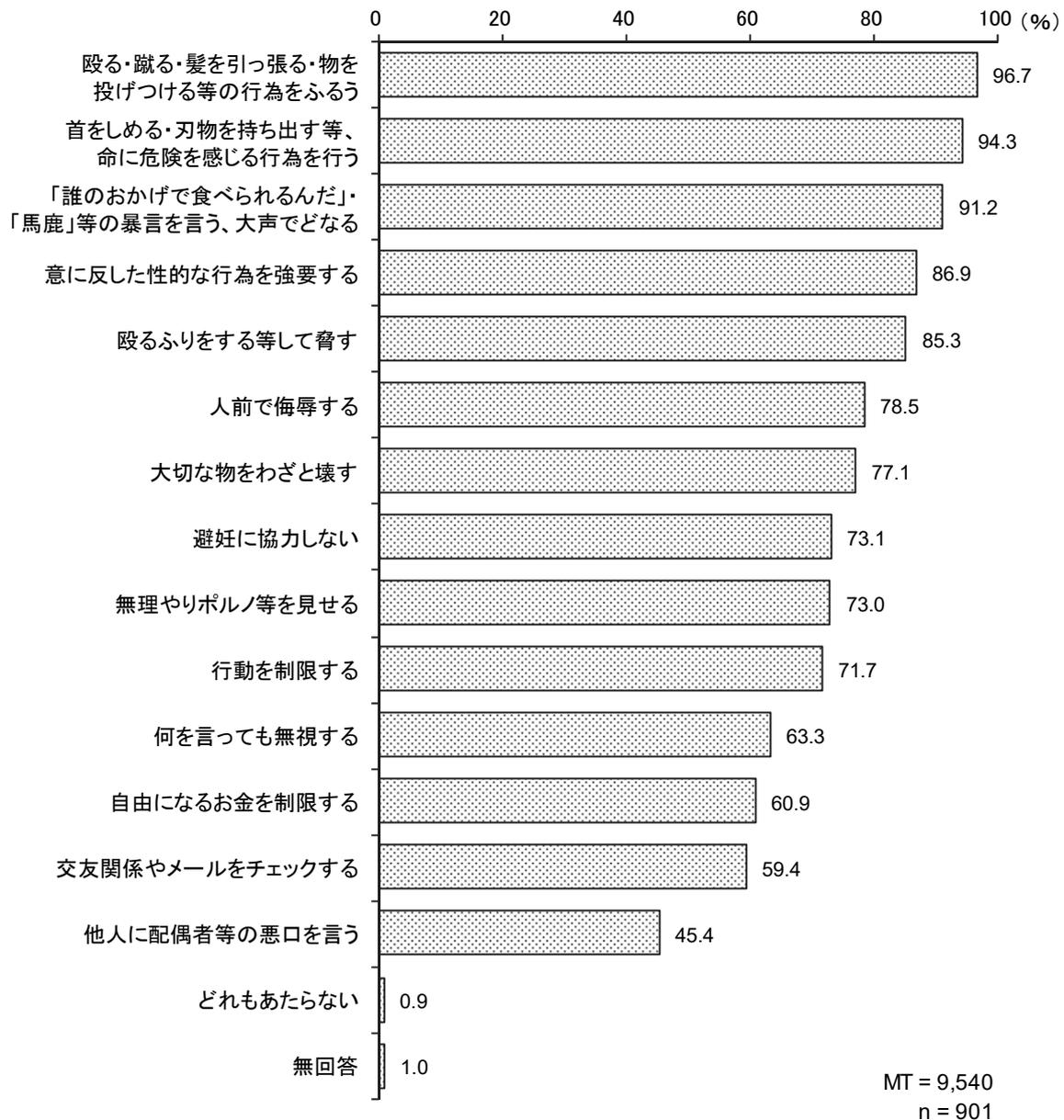
年代別で見ると、《賛成》は70歳以上（38.4%）が4割近くと高くなっており、全体（24.5%）を13.9ポイント上回っている。（図4-5-3）

(6) DVだと思ふ行為について

◎「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」が9割台半ばを超え、「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」が9割台半ば近く、「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる」が9割強

問18 ドメスティック・バイオレンス（配偶者等からの暴力。以下、「DV」という）について、DVだと思ふ行為は次のうちどれですか。 （あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		(n=901)
1	何を言っても無視する	63.3%
2	行動を制限する	71.7
3	交友関係やメールをチェックする	59.4
4	「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる	91.2
5	人前で侮辱する	78.5
6	他人に配偶者等の悪口を言う	45.4
7	大切な物をわざと壊す	77.1
8	殴るふりをする等して脅す	85.3
9	殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう	96.7
10	首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う	94.3
11	自由になるお金を制限する	60.9
12	意に反した性的な行為を強要する	86.9
13	無理やりポルノ等を見せる	73.0
14	避妊に協力しない	73.1
15	どれもあたらない	0.9
	無回答	1.0

図4-6-1 DVだと思う行為について

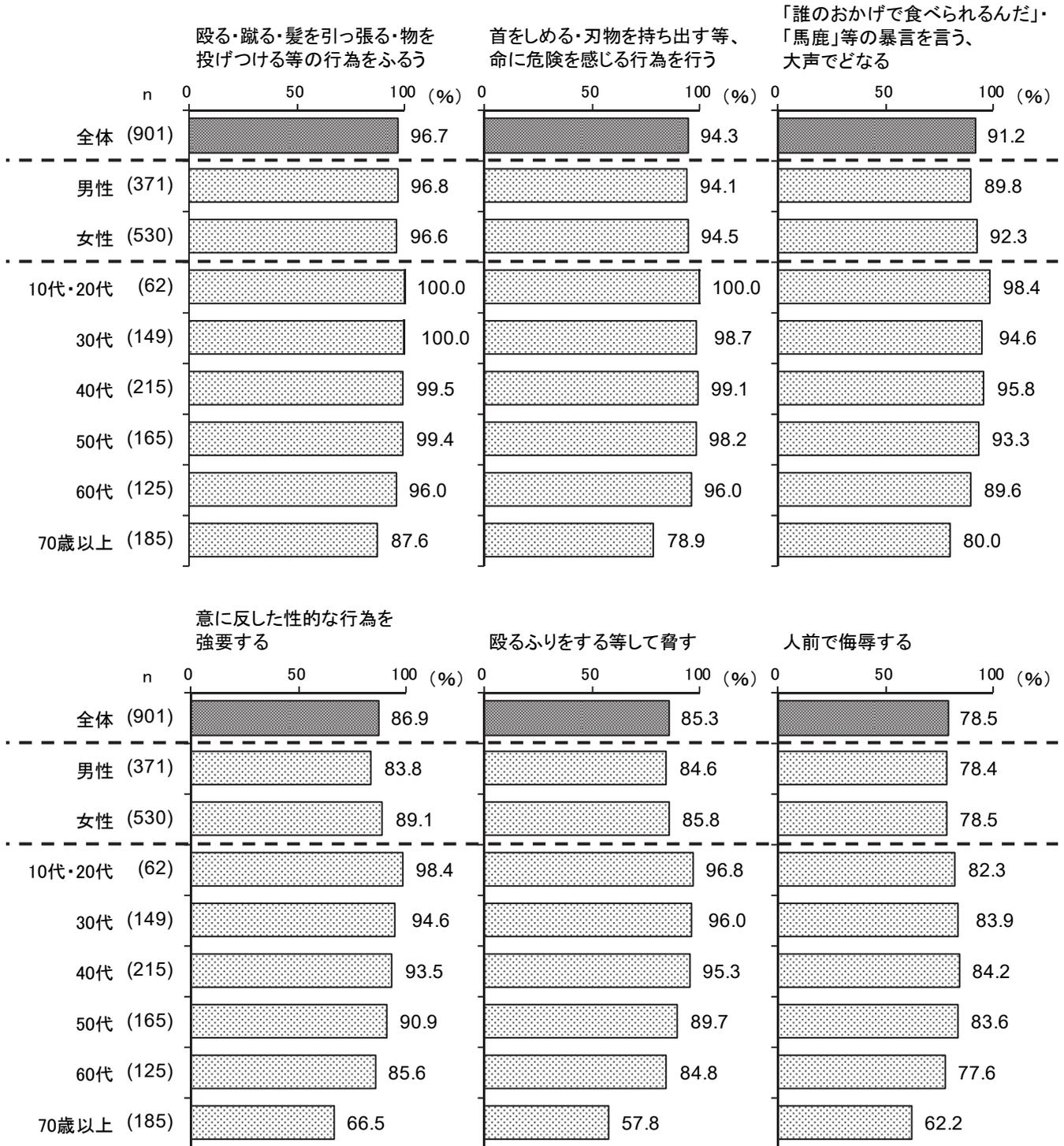


ドメスティック・バイオレンスにあたる行為としては、「殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう」（96.7%）が9割台半ばを超えて最も高く、次いで「首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う」（94.3%）が9割台半ば近く、「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる」（91.2%）が9割強、「意に反した性的な行為を強要する」（86.9%）が8割台半ばを超え、「殴るふりをする等して脅す」（85.3%）が8割台半ばと続いている。

全体で最も低い「他人に配偶者等の悪口を言う」（45.4%）は4割台半ばとなっている。

（図4-6-1）

図4-6-2 DVだと思う行為について
(性別・年代別) 上位6項目



上位6項目について、性別で見ると、「意に反した性的な行為を強要する」は女性（89.1%）が9割弱と、男性（83.8%）を5.3ポイント上回っている。

年代別で見ると、すべての項目で70歳以上が最も低い割合となっており、特に「殴るふりをする等して脅す」（57.8%）が6割未満となっており、全体（85.3%）を27.5ポイント下回っている。（図4-6-2）

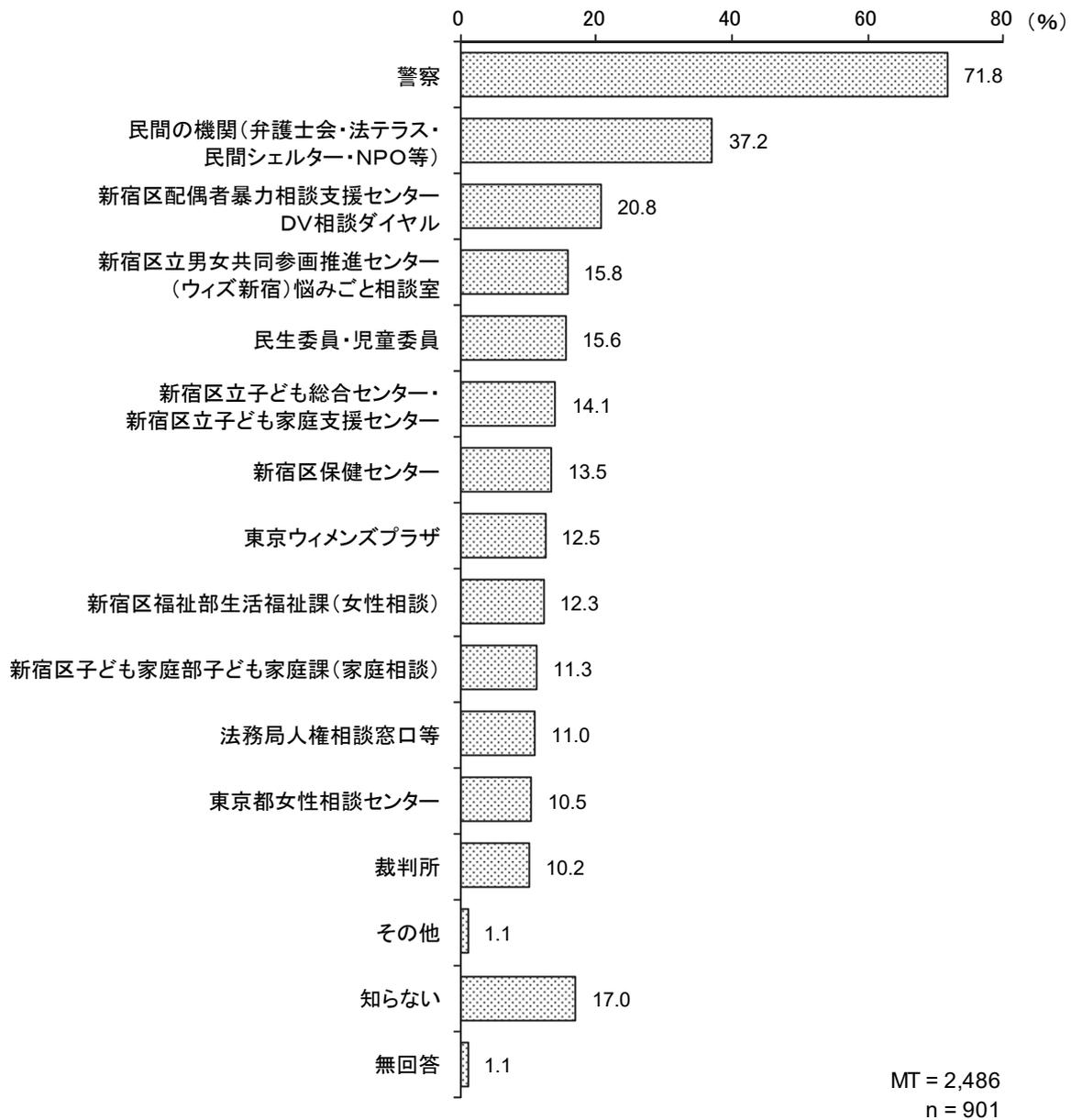
Ⅱ 調査の結果（テーマ4 男女共同参画に関する意識について）

（7）DVについての相談機関の窓口について

◎「警察」が7割強

問19 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。		(n=901)
（あてはまるものにいくつでも○をつけてください）		
1	新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル	20.8%
2	新宿区立男女共同参画推進センター（ウィズ新宿）悩みごと相談室	15.8
3	新宿区福祉部生活福祉課（女性相談）	12.3
4	新宿区子ども家庭部子ども家庭課（家庭相談）	11.3
5	新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター	14.1
6	新宿区保健センター	13.5
7	東京都女性相談センター	10.5
8	東京ウィメンズプラザ	12.5
9	警察	71.8
10	法務局人権相談窓口等	11.0
11	裁判所	10.2
12	民間の機関（弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等）	37.2
13	民生委員・児童委員	15.6
14	その他	1.1
15	知らない	17.0
	無回答	1.1

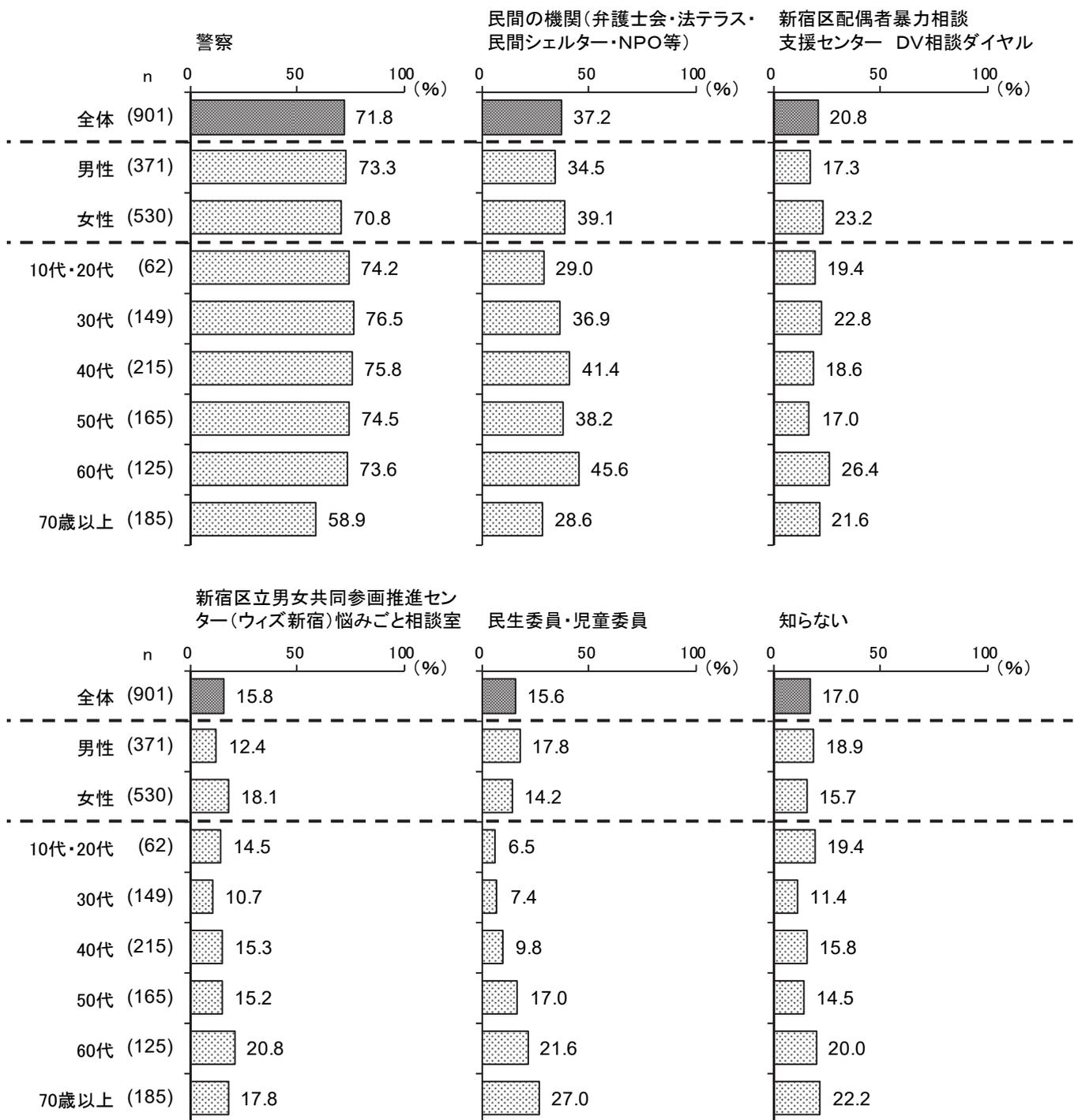
図4-7-1 DVについての相談機関の窓口について



DVについての相談機関の窓口について、「警察」(71.8%)が7割強で最も高くなっている。次いで「民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)」(37.2%)が3割台半ばを超え、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」(20.8%)が約2割と続いている。

一方、「知らない」(17.0%)が1割台半ばを超えている。(図4-7-1)

図4-7-2 DVについての相談機関の窓口について
（性別・年代別）上位5項目+「知らない」



上位5項目と「知らない」について、性別でみると、「新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル」は女性（23.2%）が2割台半ば近くと、男性（17.3%）を5.9ポイント上回っている。

年代別でみると、「民生委員・児童委員」は70歳以上（27.0%）が2割台半ばを超えて高くなっており、全体（15.6%）を11.4ポイント上回っている。（図4-7-2）

(8) 男女共同参画を推進するために必要なことについて

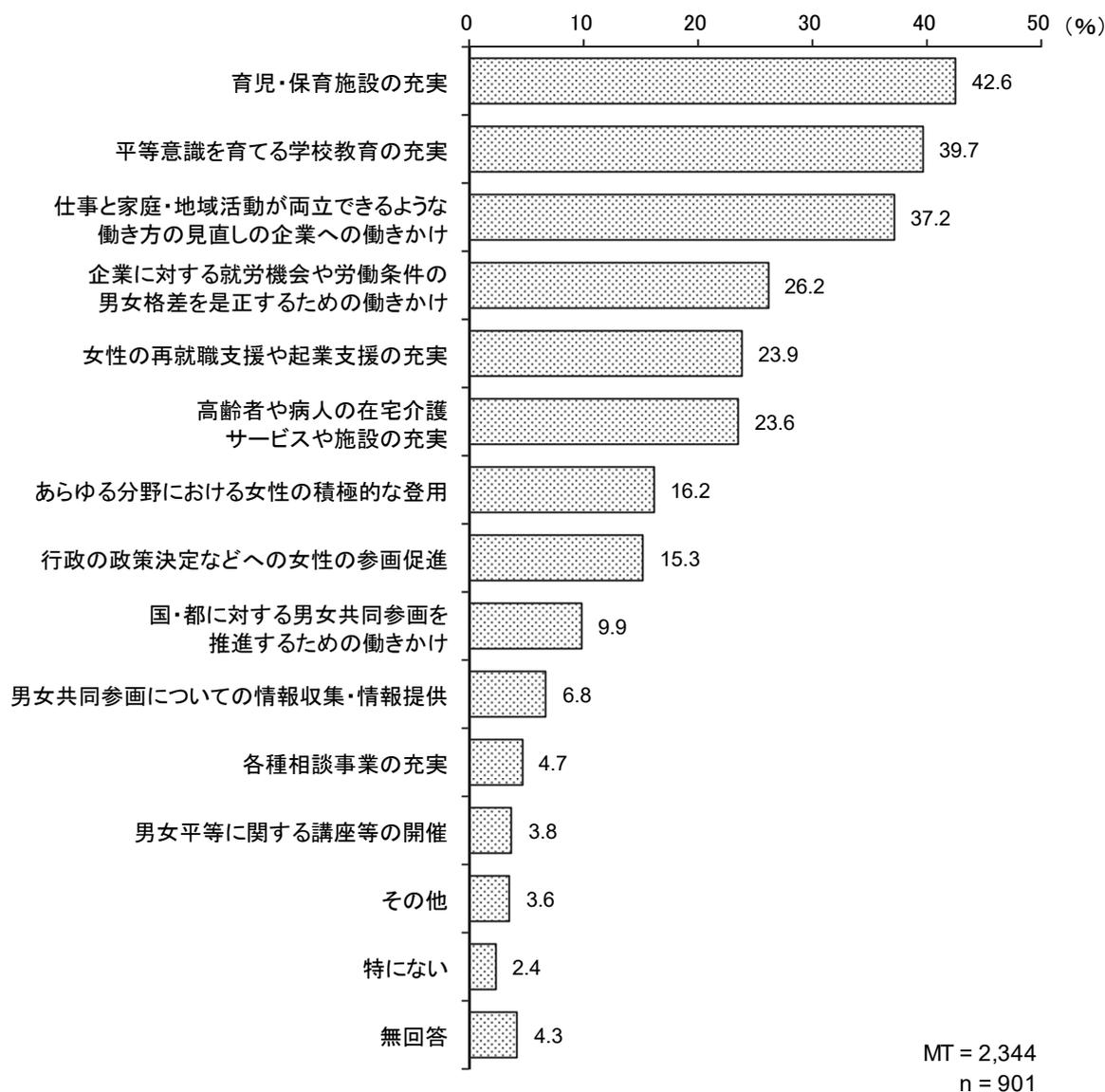
◎「育児・保育施設の充実」が4割強、「平等意識を育てる学校教育の充実」が4割弱

問20 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

	(n=901)
1 平等意識を育てる学校教育の充実	39.7%
2 男女平等に関する講座等の開催	3.8
3 女性の再就職支援や起業支援の充実	23.9
4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ	26.2
5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ	37.2
6 育児・保育施設の充実	42.6
7 あらゆる分野における女性の積極的な登用	16.2
8 行政の政策決定などへの女性の参画促進	15.3
9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実	23.6
10 各種相談事業の充実	4.7
11 男女共同参画についての情報収集・情報提供	6.8
12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ	9.9
13 その他	3.6
14 特にない	2.4
無回答	4.3

図4-8 男女共同参画を推進するために必要なことについて



男女共同参画を推進するために必要なことについて、「育児・保育施設の充実」（42.6%）が4割強で最も高く、次いで「平等意識を育てる学校教育の充実」（39.7%）が4割弱、「仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ」（37.2%）が3割台半ばを超え、「企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ」（26.2%）が2割台半ばを超えと続いている。（図4-8）

Ⅲ 資料（調査票）

令和3年度 新宿区区政モニターアンケート 第1回

- テーマ1 震災に備えて
- テーマ2 新型コロナウイルス感染症流行下の食生活について
- テーマ3 建築物上の緑化について
- テーマ4 男女共同参画に関する意識について

アンケートご記入にあたってのお願い

1. 回答は、**あてはまる番号に○印**をつけてください。設問によって、**1つだけの場合や、あてはまるもの全てに○印をつけていただく場合**などがあります。問いの最後に“(○は1つ)”などと記載してありますので、確認のうえご記入をお願いいたします。
2. **前問の回答によって、次に答える設問が変わる場合があります。**
(例：問1で、「1」に○をした方におたずねします、など)
問いの前文や、回答欄の矢印等の指示に従ってお進みください。
3. 「その他」を選んだ場合には、() 内に具体的な回答をご記入ください。

全てご記入頂けましたら、同封の返信用封筒にて

整理票を取り外さず、

令和3年8月9日（月）までにご返送ください。

※整理票は、ご協力のお礼を発送するために必要なものです。開封後直ちに調査票から切り離しますので、調査票によって個人が特定されることは一切ございません。

問合せ先 新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係
電話 03-5273-4065（直通）
FAX 03-5272-5500
E-Mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp



ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

テーマ1 震災に備えて

地震は、いつどこで発生するかわかりません。地震を防ぐことはできませんが、その被害を抑えることはできます。そのためには、自宅の耐震化や家具転倒防止対策をしておくなど、日頃からの備えが大切です。区では、皆様の住宅の耐震化と家具転倒防止対策についておたずねし、今後の取組の参考にしたいと考えています。

問1 あなたがお住まいの建物について、教えてください。(〇は1つ)

- 1 昭和55年（1980年）以前に建てられた木造住宅
- 2 昭和56年（1981年）以降に建てられた木造住宅
- 3 昭和55年（1980年）以前に建てられた非木造住宅
- 4 昭和56年（1981年）以降に建てられた非木造住宅
- 5 知らない

問2 区では、下記★印の「建築物等耐震化支援事業」を行っています。

あなたはこの事業を知っていますか。(〇は1つ)

【昭和55年（1980年）以前に建った建物に住んでいる方】

- 1 知っている
- 2 聞いたことはあるが、よく知らない
- 3 知らない

【昭和56年（1981年）以降に建った建物に住んでいる方】

- 4 知っている
- 5 聞いたことはあるが、よく知らない
- 6 知らない

★区では、「建築物等耐震化支援事業」として次の事業を行っています。

《 木造建物（住宅系）への支援事業 》	《 非木造建物への支援事業 》
<ul style="list-style-type: none">・ 【無料】耐震診断（予備耐震診断・詳細耐震診断）技術者派遣・ 詳細耐震診断・補強設計への助成・ 耐震改修工事、工事監理への助成	<ul style="list-style-type: none">・ 【無料】耐震アドバイザーの派遣・ 耐震診断、補強設計への助成・ 耐震改修工事への助成

問3 あなたは、お住まいの建物について、耐震診断を受けたいと思いますか。(〇は1つ)

- 1 すでに受けた
- 2 受けたいが、まだ受けていない
- 3 受ける必要はない
- 4 わからない

→ 問3-1へ

問3-1 問3で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震診断を受けていない理由は何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 現在受けていないが、今後受ける予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから
- 10 面倒だから
- 11 その他（)

問4 お住まいの建物が耐震診断の結果で耐震補強が必要な場合、あなたは補強工事を行いたいと思いますか。(○は1つ)

1 すでに補強工事を行った

2 行いたい、まだ行っていない

3 行う必要はない

4 わからない

→ 問4-1へ

問4-1 問4で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

耐震補強工事を行っていない理由は何ですか。

(あてはまるものいくつかでも○をつけてください)

- 1 現在行っていないが、今後行う予定だから
- 2 制度について知らなかったから
- 3 集合住宅のため自分の考えだけではできないから
- 4 建物の所有者が自分ではないから
- 5 昭和56年（1981年）以降に建った新耐震基準の建物だから
- 6 多額の費用がかかるから
- 7 倒壊しないと思うから
- 8 信頼できる業者がないから
- 9 相談したいがどこにいったらよいかわからないから
- 10 自分の家屋を補強しても周辺の家屋も補強しないと意味がないと思うから
- 11 面倒だから
- 12 その他（)

問5 あなたは家具転倒防止器具を取り付けたいと思いますか。(○は1つ)

1 すでに取り付けている

2 取り付けたいが、まだ取り付けしていない

3 取り付ける必要はない

4 わからない

→ 問5-1へ

問5-1 問5で、「2」または「3」に○をした方にお伺いします。

家具転倒防止器具を取り付けていない理由は何ですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

1 現在取り付けしていないが、今後取り付ける予定だから

2 どのような器具を取り付ければよいかわからないから

3 家具や家屋に傷をつけるから

4 取付け作業が難しそうだから

5 お金がかかるから

6 倒れても危険ではないので、効果がないと思うから

7 面倒だから

8 転倒防止が必要な家具がないから

9 その他 ()

問6 あなたは、区が行っている家具転倒防止器具取付け事業(調査費・取付け費無料)を知っていますか。(○は1つ)

1 知っている

2 知らない

テーマ2 新型コロナウイルス感染症流行下の 食生活について

令和2年4月に発出された緊急事態宣言以降は、それ以前と比べ、外で飲食する機会が減り、自宅で食事をする頻度が増えたと言われています。そこで、区では、皆様の食生活がどのように変化したかを把握し、皆様が必要としている食に関する情報の発信や正しい知識の普及に役立てたいと考えています。

- 問7 新型コロナウイルス感染症の流行前と比べて、自宅で食事を用意（入手）する方法に変化がありましたか。ア～ケのそれぞれについて、1～5のうちあてはまるものを選んでください。（ア～ケそれぞれで、1～5に1つだけ〇をつけてください）
※利用したことがないものは、“「3」変化していない”に〇をつけてください。

	大きく増加した	少し増加した	変化していない	少し減少した	大きく減少した
ア 料理を手作りする頻度	1	2	3	4	5
イ 冷凍食品の利用頻度	1	2	3	4	5
ウ インスタント食品の利用頻度	1	2	3	4	5
エ レトルト食品、缶詰の利用頻度	1	2	3	4	5
オ コンビニエンスストアの総菜・弁当の購入頻度	1	2	3	4	5
カ デパートの総菜・弁当の購入頻度	1	2	3	4	5
キ スーパーマーケットの総菜・弁当の購入頻度	1	2	3	4	5
ク ファーストフード・飲食店のテイクアウトの利用頻度	1	2	3	4	5
ケ 出前・フードデリバリーの利用頻度	1	2	3	4	5

問8 新型コロナウイルス感染症流行下の現在、食事を用意（入手）する際、あなたが重視していることは何ですか。（あてはまるものに5つまで○をつけてください）

1 価格、コストパフォーマンス	10 栄養バランス
2 味、おいしさ	11 エネルギー量、カロリー
3 購入（入手）してすぐに食べられること	12 脂肪量
4 調理工程が簡単、調理時間が短いこと	13 糖質量、炭水化物量
5 新鮮さ、安全性	14 たんぱく質量
6 産地、原材料	15 塩分量
7 ボリューム、品数の多さ	16 体に良い効果を期待できること
8 話題性、見た目や写真映えの良さ	17 その他（)
9 野菜の量	18 特にない

問9 区では、皆様の野菜摂取量を増やす取組の1つとして、必要な野菜摂取量の周知を行うとともに、野菜が多く食べられるレシピの紹介（※）をしています。

あなたは、この取組を知っていますか。（○は1つ）

（※）区の広報紙「広報新宿」やYouTubeの区公式チャンネル「新宿区チャンネル」での「野菜に首ったけ！かんたん野菜料理レシピ」、区公式ホームページでの「かんたん！おいしい！野菜料理レシピ」の簡単な野菜料理のレシピを紹介しています。

1 知っていて、レシピを活用したことがある
2 知っているが、レシピを活用したことはない
3 知らない

テーマ3 建築物上の緑化について

区では、都市の緑化を図りみどり豊かな都市をつくるため、みどりを増やす有効な手段である建物の屋上、壁面などの緑化を推進しています。皆様に建物の緑化に関する意向や課題についておたずねし、今後の取組の参考にしたいと考えています。

問10 あなたは新宿で街かどの緑を増やすためには、どのような手法が有効だと思いますか。
(あてはまるものに2つまで○をつけてください)

- 1 生垣など道沿いの緑を増やす
- 2 屋上緑化や壁面緑化など建築物上の緑を増やす
- 3 新築などを行う際に敷地内の緑を増やす
- 4 道から見える自宅の敷地で樹木や草花を育てる
- 5 その他 ()

問11 あなたは建築物上(屋上や壁面、ベランダ等)の緑化を行いたいと思いますか。
(○は1つ)

- 1 すでに行った
- 2 今後、行いたい
- 3 行いたい、行うことができない
- 4 行いたいと思わない
- 5 わからない

1～3の方は、
→ 問11-1～問11-2へ

問11-1 問11で、「2 今後、行いたい」に○をした方にお伺いします。
あなたはどのような緑化を行いたいですか。(○は1つ)

- 1 屋上に植え込みを整備して、樹木や草花、野菜等を植栽する
- 2 屋上にプランターを設置して、樹木や草花、野菜等を植栽する
- 3 建物壁面に植物を誘導するためのネットやメッシュフェンス等を設置して、ツル植物等を植栽する
- 4 建物壁面にはめ込み式の緑化パネルを設置する
- 5 ベランダにプランターを設置して、樹木や草花、野菜等を植栽する
- 6 まだ決めていない
- 7 その他 ()

問 1 1-2 問 1 1で、「1」～「3」に○をした方にお伺いします。

あなたが建築物上の緑化をするにあたり、難しいと感じていることは何ですか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 1 | 植栽の整備にお金がかかる | |
| 2 | 植栽の整備の方法がわからない | |
| 3 | 植栽の維持管理にお金がかかる | |
| 4 | 植栽の維持管理の方法がわからない | |
| 5 | 植栽の維持管理に手間がかかる | |
| 6 | 緑化のためのスペースの確保が難しい | |
| 7 | 建築物の構造上、植栽や緑化資材による重さに耐えられるかわからない | |
| 8 | 建築物の設備等が緑化により汚れてしまう | |
| 9 | その他 () | |
| 10 | 特にない | |

問 1 2 区では、みどり豊かな都市をつくるため、みどりを増やす有効な手段である建物の屋上、壁面等の緑化を推進しており、区内で行う屋上・壁面緑化等をつくる工事費の一部を助成しています。あなたは屋上等緑化助成制度を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | 知っていて、制度を利用したことがある |
| 2 | 知っているが、制度を利用したことはない |
| 3 | 知らない |

テーマ4 男女共同参画に関する意識について

男女共同参画とは、男女が社会の対等な構成員として性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、責任を分かち合いながら、ともにあらゆる分野に参画することをいいます。

皆様から日常生活のなかでの男女共同参画に関する意識や実情をおたずねし、今後の取組の参考とさせていただきます。

問13 あなたは、次のような分野において男女平等だと思いますか。

(ア～クそれぞれで、1～5に1つだけ○をつけてください)

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
ア 家庭生活で	1	2	3	4	5
イ 職場で	1	2	3	4	5
ウ 学校教育の場で	1	2	3	4	5
エ 政治の場で	1	2	3	4	5
オ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5
カ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
キ 地域活動の場で	1	2	3	4	5
ク 社会全体として	1	2	3	4	5

問14 男女共同参画に関する以下の言葉について知っていますか。

(ア～オそれぞれで、1～3に1つだけ○をつけてください)

	知っている	言葉は聞いたことがあるが意味は知らない	知らない
ア 性別役割分担 ※性別によって男女で固定的な役割を分担すること	1	2	3
イ DV (ドメスティック・バイオレンス) ※配偶者やパートナーからの暴力	1	2	3
ウ デートDV ※恋人など親密な関係にある相手からの暴力	1	2	3
エ 性的マイノリティ (LGBT等)	1	2	3
オ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3

問15 働いているすべての方にお伺いします。

あなたは、現在の仕事と生活のバランスに満足していますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1 たいへん満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 ほぼ満足している | 4 まったく満足していない |

問16 男女とも働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- | |
|------------------------------|
| 1 男女ともに労働時間の短縮をはかること |
| 2 男女ともに家事・育児・介護に参加すること |
| 3 男女ともに仕事に対する責任感をより高めること |
| 4 男女ともに技術・能力を高めること |
| 5 職場での男女の雇用機会・昇進・待遇を均等にすること |
| 6 職場でのハラスメント対策が取られていること |
| 7 出産後などに職場復帰できる制度が整備・充実されること |
| 8 育児・介護休業制度が整備・充実されること |
| 9 その他 () |
| 10 特に重要だと思うことはない |

問17 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という固定的な性別役割分担の考え方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 3 どちらかといえば反対 |
| 2 どちらかといえば賛成 | 4 反対 |
| | 5 わからない |

問18 ドメスティック・バイオレンス(配偶者等からの暴力。以下、「DV」という)について、DVだと思う行為は次のうちどれですか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 何を言っても無視する |
| 2 行動を制限する |
| 3 交友関係やメールをチェックする |
| 4 「誰のおかげで食べられるんだ」・「馬鹿」等の暴言を言う、大声でどなる |
| 5 人前で侮辱する |
| 6 他人に配偶者等の悪口を言う |
| 7 大切な物をわざと壊す |
| 8 殴るふりをする等して脅す |
| 9 殴る・蹴る・髪を引っ張る・物を投げつける等の行為をふるう |
| 10 首をしめる・刃物を持ち出す等、命に危険を感じる行為を行う |
| 11 自由になるお金を制限する |
| 12 意に反した性的な行為を強要する |
| 13 無理やりポルノ等を見せる |
| 14 避妊に協力しない |
| 15 どれもあたらない |

問19 DVについての相談機関の窓口を知っていますか。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

- 1 新宿区配偶者暴力相談支援センター DV相談ダイヤル
- 2 新宿区立男女共同参画推進センター(ウィズ新宿)悩みごと相談室
- 3 新宿区福祉部生活福祉課(女性相談)
- 4 新宿区子ども家庭部子ども家庭課(家庭相談)
- 5 新宿区立子ども総合センター・新宿区立子ども家庭支援センター
- 6 新宿区保健センター
- 7 東京都女性相談センター
- 8 東京ウィメンズプラザ
- 9 警察
- 10 法務局人権相談窓口等
- 11 裁判所
- 12 民間の機関(弁護士会・法テラス・民間シェルター・NPO等)
- 13 民生委員・児童委員
- 14 その他()
- 15 知らない

問20 今後、男女共同参画を進めるために、区にどのようなことを期待しますか。

(あてはまるものに3つまで○をつけてください)

- 1 平等意識を育てる学校教育の充実
- 2 男女平等に関する講座等の開催
- 3 女性の再就職支援や起業支援の充実
- 4 企業に対する就労機会や労働条件の男女格差を是正するための働きかけ
- 5 仕事と家庭・地域活動が両立できるような働き方の見直しの企業への働きかけ
- 6 育児・保育施設の充実
- 7 あらゆる分野における女性の積極的な登用
- 8 行政の政策決定などへの女性の参画促進
- 9 高齢者や病人の在宅介護サービスや施設の充実
- 10 各種相談事業の充実
- 11 男女共同参画についての情報収集・情報提供
- 12 国・都に対する男女共同参画を推進するための働きかけ
- 13 その他()
- 14 特にない

—— 引き続き、回答者の属性のご記入をお願いします ——

※調査結果を統計処理する際に必要ですので、次ページ以降の回答者の属性もご記入ください。

※調査票についている「整理票」は、ご協力のお礼をお送りするために必要ですので、取り外さずにそのままご返送ください。区に到着後、整理票は調査票から取り外して保管しますので、調査票から個人が特定されることはございません。

回答者の属性

問ア あなたのお住まいの地域（所管する特別出張所の地域）をお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|-------|-----------|
| 1 四谷 | 6 戸塚 |
| 2 簗笥町 | 7 落合第一 |
| 3 榎町 | 8 落合第二 |
| 4 若松町 | 9 柏木 |
| 5 大久保 | 10 角筈・区役所 |

問イ 性別をお答えください。（〇は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問ウ あなたの年齢（満年齢）を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 8 50～54歳 |
| 2 20～24歳 | 9 55～59歳 |
| 3 25～29歳 | 10 60～64歳 |
| 4 30～34歳 | 11 65～69歳 |
| 5 35～39歳 | 12 70～74歳 |
| 6 40～44歳 | 13 75～79歳 |
| 7 45～49歳 | 14 80歳以上 |

問エ あなたのご職業を、次の中からお選びください。（〇は1つ）

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1 会社員・団体職員 | → 問エ-1へ |
| 2 会社役員・団体役員 | |
| 3 パート・アルバイト、非常勤、嘱託、派遣など | |
| 4 自営業、自由業（開業医、弁護士、司法書士なども含む） | |
| 5 学生 | |
| 6 専業主婦・主夫 | |
| 7 無職 | |
| 8 その他（ ） | |

問エー1 問エで、「1」～「5」に○をした方にお伺いします。現在のあなたの職場・学校はどこにありますか。(○は1つ)

1 新宿区内	2 新宿区外
--------	--------

問オ 現在、あなたは誰かと同居していますか。同居している場合は、あなたからみた続柄で、同居している方すべてに○をしてください。

(あてはまるものにいくつでも○をつけてください)

<table border="1"><tr><td>1 子</td></tr><tr><td>2 妻または夫</td></tr><tr><td>3 親</td></tr><tr><td>4 祖父母</td></tr><tr><td>5 孫</td></tr><tr><td>6 兄弟姉妹</td></tr><tr><td>7 その他 ()</td></tr><tr><td>8 ひとり暮らし</td></tr></table>	1 子	2 妻または夫	3 親	4 祖父母	5 孫	6 兄弟姉妹	7 その他 ()	8 ひとり暮らし	1～7の方は、 → 問オー1～問オー2へ
1 子									
2 妻または夫									
3 親									
4 祖父母									
5 孫									
6 兄弟姉妹									
7 その他 ()									
8 ひとり暮らし									

問オー1 問オで、「1」～「7」に○をした方にお伺いします。同居している人は、あなたを除いて全員で何人ですか。

【 】の中に人数を記入してください。

同居している人は、あなた+【 】人

問オー2 問オで、「1 子」に○をした方にお伺いします。同居している子の就学状況は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1 一番上の子が小学校入学前	3 一番上の子が高・大学生
2 一番上の子が小・中学生	4 一番上の子が学校を卒業

問カ あなたは新宿区に住んで何年になりますか。(○は1つ)

1 1年未満	5 10年以上20年未満
2 1年以上3年未満	6 20年以上30年未満
3 3年以上5年未満	7 30年以上
4 5年以上10年未満	

問キ 現在のあなたの住宅の形態は、次のうちどれですか。(〇は1つ)

一戸建て	集合住宅
1 持ち家の一戸建て	5 分譲マンション・アパート (自己所有のものを含む)
2 賃貸の一戸建て	6 賃貸マンション・アパート
3 社宅・公務員官舎の一戸建て	7 賃貸のUR都市機構(旧公団) ・公社のマンション・アパート
4 その他 ()	8 賃貸の都営・区営住宅
	9 社宅・公務員官舎
	10 その他 ()

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

お手数をおかけしますが、同封の返信用封筒にて、

整理票を取り外さず、

8月9日(月)までに、ご返送ください。

(返送・問合せ先)

〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1

新宿区総合政策部 区政情報課 広聴係

電話 03-5273-4065 (直通)

FAX 03-5272-5500

E-mail kuseijoho@city.shinjuku.lg.jp

令和3年度第1回新宿区区政モニターアンケート

令和3年11月発行

編集・発行

新宿区総合政策部区政情報課広聴係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話(03)5273-4065(直通)

印刷物作成番号

2021-16-2106

この印刷物は、業者委託により320部印刷製本しています。その経費として、1部あたり330円(税込み)がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送経費などは含んでいません。